

ISSN 1345-580X

社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology

Vol. 3.

2000

日本社会学会データベース委員会
Database Committee, Japan Sociological Society

1999年発行のVol.1, 2001年発行のVol.2に続き、『社会学文献目録』Vol.3を発行できる運びとなった。この号は約1,250の文献を含み、2000年に発行された社会学文献を収録している。

社会学文献に関する情報は、現在主として下記のウェブサイトを通して提供されているが、同時に冊子目録という形で文献情報の提供も依然として価値を失っていないと、データベース委員会では判断している。ウェブサイトを通して得られる文献情報とは時間的なずれがあるが、冊子形式の持つ一覧性と保存性の高さは依然として捨てがたい長所である。文献配列については、本冊子の前身である、『社会学評論』掲載の文献目録の方式を引継ぎ、書式は、Vol.2までの改善（目次の付与、国際化対応等）を踏襲した。Vol.3での改善点としては、日本社会学会の和文機関誌である『社会学評論』の掲載論文すべてを、本冊子に掲載したことである。従来は文献調査への無回答による欠落が多かったが、データベース委員会独自でデータを作成・提供している、国立情報学研究所の「学術雑誌目次速報データベース」の収録データを再編集し、全記事を「社会学文献情報データベース」に補足した。（なお、欧文機関誌である *International Journal of Japanese Sociology (IJJS)* については、昨年発行したVol.2より、掲載論文すべてを本冊子に収録）。

本冊子の発行にあたり、文献調査にご回答いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。また、編集には当データベース委員会発足時から作業に携わって下さっている専門委員の方々の知識と献身に負うところがきわめて大きい。財政的には、1997年以来、文部科学省（旧、文部省）科学研究費研究成果公開促進費<データベース>の助成に多くを負っている。委員会として特に記して感謝の意を表する次第である。

文献目録の作成は予想をはるかに超えて煩雑な作業である。現在のところかなりの時間が記入漏れ部分の補足、誤記の訂正、といった作業に費やされている。こうした作業はデータベースを作成する上では欠かすことのできないものであるが、そうした不備の件数が減少すればそれだけは作業が容易になるということも事実である。学会員諸氏の一層のご配慮とご協力をお願いする次第である。

本冊子についてお気づきの点がありましたら下記の直轄サイトにお知らせ下されば幸いです。

【1】「社会学文献情報データベース」の検索サービス（2002年10月現在）

・直轄サイト[どなたでも無料で利用できます]

・富山大学サイト <http://www.hmt.toyama-u.ac.jp/socio/jss/>

(データの補足・修正・重複報告も受付)

・東北大学サイト <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/sociodb/>

(本冊子やデータベースについてのご意見も受付)

・国立情報学研究所 [利用登録をした機関・個人のみ利用できます]

NACSIS-IR <http://www.nii.ac.jp/ir/ir-j.html>

【2】「学術雑誌目次速報データベース」の目次ページ (国立情報学研究所)

[下記はどなたでも無料で利用できます]

・『社会学評論』目次：<http://www.nii.ac.jp/sokuho/articles/VAN00109823.html>

・IJJS 目次：<http://www.nii.ac.jp/sokuho/articles/VAA1104725X.html>

【3】本冊子の収録内容

・収録範囲

次の1)~3)の文献のうち、2000年に刊行された文献。ただし本冊子では、文献資料種別が「IV. その他」の著作(書評等;書評論文は収録)は紙幅の関係で割愛した。

1) 日本社会学会・社会学関連学会(現在は家族社会学会のみ)会員著作の社会学関係文献(学会員への文献調査回答に基づく)

2) 『社会学評論』の掲載記事

3) *International Journal of Japanese Sociology (IJJS)* の掲載記事

・掲載件数： 約 1,000 件

・字体： ウェブサイトでは表示が困難な JIS 第1・2水準外の文字(拡張漢字、中国等の漢字、ハングル、アクサン等の音標符号付アルファベット、等)も本来の表記で印刷。

目 次 (CONTENTS)

はしがき (Preface)	i
I. 著書・編書の部 (Books)	1
II. 翻訳の部〔日本語訳〕 (Translations into Japanese)	4
III. 論文の部 (Articles)	5
1. 社会哲学・社会思想・社会学史 (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology)	5
2. 一般理論 (General Theory)	8
3. 社会変動論 (Social Change)	10
4. 社会集団・組織論 (Social Group, Organization)	10
5. 階級・階層・社会移動 (Class, Stratification, Social Mobility)	11
6. 家 族 (Family)	13
7. 農漁山村・地域社会 (Rural/Fishing/Mountain Village, Community)	16
8. 都 市 (Urban Society)	18
9. 生活構造 (Life Structure)	20
10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations)	20
11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior)	21
12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor)	21
13. 人 口 (Population)	22
14. 教 育 (Education)	23
15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality)	25
16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness)	26
17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol)	27
18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems)	29
19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care)	31
20. 計画・開発 (Planning, Development)	32
21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology)	33
22. 経 済 (Economy).....	33
23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History)	33
24. 法 律 (Law)	34
25. 民族問題・ナショナリズム (Ethnic Problems, Nationalism)	34
26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕 (Comparative Study, Area Study)	35
27. 差別問題 (Discrimination Problems)	36
28. 性・世代 (Gender, Generation)	37
29. 知識・科学 (Knowledge, Science)	38
30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports)	38
31. 環 境 (Environment)	39
33. 総論・概説 (Sociology, General)	40
99. その他 (Others)	40

I. 著書・編書の部 (Books)

- 安立清史『病院ボランティアの調査：医療・福祉機関によるボランティア受け入れシステムに関する調査・研究』(92p. 九州大学大学院人間環境学研究所)
- 間場寿一(編)『講座社会学9：政治』(265p. 東京大学出版会 3000円)
- 赤木 攻・北原 淳・竹内隆夫(編)『続・タイ農村の構造と変動』(ix+455p. 勁草書房)
- 天野正子(編)『ジェンダーの視点に立った若もののライフスタイルの変容を促す学習に関する研究：青年期に焦点をあてて』(361p. 進藤企画)
- 安藤喜久雄(編)『企業社会の構図』(196p. 学文社 2500円)
- 青木秀男『現代日本の都市下層：寄せ場と野宿者と外国人労働者』(305p. 明石書店 4800円)
- 有本 章(編)『学部教育改革の展開(高等教育研究叢書60)』(182p. 広島大学大学教育研究センター 非売品)
- Arimoto, Akira; Keith, Morgan. 'Higher Education Reform for Quality Higher Education Management in the 21st Century: Economic, Technological, Social and Political Forces Affecting Higher Education' 183p. Higashiroshima: Research Institute for Higher Education, Hiroshima University.
- 朝水宗彦『オーストラリアのエスニシティ』(287p. 文芸社 1400円)
- 江原武一『多文化教育の国際比較：エスニシティへの教育の対応』(349p. 玉川大学出版部 6700円)
- 江原由美子『フェミニズムのパラドックス』(322p. 勁草書房 3000円)
- 藤崎宏子『親と子：交錯するライフコース』(364p. ミネルヴァ書房 3400円)
- 藤田弘夫『奥井復太郎：都市社会学と生活論の創始者』(xiii+162p. 東信堂 1800円)
- 藤田弘夫・西原和久(編)『権力から読みとく現代人の社会学・入門[増補版]』(334p. 有斐閣)
- 富士田邦彦(編)『福祉社会を築く：21世紀日本の展望』(205p. 文理閣 1400円)
- 富士田邦彦『集団と国家の社会学』(195p. 文理閣 2500円)
- 藤竹 暁(編)『劇場型社会』(209p. 至文堂 1381円)
- 藤竹 暁(編)『現代人の居場所』(250p. 至文堂 2400円)
- 藤竹 暁(編)『図説 日本のマスメディア』(294p. 日本放送出版協会 1160円)
- 藤竹 暁(編)『流行/ファッション』(231p. 至文堂 2400円)
- 藤竹 暁『消費としてのライフスタイル』(257p. 至文堂 2400円)
- 藤山嘉夫『諸個人の生と近代批判の思想』(x+247p. 学文社 2800円)
- Fukuoka, Yasunori. 'Lives of Young Koreans in Japan' 38+330p. Melbourne: Trans Pacific Press. 39.95AU\$
- 福岡安則『聞き取りの技法：〈社会学する〉ことへの招待』(195p. 創土社 2000円)
- 船津 衛『ジョージ・H・ミード』(168p. 東信堂 1800円)
- 船津 衛『災害時における情報システムと地域メディア』(120p. 文部省科学研究費報告書)
- 原 純輔『日本の階層システム1：近代化と社会階層』(266p. 東京大学出版会 2800円)
- 挾本佳代『社会システム論と自然：スペンサー社会学の現代性』(358p. 法政大学出版局 4300円)
- 橋本和幸『高齢化社会と生活選択に関する総合的研究：北陸地域と東海地域の比較』(vi+208p. 金沢大学文学部社会学研究室 非売品)
- 橋本 努・橋本直人・矢野善郎(編)『マックス・ヴェーバーの新世紀：変容する日本社会と認識の転回』(378p. 未来社 3800円)
- 橋爪大三郎『こんなに困った北朝鮮』(269p. メタログ 1500円)
- 橋爪大三郎『現代日本文化が中国に及ぼす影響の調査研究』(176p. 文部省)
- 橋爪大三郎『言語派社会学の原理』(297p. 洋泉社 2900円)
- 橋爪大三郎『幸福のつくりかた』(296p. ポット出版 1900円)
- 橋爪大三郎・他『三島由紀夫VS東大共闘1969-2000』(272p. 藤原書店 2800円)
- 橋爪大三郎・加藤典洋・竹田青嗣『天皇の戦争責任』(558p. 径書房 2900円)
- 島中宗一(編)『家庭的保育のすすめ』(220p. 至文堂 1381円)
- 島中宗一(編)『臨床社会学の展開』(212p. 至文堂 1381円)
- 島中宗一『家族臨床の社会学』(238p. 世界思想社 2200円)
- 島中宗一『子ども家族支援の社会学』(226p. 世界思想社 2200円)
- 早川善治郎(編)『概説マス・コミュニケーション(第二版)』(352p. 学文社 3300円)
- 樋口晟子『「家族」と「個人」の相克：平等再考』(287p. 東北大学出版会 3000円)
- 平田順治『農村生産集団成立過程の研究』(540p. 行路社 6000円)
- 平塚千尋『災害情報とメディア』(254p. リベルタ出版 2000円)
- 広井 脩・船津 衛(編)『情報通信と社会心理』(203p. 北樹出版 2200円)
- 堀内隆治・小川全夫『高齢社会の地域政策：山口県からの提言』(246p. ミネルヴァ書房 2800円)
- 橋本和孝・吉原直樹(編)『都市社会計画と都市空間：盛岡市のまちづくりを中心に』(220p. 御茶の水書房 3800円)
- 伊賀光屋『産地の社会学』(625p. 多賀出版 9500円)

- 飯田哲也・浜岡政好・早川洋行・林 彌富(編)『応用社会学のすすめ』(283p. 学文社 2700円)
- 飯島伸子『環境問題の社会史』(320p. 有斐閣 2100円)
- 今城義隆『中小企業の雇用・労働条件等に関する実態調査結果報告(平成12年度.大阪府)』(66p. 大阪府中小企業労務改善集団連合会)
- 井上治代『墓をめぐる家族論』(222p. 平凡社 680円)
- 井上 俊『スポーツと芸術の社会学』(202p. 世界思想社 1900円)
- 井上孝夫(編)『環境社会学のあり方を問う：環境社会学研究第7集』(76p. 千葉大学教育学部社会学研究室 非売)
- 石戸教嗣『ルーマンの教育システム論』(256p. 恒星社厚生閣 3800円)
- 石原邦雄『家族と生活ストレス』(265p. 放送大学教育振興会 2600円)
- 石原照敏・吉兼秀夫・安福恵美子『新しい観光と地域社会』(121p. 古今書院 2500円)
- 嘉田由紀子・植田 劭・山田國廣『共感する環境学：地域の人びとに学ぶ』(iv+250p. ミネルヴァ書房 2500円)
- 嘉田由紀子・遊磨正秀『水辺遊びの生活学：琵琶湖地域の三世代の語りから』(210p. 農山漁村文化協会 1714円)
- 甲斐健人『高校部活の文化社会学的研究：「身体資本と社会移動」研究序説』(197p. 南窓社 5524円)
- 亀山佳明・麻生 武・矢野智司(編)『野性の教育をめざして：子どもの社会化から超社会化へ』(新曜社)
- 神原文子『教育と家族の不平等問題：被差別部落の内と外』(x+270p. 恒星社厚生閣)
- 神原文子・高田洋子(編)『教育期の子育てと親子関係』(xi+305p. ミネルヴァ書房 3400円)
- 櫻村愛子・井桁 碧『新宗教の女性教祖と日本近代国家：「『日本』国家と女』』(426p. 青弓社 3600円)
- 櫻村愛子・大村英昭・野口裕二『自己啓発セミナー臨床社会学：「臨床社会学のすすめ』』(252p. 有斐閣 1700円)
- 片桐雅隆『自己と「語り」の社会学』(258p. 世界思想社 2300円)
- 片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』(260p. 新曜社 2400円)
- 片岡栄美(編)『階層文化とライフスタイルの社会学的研究：日本の中流階層のハビトゥスと「場」の文化の効果』(156p. 平成9年度～平成11年度科学研究費補助金研究成果報告書(「ライフスタイルと文化」研究会))
- 葛山泰央『友愛の歴史社会学：近代への視角』(+xxiii+365p. 岩波書店 3200円)
- 木村邦博(編)『合理的選択理論の社会学的再構成(平成9～11年度科学研究費補助金研究成果報告書)』(362p. 東北大学文学部行動科学研究室)
- 北村和夫『環境教育と学校の変革：ひとりの教師として何ができるか』(366p. 農山漁村文化協会 2762円)
- 小林淳一・三隅一人・平田 暢・松田光司『社会のメカニズム [第2版]』(160p. ナカニシヤ出版 2500円)
- 小浜ふみ子『質屋の社会史2：日本の展開』(ii+99p. 愛知大学経営総合科学研究所)
- 駒井 洋(編)『日本の社会知の死と再生：集団主義神話の解体』(365p. ミネルヴァ書房 3800円)
- 駒井 洋・渡戸一郎・山脇啓造(編)『超過滞在外国人と在留特別許可：岐路に立つ日本の出入国管理政策』(106p. 明石書店 900円)
- 黒柳晴夫(編)『沖縄県ヤンバル地方の高齢者の保健福祉に関する研究事業報告書』(144p. 長寿社会開発センター(財団法人))
- 桑原 司『社会過程の社会学：ハーバート・ブルーマーのシンボリック相互作用論における社会観再考』(104p. 関西学院大学出版会 4500円)
- 李 叟珍『賃金決定制度の韓日比較：企業別交渉制度の異なる実態』(264p. 梓出版社 3000円)
- 李 天国『移動する新疆ウイグル人と中国社会：都市を結ぶダイナミズム』(ix+397p. ハーベスト社 3800円)
- 町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』(366p. 有斐閣 2300円)
- 前納弘武(編)『離島とメディアの研究：小笠原篇』(339p. 学文社 5714円)
- 真鍋祐子『光州事件で読む現代韓国』(265p. 平凡社 2500円)
- ましこヒデノリ『たたかひの社会学：悲喜劇としての競争社会』(310p. 三元社 2500円)
- 松田 博・姜玉楚・田畑稔・ジョゼッペ・ヴァッカ・ジェセフ・ブッテジジ(編)『グラムシは世界でどう読まれているか』(社会評論社)
- 目黒輝美『障害者運動と福祉：国際比較による障害者エンパワーメント』(188p. 恒星社厚生閣 2800円)
- 目黒依子・矢澤澄子(編)『少子化時代のジェンダーと母親意識』(224p. 新曜社 3800円)
- 三重野 卓『「生活の質」と共生』(247p. 白桃書房 2300円)
- 三重野 卓・平岡公一(編)『福祉政策の理論と実際：福祉社会学研究入門』(275p. 東信堂 3000円)
- 三木 英(編)『社会の危機と宗教の可能性：阪神大震災被災地における宗教の実証的研究』(125p.)
- 南 保輔『海外帰国子女のアイデンティティ：生活経験と通文化的人間形成』(東信堂 3800円)
- Mitsuda, Hisayoshi; Spaargaren, G.; Mol, A. 'Ecological Modernisation Theory: Readers' 380p. Wageningen University Press.
- 森 真一『自己コントロールの檻：感情マネジメント社会の現実』(252p. 講談社 1500円)
- 森岡清志(編)『都市社会のパーソナルネットワーク』(294p. 東京大学出版会 6500円)
- 森岡清志『都市社会の人間関係』(197p. 放送大学教育振興会 2200円)

- 村井忠政『日系カナダ人女性の生活史：南アルバータ・日系人社会に生まれて』(350p. 明石書店 2900円)
- 中垣昌美『新訂 社会福祉学の基礎』(218p. さんえい出版)
- 中川 清『日本都市の生活変動』(457p. 勁草書房 6500円)
- 中川昌代・藤原潤一・安田睦子・和田佳子・椿 明美・平賀明子・久川洋子・佐々木邦子『働く女性』(221p. 文真堂 2600円)
- 中村 功・橋元良明・他『インターネット、携帯電話・PHSの高度利用に関する調査研究』(マルチメディア振興センター報告書)
- 中田 実(編)『世界の住民組織：アジアと欧米の国際比較』(287p. 自治体研究社 2400円)
- 難波功士『「広告」への社会学』(249p. 世界思想社 2000円)
- 難波孝志・富田英典・森谷 健(編)『社会学フォーラム：落着かない〈私〉と〈社会〉』(205p. 福村出版 2100円)
- 那須 壽(編)『60年安保：インタビュー調査報告書』(470p. 早稲田大学文学部社会学研究室 非売品)
- 夏刈康男・石井秀夫・宮本和彦『家族からみる現代社会』(237p. 八千代出版 2700円)
- ニフティ訴訟を考える会(編)『反論：ネットワークにおける言論の自由と責任』(400p. 光芒社 2800円)
- 日本婦人問題懇話会会報アンソロジー編集委員会『社会変革をめざした女たち』(350p. ドメス出版 3500円)
- 日本社会学会データベース委員会(編)『社会学文献目録Vol.1(1998年版)』(49p. 日本社会学会 非売品)
- 新倉 修・横山 実(編)『澤登俊雄先生古稀祝賀論文集・少年法の展望』(iii+550p. 現代人文社 12000円)
- 西山俊彦『カトリック教会の戦争責任』(193p. サンパウロ 1600円)
- 野田陽子『学校化社会における価値意識と逸脱現象』(218p. 学文社 2800円)
- 野宮大志郎・池 周一郎・稲葉昭英・杉野 勇(編)『SASプログラミングの基礎：A Gentle Introduction』(219p. ハーベスト社 2800円)
- 落合恵美子『近代家族の曲がり角』(280p. 角川書店 2800円)
- 小川全夫『高齢者サービスの利用と満足の研究：評価調査手法の日米協議』(103p. 九州大学人間環境学研究所 非売品)
- 小川全夫『高齢者サービスの利用と満足の研究報告書』(98p. 財団法人長寿社会開発センター 非売品)
- 小木曾道夫『組織と集合行動における自己組織化と自己生産：プリコラージュなリズム』(179p. 夢窓庵 950円)
- 奥田道大『都市社会学の眼』(175p. ハーベスト社 2200円)
- 奥田道大・鈴木久美子(編)『アジア・フロンティアとしての 新宿・池袋、1988-1998：アジア系ニューカマーズ調査1997・98年版集正(調査研究書)』(265p. 中央大学文学部社会学科研究室 非市販)
- 奥山真知・加納弘勝(編)『地域研究入門(4)：中東・イスラム社会研究の理論と技法』(238p. 文化書房博文社 2200円)
- 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所(編)『日本版 General Social Surveys(JGSS)第1回予備調査基礎集計表・コードブック』(大阪商業大学比較地域研究所 非売品)
- 大谷栄一・川又俊則・菊池裕生(編)『構築される信念：宗教社会学のアクチュアリティを求めて』(185p. ハーベスト社 2600円)
- 大谷信介(編)『都市住民の居住特性別パーソナル・ネットワーク：4都市居住類型別調査報告書』(196p. 関西学院大学社会学部大谷研究室)
- 大山 博・炭谷 茂・武川正吾・平岡公一(編)『福祉国家への視座』(305p. ミネルヴァ書房 3600円)
- 佐藤康行・内田 健『山村の家族ネットワークと地域生活：新潟県東頸城郡安塚町の現状』(158p. 財団法人日本積雪連合)
- 里深文彦・イアン・インクスター(編)『近代日本における文化と技術』(xii+169p. アイ・ビ・タウリス 7889円)
- 清水新二(編)『家族問題：危機と存続』(340p. ミネルヴァ書房 3400円)
- 数土直紀『自由の社会学理論』(309p. 多賀出版 6600円)
- 住田正樹『子どもの仲間集団の研究(第2版)』(556p. 九州大学出版会 8400円)
- 平 英美・中河伸俊(編)『構築主義の社会学：議論と論争のエスノグラフィー』(334p. 世界思想社 2300円)
- 田嶋淳子『上海：甦る世界都市』(271p. 時事通信社 2800円)
- 高田昭彦『第5期武蔵野市コミュニティ市民委員会答申』(24p. 武蔵野市)
- 高橋勇悦・大坪省三(編)『社会変動と地域社会の展開』(199p. 学文社 2300円)
- 武川正吾・佐藤博樹『企業保障と社会保障』(282p. 東京大学出版会 4600円)
- 竹村和久(編)・高木 修(監修)『消費行動の社会心理学』(179p. 北大路書房 2500円)
- 竹下修子『国際結婚の社会学』(195p. 学文社 2500円)
- 田中尚輝・安立清史『高齢者NPOが社会を変える』(62p. 岩波書店)
- 田中重人『性別分業の分析：その実態と変容の条件』(vi+106p. 関西学院大学出版会 4286円)
- 谷 富夫(編)『民族関係における結合と分離の社会的メカニズム』(806p. 大阪市立大学文学部 無料)
- 東京女性財団(編)・大谷恭子・牟田和恵・樹村みのり・池上花英『セクシャルハラスメントのない世界へ』(221p. 東京女性財団 1000円)
- 富田英典・森谷 健(編)『社会学フォーラム：落着けない〈私〉と〈社会〉』(205p. 福村出版 2100円)

- 鳥越皓之(編)『環境ボランティア・NPOの社会学』(212p. 新曜社)
- 戸島信一『家族農業経営の再生産機構』(200p. 九州大学出版会 4000円)
- 戸塚秀夫・榎本 環(編)『イギリスの工場調査の経験から』(62p. 早稲田大学人間科学部産業社会学研究会 非売品)
- 坪内良博(編)『地域形成の論理』(348p. 京都大学学術出版会 4200円)
- 土屋礼子(編・解説)『日本錦絵新聞集成』(CD-ROM 文生書院 36000円)
- 辻 正二『高齢者ラベリングの社会学：老人差別の調査研究』(296p. 恒星社厚生閣 4200円)
- 辻原 憲『私の考える教育改革』(28p. ハーベスト社 500円)
- 筒井清忠『時代劇映画の思想：ノスタルジーのゆくえ』(212p. PHP研究所 660円)
- Tsutsumi.Masae(ed.). 'Women and Families in Rural Japan' 141p. Tokyo: Tsukuba-Shobo. 10000円
- 鶴飼照喜(編)『豊野町防災調査報告書(社会編)』(99p. 信州大学教育学部防災調査研究会)
- 梅澤 正『企業と社会：社会学からのアプローチ』(411p. ミネルヴァ書房 3400円)
- 海野道郎(編)『日本の階層システム2：公平感と政治意識』(258p. 東京大学出版会 2800円)
- 碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』(394p. 有斐閣 2800円)
- 若林敬子『東京湾の環境問題史』(410p. 有斐閣 6000円)
- 若林敬子研究室(編)『沖縄ヤンバル過疎農村における人口高齢化と海上ヘリ基地問題：名護市久志地区を中心に』(200p. 東京農工大学若林敬子研究室 非売品)
- 若林敬子・黒柳晴夫・他『沖縄ヤンバル地域の高齢化と福祉資源』(非売品)
- 若林幹夫『都市の比較社会学：都市はなぜ都市であるのか』(237p. 岩波書店 2500円)
- 渡戸一郎(編)『「市民活動」の論理と実践：生成する市民的公共空間』(167p. 明星大学社会学科 非売)
- 渡辺 満・小谷朋弘(編)『高齢社会論』(332p. 成文堂 2500円)
- 八木晃介『「排除と包摂」の社会学的研究：差別問題における自我・アイデンティティ』(430p. 批評社 3200円)
- 矢島正見『おかも道を行く：谷津瀬由美研究』(85p. 戦後日本〈トランスジェンダー〉社会史研究会)
- 矢島正見・三橋順子・杉浦郁子(編)『戦後日本〈トランスジェンダー〉社会史I：基礎研究・資料編』(133p. 戦後日本〈トランスジェンダー〉社会史研究会)
- 山川菊栄記念会『たたかう女性学へ』(326p. インパクト出版会 2800円)
- 山本鎮雄『新明正道：総合社会学の探求』(140p. 東信堂 1800円)
- 山本剛郎『現代インド社会の変動過程』(288p. ミネルヴァ書房 4800円)
- 山本 努『西城町学校教育問題検討委員会報告書』(81p. 西城町教育委員会 非売品)
- 吉田 純『インターネット空間の社会学：情報ネットワーク社会と公共圏』(218p. 世界思想社 1900円)
- 吉田啓子『犬山市男女平等に関する意識調査報告書』(57p. 犬山市男女共同計画推進懇談会)
- 吉原和男・鈴木正崇・末成道男『〈血縁〉の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』(356p. 風響社 3500円)
- 吉原直樹(編)『都市経営の思想：モダニティ・分権・自治』(356p. 青木書店 3000円)
- 吉原直樹(編)『都市社会計画と都市空間』(226p. 御茶の水書房 3800円)
- 吉原直樹『アジアの地域住民組織：町内会・街坊会・RT/RW』(328p. 御茶の水書房 5300円)
- 好井裕明・桜井 厚(編)『フィールド・ワークの経験』(249p. せりか書房 2400円)
- 嘉日克彦・三隅一人(編)・鈴木 広(監修)『理論社会学の現在』(307p. ミネルヴァ書房 3500円)
- 吉岡雅光『ニュージランドのミドルタウン』(235p. 学文社 3000円)
- 善積京子(編)『結婚とパートナー関係：問い直される夫婦』(329p. ミネルヴァ書房 3400円)

II. 翻訳の部〔日本語訳〕 (Translations into Japanese)

- オルブロウ、マーティン(会田 彰・佐藤康行訳)『グローバル時代の歴史社会学』(375p. 日本経済評論社 4300円)
- アンダマール、ソニア：ロヴェル、テリー；ウォルコウイツ、キャロル(櫻村愛子・金子珠理・小松加代子訳)『現代フェミニズム思想辞典』(507p. 明石書店)
- ブレイニー、ジェフリー(加藤めぐみ・鎌田真弓訳)『オーストラリア歴史物語』(325p. 明石書店 2500円)
- ポッピオ、ノルベルト(松田 博・小原耕一・黒沢惟昭訳)『グラムシ思想の再検討』(xiii+206p. お茶の水書房 2500円)
- デュケルム、エミール(薬師院仁志訳)「デュケルムの日本論三編：「日本社会の譜図」・「日本における養子縁組」・「日本における婚姻法」(『研究紀要：教育・社会・文化』 p.97-108. 京都大学大学院教育学研究科)
- エントマン、アネット(西角純志訳)『ドイツにおけるグラムシ思想とそのアクチュアリティ』(p.276-290. 社会評論社 3700円)
- エントルーヴァイト、G(編)(鈴木幸壽・山本鎮雄・大鐘 武・小松君代訳)『現代の社会学理論』(418p. 恒星社

- 厚生閣 5600円)
- フィッシャー、クロード S.(編)(吉見俊哉・松田美佐・片岡みい子訳)『電話するアメリカ：テレフォンネットワークの社会史』(484p. NTT出版)
- フォックス、ロビン(平野秀秋訳)『生殖と世代継承』(xii+410p. 法政大学出版局 4000円)
- ゴードン、ミルトン M.(倉田和四生・山本剛郎訳編・仲野 誠・東元春夫・村田充八・遠藤英樹・赤坂真人・山口知子・中塚林八訳)『アメリカンライフにおける同化理論の諸相：人種・宗教及び出身国の役割』(280p. 晃洋書房 3300円)
- ゲニフェー、パトリス(白鳥義彦訳)「ジャコバン主義と恐怖政治」(『みすず』 42(11) p.2-14. みすず書房)
- ゲニフェー、パトリス(白鳥義彦訳)「ジャコバン主義と恐怖政治」(『みすず』 42(12) p.52-61. みすず書房)
- ヘイルバット、アンソニー(中河伸俊・三木草子・山田裕康)『ゴスペル・サウンド[改訂版]』(385+47p.(索引、資料) ブルース・インターアクションズ 2900円)
- ホックシールド、アーリー R.(石川 准・室伏亜希訳)『管理される心：感情が商品になるとき』(323p. 世界思想社 2900円)
- ジェネシス、ヴァレリー(大庭絵里訳)「罪としてのセックスから労働としてのセックスへ：COYOTEと社会問題としての売春の再構築」(平英美・中河伸俊(編)『構築主義の社会学：論争と議論のエスノグラフィー』 p.233-270. 世界思想社)
- 李 昌基(小林和美訳)「韓国同族集団の構成原理：形成要因を中心に」(『社会学雑誌』 17 p.102-116. 神戸大学社会学研究会)
- パリッシュ、ウィリアム、L.: リファン(首藤明和訳)「中国の地方政府と私営企業」(『日中社会学研究』 (8) p.1-42. 日中社会学会)
- シュルフター、ヴォルフガング; 折原 浩(鈴木宗徳・山口 宏訳)『「経済と社会」再構成論の新展開：ヴェーバー研究の非神話化と「全集」版のゆくえ』(155p. 未来社 2800円)
- スマルジャン、セロ; プリーゼール、ケンノン(中村光男(監訳)・青木武信・池田寛二・他訳)『インドネシア農村社会の変容：スハルト村落開発政策の光と影』(378p. 明石書店 2980円)
- ヴァン・ティ、ゴック・ラン(橋本和孝・高橋一得訳)「経済改革とベトナム社会構造の動態的特質」(『社会学集』 6 p.113-124. 関東学院大学社会学会)
- ウェーバー、マックス(世良晃志郎訳)(『支配の諸類型』創文社)
- シャロック、ウエス: バトン、クアム(池谷のぞみ訳)「正しいことをなさい! : 規則有限主義と規則懐疑主義.そして規則に従うこと」(『文化と社会』 2 p.99-123. マルジュ社)
- ホワイト、W.F.(奥田道大・有里典三訳)『ストリート・コーナー・ソサエティ』(394p. 有斐閣 3800円)
- ヴォルフ、クルト H.(那須 壽・澤井 敦・芦川 晋・伊藤智樹・矢部謙太郎訳)『危機と人間主観：サレンダー・キャッチと社会理論』(ix+380p. マルジュ社 5000円)

III. 論文の部 (Articles)

1. 社会哲学・社会思想・社会学史 (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology)

- 阿部勘一「インターネットにおける言論の諸問題」(『帝京大学情報処理センター年報』 2 p.71-82. 帝京大学情報処理センター)
- 阿部勘一「彷徨する身体：現代の資本主義と身体」(『Sociology Today』 10 p.42-59. お茶の水社会学研究会)
- 秋葉節夫「自己労働にもとづく所有と本源的蓄積」(『社会文化研究』 26 p.1-23. 広島大学総合科学部)
- 新 睦人「〈書評論文〉 児島和人編『講座社会学 8 社会情報』」(『社会学評論』 50(4) p.626-631. 日本社会学会)
- 鮎川 潤「日本における社会問題の社会学」(『アメリカン・ソシオロジスト』 31(3) p.15-26. トランスアクション)
- 土場 学「「他者」はどこにいるのか? : 規範的社会理論の可能性」(『創文』 426 p.6-10. 創文社)
- 土場 学「批判的なるものの再興：ポスト・ハーバーマスの批判社会学へ向けて」(『理論と方法』 15(1) p.117-134. 数理社会学会)
- 江口貴康「集合的アイデンティティの再検討：規範と連帯意識」(『社会システム論集』 5 p.25-39. 鳥根大学法文学部社会システム学科)
- 原田 達「語られない問題：鶴見俊輔試論「ある知的マゾヒズムの軌跡(III)」」(『桃山学院大学社会学論集』 34(1) p.95-135. 桃山学院大学総合研究所)
- 挾本佳代「ヴェブレンにおける進化論の意義」(『経済社会学年報』 22 p.143-150. 経済社会学会)
- 長谷川秀樹「アラン・トゥーレスの90年代後半の社会学理論：フランス社会とリベラリズムを背景に」(『日仏社会学年報』 10 p.41-60. 日仏社会学会)
- 長谷川秀樹「ブルデューの「95年12月」以降の諸思想について」(『社会学史研究』 22 p.99-111. 日本社会学会)

- 学史学会)
- 長谷川公一「共同性と公共性の現代的位相(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力:新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.436-450. 日本社会学会)
- 橋本和孝「キリスト教社会主義と生活協同組合:賀川豊彦と生活協同組合」(吉原直樹(編)『都市経営の思想:モダニティ・分権・自治』p.51-70. 青木書店)
- 橋本直人「ウェーバー行為論における目的合理性と「秩序問題」:『カテゴリー』をめぐる一考察」(『情況』11(6) p.39-52. 情況出版)
- 橋本直人「資本主義の精神における〈教育〉の契機:日本の『倫理』解釈史からの一考察」(橋本 努・橋本直人・矢野義郎(編)『マックス・ヴェーバーの新世紀:変容する日本社会と認識の転回』p.257-276. 未来社)
- 橋本直人「日本マックス・ヴェーバー研究史略年譜」(橋本 努・橋本直人・矢野義郎(編)『マックス・ヴェーバーの新世紀:変容する日本社会と認識の転回』p.340-351. 未来社)
- 橋本直人「問いの絶えざる再生のために:シンポジウム「マックス・ヴェーバーと近代日本」を終えて」(『未来』401 p.1-5. 未来社)
- 橋爪大三郎「なぜ「アフリカの段階」なのか」(『季刊ichiko』65 p.39-46. 日本ペリエールアートセンター)
- 平林豊樹「きだ・みのるの実践的社会学:「気違い部落」のコスモポリタンとその認識の概要」(『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』50 p.1-10. 慶應義塾大学大学院社会学研究科)
- 池田祥英「タルド模倣説再考」(『日仏社会学会年報』10 p.61-80. 日仏社会学会)
- 池田祥英「書評からみる『自殺論』の受容:タルドとの対立を手がかりに」(『社会学年誌』41 p.129-141. 早稲田社会学会)
- 犬飼裕一「さまざまな円環,動態と科学:自己言及の連鎖と主体」(『岐阜経済大学論集』34 p.169-200. 岐阜経済大学学会)
- 犬飼裕一「マックス・ヴェーバー,ゲオルク・ジンメルと世紀転換期歴史科学1890-1920」(『中京大学社会学部紀要』14 p.125-152. 中京大学社会学部)
- 柿本昭人「真理は時の娘なり」(『現代思想』28(1) p.183-199. 青土社)
- 柿本昭人「都市の傷痕とRe=publik 6:「建築」への意志」(『10+1』19 p.27-28. INAX出版)
- 柿本昭人「都市の傷痕とRe=publik 7:「技術」と建築」(『10+1』20 p.35-36. INAX出版)
- 柿本昭人「都市の傷痕とRe=publik 8:「不定さ」を担う建築あるいは球形の荒野」(『10+1』21 p.31-32. INAX出版)
- 亀山聖未「煙と境界:あるいは「公共の場所」をめぐる」(『大学院研究年報文学研究科篇』30 p.69-79. 中央大学)
- 加藤真義「可能性と形式の規定:マルクスの行為分析の展開のために」(『社会学研究』68 p.1-22. 東北社会学研究会)
- 河西宏祐「〈書評論文〉稲上毅・川喜多喬編『講座社会学 6 労働』」(『社会学評論』50(4) p.622-626. 日本社会学会)
- 小松秀雄「ブルデューにおけるハビトゥス論の社会学的構築」(『神戸女学院大学論集』47 p.209-230. 神戸女学院大学研究所)
- 小松田儀貞「ブルデュー社会学の再構成:ポストモダン社会学は可能か?」(『富士大学紀要』32 p.113-120. 富士大学学術研究会)
- 草柳千早「ゴフマン相互行為論の地平」(『情況』2000(8別冊) p.93-109. 情況出版)
- 楠 秀樹「F.リンガーによるブルデュー「場(champ)」の概念の受容:ジェイによる批判から考える」(『年報社会学論集』(13) p.50-60. 関東社会学会)
- 間庭充幸「〈書評論文〉宝月誠編『講座社会学 10 逸脱』」(『社会学評論』50(4) p.631-636. 日本社会学会)
- Matsuda, Hiroshi. "Lutorro al Metodo di Antonio Gramsci" 'Belfagor.' 55(6) p.629-637. Olschki.
- 松田 博「『獄中ノート』校訂版研究の意義と課題・再論」(『季報・唯物論研究』24(72)(春季) p.6-16. 季報・唯物論研究刊行会)
- 松田 博「グラムシ研究の動向と課題」(『アソシエ』1(3) p.141-158. 御茶の水書房)
- 松田 博「グラムシ思想のアクチュアリティ」(グラムシ没後60周年国際シンポジウム(編)『グラムシは世界でどう読まれているか』p.90-102. 社会評論社)
- 松本三和夫「〈リプライ〉『科学技術社会学の理論』書評論文リプライ」(『社会学評論』51(3) p.357-362. 日本社会学会)
- 松岡雅裕「近代の誕生とトラウマ:ホルクハイマー「エゴイズムと自由を求める運動」再考」(『社会学論叢』139 p.53-70. 日本大学社会学会)
- 松浦雄介「知と信の社会理論:「宗教生活の原初形態」における」(『社会学評論』51(1) p.2-19. 日本社会学会)
- 三上剛史「「ポスト近代」と社会学」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の世界』p.360-374. 有斐閣)
- 三上剛史「ポストモダニティの社会学とシステム理論」(『ソシオロジ』45(1) p.15-24. 社会学研究会)
- 水上英徳「社会国家と自律:ハーバーマスの社会国家論の展開」(『社会学研究』68 p.23-53. 東北

社会学研究会)

- 望月哲也「ウェーバー社会科学の基礎視角：初期ウェーバーにおける農業労働者問題と取引所問題」(『立正大学人文科学研究年報』13(別冊) p.37-56. 立正大学人文科学研究所)
- 望月哲也「デュルケム社会理論における宗教社会学の位置」(『立正大学文学部研究紀要』16 p.107-127. 立正大学文学部)
- 森 哲彦「ドイツ経営学論考」(『名古屋市立大学人文社会学部研究紀要』8 p.165-188. 名古屋市立大学)
- 中 久郎「〈書評論文〉高坂健次・厚東洋輔編『講座社会学 1 理論と方法』」(『社会学評論』50(4) p.617-622. 日本社会学会)
- 中 久郎「福祉コミュニティ化への高齢社会への対応：現状と課題」(『研究論考』1 p.2-18. 愛知新城大谷短期大学)
- 中村文哉「A.シュッツのレリヴァンス概念と間主観性問題」(『社会学評論』51(2) p.188-203. 日本社会学会)
- 中西真知子「ポストモダン社会とマーケット・リサーチ」(『マーケティング・リサーチャー』84 p.47-53. (社)日本マーケティング・リサーチ協会)
- 中野正大・大山小夜「初期シカゴ学派にみる自殺研究(下)：R.S.キャバン『自殺』」(『京都工芸繊維大学工学部研究報告人文』48 p.57-95. 京都工芸繊維大学)
- 中野剛亮・坂口 緑「現代コミュニティリアニズム」(有賀誠(編) 『ポスト・リベラリズム：社会的規範理論への招待』 p.86-104. ナカニシヤ出版)
- 那須 壽「社会学的概念を「厳密化」し「根源化」する試み：「社会関係」概念を手がかりに」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』45 p.111-127. 早稲田大学大学院文学研究科)
- 西原和久「ミード理論からの示唆：社会行動主義と発生論の視座」(『現代社会理論研究』10 p.317-330. 現代社会理論研究会)
- 西原和久・杉本 学「日本の社会学：『社会学評論』にみる理論社会学の五〇年」(『情況』11(7) p.305-327. 情況出版)
- 野崎敏郎「カール・ラートゲンとその同時代人たち：明治日本の知的交流」(『社会学部論集』33 p.17-34. 佛教大学社会学部)
- 大畑裕嗣「日本における市民社会の理論とイメージ：知識人の言説とユーモア小説の対比を手がかりに」(『流通経済大学社会学部論叢』10(2) p.1-15. 流通経済大学)
- 岡本朝也「主観的家族論の射程と限界」(『家族研究年報』24 p.21-32. 家族問題研究会)
- 表 弘一郎「社会と個人との『媒介不可能性』の位相：Th.W.アドルノによるデュルケム解釈をめぐって」(『経済学雑誌』101(3) p.152-170. 大阪市立大学経済学会)
- 大野道邦「デュルケムと二〇世紀社会学：「専門分化」、「人格・個性」、「集会的沸騰」」(『社会学史研究』22 p.13-21. 日本社会学史学会)
- 大野道邦「記憶の社会学：アルヴァックスの集会的記憶論をめぐって」(『紀要(神戸大学文学部)』27 p.165-184. 神戸大学文学部)
- 折原 浩「「合わない頭をつけたトルソ」から「頭のない五肢体部分」へ：『マックス・ヴェーバー全集』(『経済と社会』「旧稿」該当巻) 編纂の現状と問題点」(橋本 努・橋本直人・矢野善郎(編) 『マックス・ヴェーバーの新世紀：変容する日本社会と認識の転回』 p.296-313. 未来社)
- 折原 浩「宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成に関する理解社会学的概念構成(4)：ヴェーバー「経済と社会」の全体像構築に向けて(6)」(『椙山女学園大学研究論集社会科学篇』31 p.1-11. 椙山女学園大学人間関係学部)
- 折原 浩「宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成に関する理解社会学的概念構成(5)：ヴェーバー「経済と社会」の全体像構築に向けて(7)」(『名古屋大学社会学論集』21 p.19-34. 名古屋大学文学部社会学研究室)
- 左古輝人「初期の建部遯吾における儒学と社会学」(『社会学評論』51(1) p.20-36. 日本社会学会)
- 椎野信雄「〈書評論文〉松本三和夫著『科学技術社会学の理論』」(『社会学評論』51(3) p.349-356. 日本社会学会)
- 嶋守さやか「高齢者の自己決定権と人格崇拜」(『日仏社会学年報』10 p.91-107. 日仏社会学会)
- 志村明子「戦前日本における女性の自己決定権論の展開」(『ジェンダー研究』3 p.32-40. 東海ジェンダー研究所)
- 鈴木無二「社会的行動主義における客観的相対主義：ミード方法論の再構成とその帰趨」(『学術研究：地理学・歴史学・社会科学編』48 p.41-52. 早稲田大学教育学部)
- 鈴木健之「パーソンズの主意主義的行為論」(『現代社会理論研究』10 p.331-340. 現代社会理論研究会)
- 鈴木健之「パーソンズ再考：主意主義・パターン変数・AGIL図式」(『社会学史研究』22 p.89-98. いなほ書房)
- 鈴木健之「パーソンズ社会学の再構成」(『人文研究』(29) p.87-100. 千葉大学文学部)
- 鈴木富久「グラムシ「人間」論の論理と射程：関係主義的解釈の批判(上)」(『季報唯物論研究』24(72) p.17-33. 季報「唯物論研究」刊行委員会)
- 鈴木富久「グラムシ「人間」論の論理と射程：関係主義的解釈の批判(下)」(『季報唯物論研究』24(73) p.118-138. 季報「唯物論研究」刊行委員会)

- 鈴木富久「グラムシ「人間とは何か」解析試論：『獄中ノート』における哲学的人間論の展開・その2(下-1)」(『桃山学院大学総合研究所紀要』26(2) p.1-20. 桃山学院大学総合研究所)
- 鈴木富久「グラムシ「人間とは何か」解析試論：『獄中ノート』における哲学的人間論の展開・その2(中)」(『桃山学院大学総合研究所紀要』25(2) p.21-34. 桃山学院大学総合研究所)
- 高島秀樹「銅直勇教授の社会学(1)：『純正社会学概論』を中心に」(『明星大学社会学研究紀要』20 p.43-57. 明星大学人文学部社会学科)
- 種田博之「古いと女性：古いの今日的特性」(『産業医科大学雑誌』22(4) p.351-362. 産業医科大学)
- 種田博之「古いの宗教への変容：細木 数子の「古い本」を事例として」(『関西学院大学社会学部紀要』84 p.145-155. 関西学院大学社会学部研究会)
- 太郎丸 博「学説史研究と合理的選択理論」(木村邦博(編)『合理的選択理論の社会学的再構成』 p.359-362. 東北大学文学部行動科学研究室)
- 太郎丸 博「合理的選択理論の伝統と可能性」(『理論と方法』15(2) p.287-298. 数理社会学会)
- 辻 正二「社会学における中範囲理論の課題と展望」(嘉目克彦・三隅 一人(編)・鈴木 広(監修)『理論社会学の現在』 p.159-175. ミネルヴァ書房)
- 宇城輝人「退行と帰還のあいだ：ゴルトン試論」(阪上孝・上野成利(編)『人文・社会科学と自然科学の対話の試み：進化論を主題として』 p.11-29. 京都大学人文科学研究所)
- 宇都宮京子「「合理」のもつ可能性と限界(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.480-495. 日本社会学会)
- 宇都宮京子「リッケルトとヴェーバーの関係の再考察」(『情況』2000(7) p.21-38. 情況出版)
- 宇都宮京子「価値と認識：M.ヴェーバーと新カント学派におけるラスクの位置との関係について」(『社会学研究所年報』32 p.1-22. 東洋大学社会学研究所)
- 矢部謙太郎「A.シュッツの「ワーキング」概念：初期草稿を手がかりとして」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』45 p.97-103. 早稲田大学大学院文学研究科)
- 山口 宏「新カント派の宗教哲学と社会」(『名古屋大学社会学論集』21 p.61-76. 名古屋大学)
- 山口 宏「妥協と決断の責任倫理」(『現代社会理論研究』10 p.51-60. 現代社会理論研究会)
- Yamanori.Toru. "Redistribution and Recognition: Normative Theories and the Political Economy of Welfare States" "Competition, Trust and Cooperation." p.227-243. Springer.
- 山森 亮「福祉国家の規範理論：アフターマティブ・アクションと差異に敏感な社会政策」(大山 博・炭谷 茂・武川正吾・平岡公一(編)『福祉国家への視座 揺らぎから再構築へ』 p.99-118. ミネルヴァ書房)
- 矢田部圭介「〈レリヴァンス〉の系譜：フッサールからシュッツへ」(『現代社会理論研究』10 p.359-381. 現代社会理論研究会)
- 横井敏秀「デュルケムにおける循環的変動観の形成」(『日仏社会学会年報』10 p.19-40. 日仏社会学会)
- 横井敏秀「デュルケムの〈遊び〉観」(『富山国際大学紀要』10 p.23-34. 富山国際大学)
- 吉村治正「尾高職業社会学の展開と変容：戦時下日本社会学の展開に関するケーススタディー」(『法学政治学学究』44 慶應義塾大学大学院法学研究科)
- 油井清光「パーソンズにおける「社会的共同体」と公共性(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.464-479. 日本社会学会)

2. 一般理論 (General Theory)

- 浅野慎一「発達科学を求めて：第4回発達科学シンポジウムをふまえた問題提起」(『神戸大学発達科学部研究紀要』7(3) p.155-186. 神戸大学発達科学部)
- 鮎川 潤「「構築主義の挑戦：日米誌上シンポジウム」の趣旨」(『犯罪社会学研究』25 p.4-9. 日本犯罪社会学学会)
- 藤谷忠昭「「市民」社会における「エーチェ」的存在：自己の複数性と統治」(『ソシオロギス』24 p.45-60. ソシオロギス編集委員会)
- 船津 衛「シンボリック相互作用論」(嘉目克彦・三隅一人(編)『理論社会学の現在』 p.113-126. ミネルヴァ書房)
- 橋本和孝「シンガポール社会学と社会科学におけるインディジニティ：シンガポール社会学者からの問題提起」(『紀要』89 p.49-61. 関東学院大学文学部)
- 橋爪大三郎「価値と意思決定」(今田高俊・橋爪大三郎(編)『社会理工学シリーズ：社会理工学入門』 p.47-72. 日科技連出版会)
- 橋爪大三郎「公共性とは何か(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.451-463. 日本社会学会)
- 平兮元章「社会的アノミー概念の再構成」(『福岡大学人文論叢』32(1) p.39-54. 福岡大学総合研究所)
- 平野秀秋「スポーツの20世紀」(『スポーツ社会学研究』8 p.1-12. 日本スポーツ社会学学会)
- 池谷のぞみ「フィールドワークという手法」(今田高俊(編)『社会学研究法：リアリティの捉らえ方』 p.143-144. 有斐閣)
- 石川 准「感情管理社会の感情言説：作為的でも自然でもないもの」(『思想』907 p.41-61. 岩波書店)

- 伊藤美緒「母性の社会化と超社会化：愛をめぐる関係」(亀山佳明・麻生 武・矢野智司(編)『野性の教育をめざして：子どもの社会化から超社会化へ』 p.164-189. 新曜社)
- 和泉 浩「『空間』と『持続』：アンリ・ベルクソンにおける空間と主体について」(『空間・社会・地理思想』5 p.2-9. 大阪市立大学)
- 亀山佳明「社会化論から超社会化論へ」(亀山佳明(編)『野性の教育をめざして』 新曜社)
- 亀山佳明「他者の発見あるいは倫理の根拠」(『Becoming』6 p.3-26. BC出版)
- 片桐新自「社会的コンフリクト」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』 p.139-153. 有斐閣)
- 片桐資津子「(書評論文)金子勇著『社会学的創造力』」(『現代社会学研究』13 p.136-141. 北海道社会学会)
- 川上周三「ヴェーバーと現代社会学理論」(『人文科学年報』30 p.169-220. 専修大学人文科学研究所)
- 気賀沢洋文「社会学的思考とは何か：近代からポストモダンへ「越境する知」の軌跡」(『学苑』725 80p. 昭和女子大学近代文化研究所)
- 木村邦博「序論 社会学における合理的選択理論の意義」(木村邦博(編)『合理的選択理論の社会学的再構成(平成9～11年度科学研究費補助金研究成果報告書)』 p.1-15.)
- 小林 盾「3人以上でのゲームにおける進化的に安定な戦略」(『理論と方法』15(1) p.209-216. 数理社会学会)
- 倉島 哲「ハビトゥス概念の批判的検討：『プラチック理論の概要』のテキストから」(『ソシオロジ』45(2) p.3-19. 社会学研究会)
- 栗原 孝「グローバル化に社会学はどう関わるか」(『国際関係紀要』9(1/2) p.121-136. 亜細亜大学国際関係学部)
- 黒木茂浩「新たなカリスマ論をめざして：W.ゲープハルトの「生活形態としてのカリスマ」を中心に」(『社会学評論』51(3) p.282-297. 日本社会学会)
- 町村敬志「グローバリゼーションのローカルな基礎：「単一化された想像上の空間」形成をめぐる政治(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.124-139. 日本社会学会)
- 松田光司「社会ネットワークの構造分析」(小林淳一・三隅一人・平田 暢・松田光司(編)『社会のメカニズム [第2版]』 p.85-101. ナカニシヤ出版)
- 松田光司「集合行動の閾値モデル」(小林淳一・三隅一人・平田 暢・松田光司(編)『社会のメカニズム [第2版]』 p.67-82. ナカニシヤ出版)
- Misumi, Kazuto. "Strategic Interpersonal Commitment Under the Structural and Normative Effects" 'Development of Rational Choice Theory in Sociology.' p.41-51. Tohoku University.
- 宮本孝二「ギデンズのハーバーマース論：社会学理論の中心問題をめぐって」(『桃山学院大学社会学論集』33(2) p.5-32. 桃山学院大学総合研究所)
- 宮本孝二「社会学とリフレクシビティ」(『ソシオロジ』45(1) p.35-45. 社会学研究会)
- 中筋直哉「情報化・消費化社会からの展望」(山梨大学公開講座「地域と情報」編集委員会(編)『地域と情報』 p.165-187. 山梨日日新聞社)
- 西原和久「社会学と役割存在論：相互行為・物象化・制度」(情報出版編集部(編)『新・廣松渉を読む』 p.192-208. 情況出版)
- 西原和久「社会学理論と社会情報学：社会情報学への期待」(『社会情報学研究』4 p.1-8. 日本社会情報学会)
- 荻野昌弘「現代フランス社会学の潮流」(『情況』2000(8) p.248-258. 情況出版)
- 荻野昌弘「詐欺の社会学序説」(『関西学院大学社会学部紀要』84 p.137-143. 関西学院大学社会学部研究会)
- 荻野昌弘「文化とプラティック」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』 p.346-359. 有斐閣)
- 尾中文哉「学校とは何か？」(大澤真幸(編)『社会学の知33』 p.106-111. 新書館)
- 大岡頼光「老人福祉を成り立たせる論理：〈家〉、効率性、人格崇拜」(『人間科学研究』2 p.97-111. 大阪大学大学院人間科学研究科)
- 小谷朋弘「法化論」(嘉目克彦・三隅一人(編)『理論社会学の現在』 p.176-191. ミネルヴァ書房)
- 崎山治男「看護職-患者関係における看護職の葛藤と個別主義と普通主義」(『保健医療社会学論集』11 p.69-81. 日本保健医療社会学会)
- 桜井哲夫「日本と西洋における「公共」の概念について」(『公共建築』43(1) p.8-11. 公共建築協会)
- 佐藤嘉倫「コミュニケーションと行為選択：合理的選択理論によるコミュニケーションの分析」(『社会学研究』67 p.41-58. 東北社会学研究会)
- 澤井 敦「現代日本の死生観と社会構造(上)」(『人間関係学研究(人間関係学部紀要)』(1) p.13-29. 大妻女子大学)
- 澤井 敦「老い、死の様相と地域社会」(高橋勇悦・大坪省三(編)『社会変動と地域社会の展開』 p.146-162. 学文社)
- 数土直紀「最小限の合意の可能性(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.496-508. 日本社会学会)

- 数土直紀「誰が構造を選択するのか」(木村邦博(編)『合理的選択理論の社会的再構成』 p.319-333. 東北大学文学部行動科学研究室)
- 菅原真枝「J.ハーバマスにおける「コミュニケーション能力論」の論理構成」(『社会学研究』 67 p.137-161. 東北社会学研究会)
- 鈴木 譲「ニューコム問題と逆因果律:「プロテスタンティズムの倫理」のフォーマライゼーション」(『理論と方法』 15(2) p.331-343. 数理社会学会)
- 徳安 彰「社会システム理論の現在」(『社会・経済システム』 19 p.18-27. 社会・経済システム学会)
- 常松 淳「意味と規範性」(『ソシオロギス』 24 p.1-14. ソシオロギス編集委員会)
- 常松 淳「人格同一性論と責任帰属: Parfitを中心に」(『年報社会学論集』 13 p.73-84. 関東社会学会)
- Usui, Takashi. "Cultural Diversity or Cultural Confusion?: The Viewpoint of Decentralization and Network" 'Societies Corporations, and the Nation State.' p.244-253. Brill.
- 薬師院仁志「場としての社会: デュルケムの問題設定に基づく試論」(『PACIFICA』 11 p.47-56. 帝塚山学院大学国際文化学部)
- 好井裕明「「語らせるワーク」と「語りの様式」: Doing Life Historyをめぐる諸問題」(『現代社会学』 1 p.7-24. 広島国際学院大学現代社会学部)
- 好井裕明「差別と日常: 「普通であること」の権力をめぐって」(藤田弘夫・西原和久(編)『権力から読みとく現代人の社会学・入門(増補版)』 p.315-328. 有斐閣)

3. 社会変動論 (Social Change)

- 橋本和幸「変動する社会」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』 p.223-239. 有斐閣)
- 伊藤陽一「“情報化”水準の歴史的比較研究: 近代化論へのアプローチ」(『Keio Communication Review』 22 p.3-29. 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所)
- 栗田宣義「戦後日本における1955年から1995年にかけての社会変動と社共指示」(『選挙研究』 15 p.122-134. 木鐸社)
- 牧野修也「変容する農村社会と「新しい」都市農村関係」(高橋勇悦・大坪省三(編)『社会変動と地域社会の展開』 p.20-34. 学文社)
- 望月哲也「戦後日本の社会変動と宗教」(『現代宗教研究』 34 p.83-115. 日蓮宗現代宗教研究所)
- 村井研治「ロシアの底流: その伝統と精神」(『関西外国語大学研究論集』 71 p.231-245. 関西外国語大学)
- 大畑裕嗣「韓国の「民主化」と市民社会」(古屋野正伍・北川隆吉・加納弘勝(編)『アジア社会の構造変動と新中間層の形成』 p.108-129. こうち書房)
- 嵯峨座晴夫「アジア諸国の社会発展: 生活の質指標による国際比較」(『経済学論纂』 40(5-6) p.57-82. 中央大学経済学研究会)
- 関根康正「情報化と「宗教」対立現象: インドの場合」(『NIRA政策研究』 13(4) p.18-21. 総合研究開発機構)
- 首藤明和「グローバリズムとローカリズム: 私的経営者をめぐる両者の相克」(14回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会・中村則弘(編)『変動する中国社会: 私的経営者の台頭をめぐって』 p.128-143. クバプロ)
- 高橋博子「特集—社会学と統計情報: 統計データの中に家族の変化を読み取る」(『エストレーラ』 71 p.17-30. 財団法人統計情報研究開発センター(略称: Sinfonica))
- 高橋涼子「新しい社会運動」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』 p.282-295. 有斐閣)
- 山室敦嗣「原子力施設立地地域における地域集団と施設の関係性: 茨城県・東海村農業者クラブの事例から」(『地域社会学年報』 12 p.98-118. 地域社会学会)
- 梁 愛舜「チェーサと在日朝鮮人社会: 世代交代と世俗化を中心に」(『立命館産業社会学論集』 36(2) p.63-92. 立命館大学産業社会学会)

4. 社会集団・組織論 (Social Group, Organization)

- 安立清史「ボランティア・NPO活動の日米比較」(『人間科学』 6 p.85-25. 九州大学文学部人間科学科)
- 藤本昌代「企業内プロフェッショナルのコスモポリタンとローカルの併存性」(『日本労務学会誌』 2(2) p.13-24. 日本労務学会)
- 原田 謙・高橋勇悦「ボランティア活動と地域社会の形成」(高橋勇悦・大坪省三(編)『社会変動と地域社会の展開』 p.163-176. 学文社)
- Iwasaki, Nobuhiko. "Role and Functions of Local Communities in Earthquake Rescue, Shelter Administration and Reconstruction" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.111-119. Japan Sociological Society.

- 君塚大学「集団論」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編) 『社会学の理論』 p.173-188. 有斐閣)
- 木村邦博「オルソン問題の理論から実証へ」(木村邦博(編) 『合理的選択理論の社会的再構成(平成9~11年度科学研究費補助金研究成果報告書)』 p.269-292.)
- 北林秀生「教団草創期における教義表明の諸相: 佐藤範雄の主祭神表明の態度に注目して」(『金光教学』 40 p.33-79. 金光教教学研究所)
- 小林 盾「合意形成における評価戦略の進化」(『理論と方法』 15(1) p.181-196. 数理社会学会)
- Lluis,Valls Campa. "The role of business associations in political economy: strength and weakness of the theory of neocorporatism" 'The Otomon Bulletin for Australian Studies.' 35 p.83-106.
- 宮垣 元「NPOにおける革新性とその要因: 神奈川県の間非営利活動団体の組織特性」(塩澤修平・山内直人(編) 『NPO研究の課題と展望2000』 p.171-180. 日本評論社)
- 宮垣 元「在宅介護サービス分野におけるNPOのダイナミズム」(『経済社会学会年報』(22) p.88-96. 経済社会学会)
- 大槻奈巳「日本の雇用システムの変化とジェンダー: 旅行業A社の事例から」(『日本労働社会学会年報』 11 p.119-142. 東信堂)
- 佐藤慶幸「スウェーデン福祉国家とNPOセクター」(『生活協同組合研究』 290 p.56-65. 生協総合研究所)
- 須藤伸一「ともに生きる社会をめざして: 新たな時代の「市民活動」を探る」(社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会: かながわボランティアセンター(編) 『ボランティア・市民活動「21世紀の夢と実践」』 p.20-24. 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会かながわボランティアセンター)
- 須藤伸一「ボランティア・アソシエーションの「バルネラビリティ」」(越智昇(編) 『都市化とボランティア・アソシエーションの実態に関する社会学的研究』 p.129-135. 越智昇)
- 手戸聖伸「旧制第一高等学校における教養と宗教: 明治後期から大正期を中心に」(『東京大学宗教学年報』 10.5.2 p.93-106.)
- 鳥越皓之「盛り上がり協力隊の叢生」(『環境情報科学』 29(3) p.40-41. 環境情報科学センター)
- 鶴飼孝造「ネットワーク論」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編) 『社会学の理論』 p.205-219. 有斐閣)
- 若林直樹「国際戦略提携と日本企業の組織間信頼: 境界連結者のネットワークによる「信頼性」の社会的構築」(『経済社会学会年報』 22 p.151-161. 現代書館)
- 渡辺 芳・大坪省三「地域社会における新しい集団形成: 「子育て」サークルを事例として」(高橋勇悦・大坪省三(編) 『社会変動と地域社会の展開』 p.35-51. 学文社)
- 渡辺 深「高学歴女性のキャリア・ネットワークが職務満足度と組織コミットメントに与える効果」(『上智大学社会学論集』 2000年3月31日 p.21-38. 上智大学文学部社会学科)
- 横山知玄「デパートの「環境の規制力」と行政の組織行動の変容: デパートにおける行政サービスの展開を中心に」(『松山大学論集』 12(3) p.290-226. 松山大学)
- 吉原和男「「血縁」の再構築: 同姓団体の生成とその社会的機能」(吉原和男・鈴木正崇・末成道男(編) 『「血縁」の再構築: 東アジアにおける父系出自と同姓結合』 p.15-43. 風響社)
- 吉原和男「再構築されるエスニシティ: 北カリフォルニアのインドシナ系潮州人」(五十嵐武士(編) 『アメリカの多民族体制: 「民族」の創出』 p.293-311. 東京大学出版会)

5. 階級・階層・社会移動 (Class, Stratification, Social Mobility)

- 土場 学「〈階級〉のレクイエム: ポスト〈階級〉社会の市民ポリティクス」(高坂健次(編) 『日本の階層システム 6: 階層社会から新しい市民社会へ』 p.119-141. 東京大学出版会)
- Hara,Juusuke. "Changes in Labor Market and Occupational Prestige Scores" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.21-33. Japan Sociological Society.
- 原 純輔(編)「近代産業社会日本の階層システム」(原 純輔(編) 『日本の階層システム1: 近代化と社会階層』 p.3-43. 東京大学出版会)
- Hashimoto,Kenji. "Class Structure in Contemporary Japan" 'International Journal of Sociology.' 30(1) p.37-64. M.E.Sharpe.
- 橋本健二「〈リブライ〉『現代日本の階級構造』書評論文リブライ」(『社会学評論』 51(3) p.345-348. 日本社会学会)
- 橋本健二「フェミニズムからみた階級理論・階級理論からみた女性」(『女性労働研究』 38 p.79-87. ドメス出版)
- 橋本健二「階級社会日本: 「総中流」など存在しなかった」(『教育』 2000(11) p.22-29.)
- 橋本健二「戦後日本の農民層分解」(原 純輔(編) 『近代化と社会階層: 日本の階層システム1』 p.109-134. 東京大学出版会)
- 林 拓也「階層的地位と友人ネットワーク: ネットワーク・サイズを中心に」(森岡清志(編) 『都市社会のパーソナルネットワーク』 p.41-56. 東京大学出版会)
- 林 拓也「就学・就職を媒介とする都市流入: 1995年SSM調査より」(『都市問題』 91(9) p.33-46. 東京市政調査会)

- 星 敦士「階層帰属意識の判断基準と比較基準：準拠枠としてのネットワークの機能」(『社会学評論』51(1) p.120-135. 日本社会学会)
- 井出知之「戦後日本の革新政党支持率低下：階層意識論からのアプローチ」(『社会学評論』51(3) p.298-313. 日本社会学会)
- Imada, Takatoshi. "Industrialization and the Regime of Social Mobility in Postwar Japan" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.35-52. Japan Sociological Society.
- 井上 寛「脱階層志向の状況と構造」(今田高俊(編)『日本の階層システム5：社会階層のポストモダン』p.57-81. 東京大学出版会)
- 岩井八郎「近代階層理論の浸透：高度成長期以降のライフコースと教育」(近藤博之(編)『戦後日本の教育社会』p.199-220. 東京大学出版会)
- 岩本健良「家庭環境と進学」(片岡栄美(編)『階層文化とライフスタイルの社会学的研究：日本中流階層のハビトゥスと「場」の文化的効果』p.149-156. 「ライフスタイルと文化」研究会(関東学院大学文学部片岡研究室))
- 岩本健良「社会移動」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』p.255-266. 有斐閣)
- 岩本健良「新しい市民社会の高等教育：市民による市民のための大学」(高坂健次(編)『日本の階層システム6：階層社会から新しい市民社会へ』p.73-93. 東京大学出版会)
- 鎌田とし子「「家族の所得構造」類型による分析から見えてくるもの：階級・階層研究の指標として」(『社会論集』(6) p.31-52. 関東学院大学)
- Kanomata, Nobuo; Kikkawa, Toru(ed.). "The Composition of Stratification and Class in Contemporary Japan (I)" 'International Journal of Sociology.' 30(1) p.3-87. Sharpe, M.E.
- Kanomata, Nobuo; Kikkawa, Toru. "The Composition of Stratification and Class in Contemporary Japan (II)" 'International Journal of Sociology.' 30(2) p.3-89. M.E.Sharpe.
- 木村邦博「労働市場の構造と有配偶女性の意識」(盛山和夫(編)『ジェンダー・市場・家族(日本の階層システム)』p.177-192. 東京大学出版会)
- Komai, Hiroshi. "Immigrants in Japan" 'Asian and Pacific Migration Journal.' 9(3) p.311-326. Scalabrini Migration Center.
- 駒井 洋「外国人労働者の導入施策：地域における外国人の人権」(『月刊 自治研』42(490) p.31-37. 自治研中央推進委員会事務局)
- 宮本孝二「階級と階層」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編)『社会学の理論』p.240-254. 有斐閣)
- 村尾祐美子「仕事の場における事柄決定力規定要因とジェンダー」(『日本労働社会学会年報』(11) p.143-169. 日本労働社会学会)
- 永谷 健「実業家文化の戦略と形式：明治・大正期を中心に」(青木保・他(編)『近代日本文化論3：ハイカルチャー』p.177-194. 岩波書店)
- 丹辺宣彦「Weber社会学における「地位」概念と「エスニック集団」」(『現代社会理論研究』10 p.21-36. 現代社会理論研究会)
- 丹辺宣彦「社会的分業と身分差別の形成過程(II)：M.ダグラスの「穢れ」とその中世的変容をめぐる」(『名古屋大学社会学論集』21 p.117-126.)
- 織田輝哉・阿部晃士「不公平感ほどのように生じるのか：生成メカニズムの解明」(海野道郎(編)『日本の階層システム2：公平感と政治意識』p.103-125. 東京大学出版会)
- 佐藤嘉倫「高度経済成長の光と影」(原 純輔(編)『日本の階層システム1：近代化と社会階層』p.137-160. 東京大学出版会)
- Seiyama, Kazuo. "Public Spheres of Social Stratification" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.53-63. Japan Sociological Society.
- 白倉幸男「ライフスタイルと生活満足」(今田高俊(編)『社会階層のポストモダン』p.151-180. 東京大学出版会)
- 杉本一郎「インドにおける新たな階級の台頭とカースト・システムにおける「差異化」の動態」(杉本一郎(編)『ゴア州・バルデズ郡マブサ・タウンの社会：経済力・人口移動・家族生活』p.1-37. 愛知大学)
- 杉本一郎「インド村落における〈階級関係〉をめぐる社会：制度的状況」(『文学論叢』122 p.1-31. 愛知大学文学会)
- 田巻松雄・山口恵子「野宿者の就労面：東京東部圏の野宿者聞き取り調査報告」(『季刊シエルタレス』5 p.101-118. 野宿者・人権資料センター)
- 田巻松雄・山口恵子「野宿者の増大と寄せ場の変容：「山谷・上野調査」からみる飯場労働の実態」(『寄せ場』13 p.76-90. 日本寄せ場学会)
- 太郎丸 博「階層制の神話」(高坂健次(編)『日本の階層システム6：階層社会から新しい市民社会へ』p.161-180. 東京大学出版会)
- 豊島慎一郎「現代日本における社会参加と社会階層：1997年「社会的公正感の研究」全国調査による分析」(『経済論集』52(3) p.117-145. 大分大学経済学会)
- 豊島慎一郎「社会的活動」(高坂健次(編)『日本の階層システム第6巻：階級社会から新しい市民社会へ』

p.143-159. 東京大学出版会)

- 粒来 香・林 拓也「地域移動からみた就学・就職行動」(近藤博之(編) 『日本の階層システム第3巻：戦後日本の教育社会』 p.57-76. 東京大学出版会)
- 牛島千尋「〈書評論文〉階級論の再生と発展へ向けて 橋本健二著『現代日本の階級構造：理論・方法・計量分析』」(『社会学評論』 51(3) p.338-344. 日本社会学会)
- Watanabe,Tsutomu; Sato,Yoshimichi. "Analysis of Labor Markets in Postwar Japan:From the Viewpoint of Job Mobility" 'International Journal of Sociology.' p.3-33. M.E.Sharpe.

6. 家 族 (Family)

- 安達正嗣・猫田千里「大都市における高齢者の学習活動と家族・親族関係：〈神戸市シルバーカレッジ〉受講生へのアンケート調査の結果から」(『名古屋市立大学人文社会学部研究紀要』 8 p.189-278. 名古屋市立大学人文社会学部)
- 新田目夏実「結婚・夫婦満足度の規定要因：特に経済的要因と心理的要因の影響をめぐって」(『家計経済研究』 48 家計経済研究所)
- 江原由美子「母親たちのダブルバインド」(目黒依子・矢澤澄子(編) 『少子化時代のジェンダーと母親意識』 p.29-46. 新曜社)
- 藤本信子「家族生活に与える職業の影響(3)：職種による違い」(『金蘭短期大学研究誌』 31 p.1-15.)
- 藤崎宏子「家族と福祉政策」(三重野 卓・平岡公一(編) 『福祉政策の理論と実際：福祉社会学研究入門』 p.111-137. 東信堂)
- 藤崎宏子「家族はなぜ介護を困い込むのか：ネットワーク形成を阻むもの」(副田義也・樽川典子(編) 『現代家族と家族政策』 p.141-161. ミネルヴァ書房)
- 藤崎宏子「現代家族と「家族支援」の論理」(『ソーシャルワーク研究』 26(3) p.4-10. 相川書房)
- 船橋恵子「「幸福な家庭」志向の陥穽：変容する父親像と母親規範」(目黒依子・矢澤澄子(編) 『少子化時代のジェンダーと母親意識』 p.47-67. 新曜社)
- 畠中宗一「「富裕化」および「少子化」社会における家族関係をめぐる課題群」(4部会合同セミナー運営委員会(編) 『少子化社会が提起する諸課題：国際高齢者年にちなんで』 日本家政学会)
- 畠中宗一「家族養護と家庭的保育の連続性という思想」(右田紀久恵・上野谷加代子・牧里毎治(編) 『21世紀への架け橋：社会福祉のめざすもの』 中央法規出版)
- 平松紀代子「育児にとりも生活の諸側面における変化と産育プラン」(『家族関係学』 19 p.45-54. 日本家政学会家族関係部会)
- 平松紀代子「子どもを産み育てることに関する意識と産育プランとの関連について」(『家族研究論叢』 6 p.99-117. 奈良女子大学生生活環境学部生活文化化学研究室)
- 平山満紀「父との関係」(『情報と社会』 p.161-169. 江戸川大学)
- 広田照幸「なぜ林道義氏は人気があるのか」(『中央公論』 2000(10) p.218-225. 中央公論新社)
- 広田照幸「現代の母親はダメになったのか：歴史からの考察」(『助産婦雑誌』 59(9) p.20-24. 医学書院)
- 池岡義孝「家族社会学における量的/質的方法の二分法的理解とその成立」(『家族社会学研究』 12(1) p.55-66. 日本家族社会学会)
- 井上真理子「どうなる21世紀家族の姿：家族福祉の実現と「公・共・私」の協働」(『TOYONAKAビジョン 22』 3 p.69-80. 豊中市政研究所)
- 井上輝子「男と女、それぞれにとっての家族：町田市民意識調査から」(『和光大学人間関係学部紀要』 4 p.17-22. 和光大学)
- 石川 実・本村めぐみ「空の巣自覚前後における親にとっての〈子どもの存在価値〉の変化に関する一研究」(『家政学研究』 47(1) p.6-15. 奈良女子大学家政学会)
- 石川 実・山下美紀・大石美佳「エンプティネスト期自覚と中年期自覚に関する一研究」(『家族研究論叢』 6 p.13-38. 奈良女子大学生生活文化化学講座)
- 岩井八郎・岩井紀子「アメリカにおける結婚とパートナー関係」(善積京子(編) 『結婚とパートナー関係』 p.259-288. ミネルヴァ書房)
- 岩井紀子・稲葉昭英「家事に参加する夫、しない夫」(盛山和夫(編) 『ジェンダー・市場・家族』 p.193-216. 東京大学出版会)
- 門野里栄子「〈子どもは大事〉という観念についての一考察」(『甲南女子大学人間科学年報』 (25) p.77-91. 甲南女子大学人間科学会)
- 嘉本伊都子「明治日本と国際結婚の成立」(『歴史評論』 604 p.2-14. 歴史科学協議会)
- 金屋平三「17世紀イギリスにおける家族と社会・序説：「近代家族」とは何か？」(『奈良大学紀要』 28 p.169-183. 奈良大学)
- 神原文子「家族階層と子育て」(神原文子・高田洋子(編) 『教育期の子育てと親子関係：親と子の関わりを新たな観点から実証する』 p.146-168. ミネルヴァ書房)
- 神原文子「家族社会学からみた家族危機」(清水新二(編) 『家族問題』 p.193-217. ミネルヴァ書房)
- 神原文子「子育ての世代間分析」(神原文子・高田洋子(編) 『教育期の子育てと親子関係：親と子の関わり

- を新たな観点から実証する』 p.45-73. ミネルヴァ書房)
- 神原文子「親の生き方と親子関係」(神原文子・高田洋子(編)『教育期の子育てと親子関係：親と子の関わりを新たな観点から実証する』 p.218-243. ミネルヴァ書房)
- 神原文子「夫婦関係満足度と親子関係」(神原文子・高田洋子(編)『夫婦関係満足度と親子関係』 p.119-145. ミネルヴァ書房)
- 神原文子・吉田あけみ「子育てにおけるジェンダー」(神原文子・高田洋子(編)『教育期の子育てと親子関係：親と子の関わりを新たな観点から実証する』 p.192-217. ミネルヴァ書房)
- 春日井典子「現代における結婚言説の諸相：農山漁村部男性の結婚難をさぐる」(『家族研究』3 p.115-131. 兵庫県(財)兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所)
- 片岡佳美「夫婦ライフスタイルに関する個人的選好：その実現についての一考察」(『ソシオロジ』45(2) p.39-54. 社会学研究会)
- 木戸 功「家族社会学における「多様性」問題と構築主義」(『家族社会学研究』12(1) p.43-54. 日本家族社会学会)
- 木村清美「家計の中の夫婦関係」(善積京子(編)『結婚とパートナー関係：問い直される夫婦』 p.168-190. ミネルヴァ書房)
- 小林 甫・片桐資津子「高齢男性の“プロダクティブ・エイジング”と「家族」の役割：北海道函館市におけるケーススタディ」(『高齢者問題研究』16 p.77-89. 北海道高齢者問題研究協会)
- 小嶋秀夫・速水敏彦・本城秀次「ライフコース・歴史・人間発達」(小嶋秀夫・速水敏彦・本城秀次(編)『人間発達と心理学』 p.137-147. 金子書房)
- 菟淵 緑「要介護老人と家族ケア」(清水新二(編)『現代家族の危機と変わりゆく家族問題』 p.86-112. ミネルヴァ書房)
- Kunagai, Fumie. “A Digital Network Model for Japanese Families Living Abroad” ‘Annual Review of the Institute of International Relations of Kyorin University.’ 4 p.95-147. The Institute of International Relations of Kyorin University.
- Kunagai, Fumie. “Adjustment of Japanese Families Abroad” ‘Annual Review of the Faculty of Foreign Languages of Kyorin University.’ 12 p.1-34. The Faculty of Foreign Languages of Kyorin University.
- 栗山直子・畠中宗一・日本社会病理学会(編)「母親の役割取得プロセスと「意味づけ」に関する一考察」(『現代の社会病理』15 14p. 日本社会病理学会)
- 黒柳晴夫「21世紀の父親像：父親像の変遷をとおして展望する」(『教育と医学』48(9) p.4-10. 慶應義塾大学出版会)
- 李 璟媛「韓国における性別役割分業の維持メカニズム：「経済的責任者としての夫」という役割」(『家族研究論叢』6 奈良女子大学生生活環境学部生活文化学研究室)
- 李 璟媛「性別役割分業の維持メカニズム：「経済的責任者としての夫」という役割意識」(『比較家族史研究』15 比較家族史学会)
- 李 璟媛「日本における生活福祉の動向：「介護保険制度」を中心に」(『韓国家族福祉学会資料集2000年度』) 前納弘武「夫の居場所」(『現代のエスプリ別冊・生活文化シリーズ』3 p.171-182. 至文堂)
- 松田茂樹「ネットワークの中で育児をすること：育児のwell-beingへのネットワーク構造アプローチの試み」(『LDI REPORT』2000(4) p.31-53. ライフデザイン研究所)
- 松田茂樹「夫の家事・育児参加の規定要因」(『年報社会学論集』13 p.134-145. 関東社会学会)
- 松田智子・玉里恵美子・杉井潤子「中高年期の夫婦関係とソーシャルネットワーク：夫と妻とのズレを中心に」(『生活協同組合研究』289 p.27-35. (財)生協総合研究所)
- 松本誠一「モントリオールの韓人墓碑銘」(『東洋大学アジア・アフリカ文化研究所研究年報』34 p.59-80. 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所)
- 松成 恵「家族社会学のパラダイムシフト：独居後期高齢者事例研究」(『山口県立大学生生活科学部研究報告』26 p.19-24. 山口県立大学)
- 松信ひろみ「家族とくらし：性別役割分業の視点から」(住沢博紀・堀越栄子(編)『21世紀の仕事とくらし：社会制御と共生契約の視角』 p.111-126. 第一書林)
- 松信ひろみ「就業女性にとっての職業と子育て：「子育てよりも仕事」は本当か?」(目黒依子・矢澤澄子(編)『少子化時代のジェンダーと母親意識』 p.149-168. 新曜社)
- 松信ひろみ「少子化と子育て支援」(増子勝義(編)『新世紀の家族さがし：おもしろ家族論』 p.142-160. 学文社)
- 三上勝也「地域農業の衰退と農家生活の変容：奈良県山添村広瀬地区の37年」(『神戸女学院大学論集』47(2) p.188-207. 神戸女学院大学)
- 森岡清美「華族社会と娶妾習俗の崩壊」(『淑徳大学社会学部研究紀要』34 p.81-119. 淑徳大学社会学部)
- 長沢孝司「モンゴル都市民の家族生活史」(『日本福祉大学研究紀要「現代と文化」』102 p.1-35. 日本福祉大学)
- 長津美代子「中学生がいる家族の個別化と凝集性：先行研究と「情報機器の個別所有に関する調査」から」(『群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編』35 p.247-270. 群馬大学教育学部)
- 中筋由紀子「家族と感情の近代：一つの試論として」(『日本文化論叢』8 p.75-90. 愛知教育大学総合科学課程国際文化コース日本文化選修)

- 中田奈月「ベット：気軽さと尊さのはざまで」(鶴飼正樹・永井良和・藤本憲一(編) 『戦後日本の大衆文化』 p.151-169. 昭和堂)
- 中里英樹「主婦の役割と家計簿：婦人雑誌にみる家計管理」(青木保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄(編) 『近代日本文化論 8：女の文化』 p.177-199. 岩波書店)
- 西井清治「性別役割分業観について」(伊藤公雄(編) 『若い世代のジェンダー意識調査報告論文集』 p.57-66. 大阪大学大学院人間科学研究科)
- 西野理子「家族の認知に関する探索的研究：個人の認知と社会規範との連結をめざして」(『家族研究年報』 25 p.40-53. 家族問題研究会)
- 野々山久也「『親』と『子』という関係について：自立をキーワードに」(『子ども未来』 346 p.7-9. (財)こども未来財団)
- 野沢慎司「解放化するネットワークと家族：現代日本の『家族・コミュニティ問題』2」(森岡清志(編) 『都市社会の人間関係』 p.123-134. 放送大学教育振興会)
- 野沢慎司「現代の都市家族」(森岡清志(編) 『都市社会の人間関係』 p.85-96. 放送大学教育振興会)
- 野沢慎司「都市家族とネットワーク」(森岡清志(編) 『都市社会の人間関係』 p.97-108. 放送大学教育振興会)
- 野沢慎司「連帯的なネットワークと家族：現代日本の『家族・コミュニティ問題』1」(森岡清志(編) 『都市社会の人間関係』 p.109-122. 放送大学教育振興会)
- 落合恵美子「家とステムファミリーをめぐる論争：東と西のオリエンタリズム」(『Japan Review.』 12 p.105-127. 国際日本文化研究センター)
- 大谷貴美子・浅野麻里子・山田優子・中北理映・南出隆久・畠中宗一・本村 汎「食生活体験が中学生の家庭生活満足度に及ぼす影響：バスタジアグラム」(『日本食生活学会誌』 11(2))
- 大谷貴美子・浅野麻里子・山田優子・中北理映・南出隆久・李 温九・金 明仙・韓 在淑・康 薔薇・畠中宗一・本村 汎「中学生の食生活体験が家庭生活満足度に及ぼす影響と食事観：日韓比較」(『日本食生活学会誌』 11(3))
- 岡田あおい「近世農民社会における世帯構成とライフコース：会津山間部の宗門改帳を中心として」(『帝京社会学』 13 p.57-86. 帝京大学文学部社会学科)
- 岡田あおい「近世農民社会における世帯構成のサイクル：二本松藩2カ村の史料を用いて」(『社会学評論』 51(1) p.136-152. 日本社会学会)
- 岡本晴行「『漂泊する家族』：水商売でアルバイトする女子学生から家族を辿る」(『人間環境科学』 8 p.137-150. 帝塚山学園人間環境科学研究所)
- 才津芳昭「家族は本当に多様化したのか？：家族多様化論再考」(『茨城県立医療大学紀要』 5 p.121-129. 茨城県立医療大学)
- 酒井はるみ「家族を越境する姓」(『東京経済学会誌』 217 p.27-32. 東京経済大学)
- 佐藤宏子「農村の中老年有配偶女性における主観的家族関係の追跡研究：『理解』と『頼り』の認知からみた情緒関係」(『老年社会科学』 22(3) p.343-356. 日本老年社会学会)
- Sato, Yasuyuki. "On the Khmer Family System in Northeast Thailand: Its Historical Change and Ritual Characteristics" 'Tai Culture.' 5(1) p.104-116. Seacom.
- 佐藤康行「タイ・クメールの家族構造に関する社会学研究会」(『比較家族史研究』 15 p.23-47. 弘文堂)
- 佐藤友光子「シングル・ライフ」(増子勝義(編) 『新世紀の家族さがし：おもしろ家族論』 p.80-99. 学文社)
- 清水新二「なぜ今家族危機論なのか？：問題提起に代えて」(清水新二(編) 『家族問題：危機と存続』 p.1-17. ミネルヴァ書房)
- 清水新二「現代家族の危機とノーマライゼーション」(清水新二(編) 『家族問題：危機と存続』 p.292-313. ミネルヴァ書房)
- 清水由文「アイルランドの家族史研究に関わる資料について」(『桃山学院大学総合研究所紀要』 26(1) p.71-85. 桃山学院大学総合研究所)
- 袖井孝子・平野順子・金 恵善「大学生の結婚観：日韓比較調査の結果より」(『お茶の水女子大学人文科学紀要』 53 p.463-471. お茶の水女子大学)
- 袖井孝子・平野順子・金 恵善「日韓大学生の結婚観と配偶者選択」(『生活社会科学研究』 7 p.25-39. お茶の水女子大学生生活社会科学研究会)
- 末盛 慶「親の養育行動尺度の次元構成：基本属性と家族構造による検討」(『総合都市研究』 73 p.135-147. 東京都立大学都市研究所)
- 末盛 慶「母親の養育行動と思春期の子どもの自尊心：文脈効果の検証」(『家庭教育研究所紀要』 22 p.18-31. (財)小平記念会 日立家庭教育研究所)
- 祐成保志「ことばのなかの住居：近代日本における『生活』の対象化」(『ソシオロギス』 24 p.125-147. ソシオロギス編集委員会)
- 多田哲久「三井の別家に見る株的性格：日本家族企業の先行条件」(『ソシオロジ』 45 p.55-71. 社会学研究会)
- Takagi, Masao. "Landholdings and the Family Life Cycle in Traditional Japan" 'Continuity and Change.' 15(1) p.47-75. Cambridge University Press.

- 竹下修子「外国人ムスリムと日本人女性の結婚：結婚満足度の規定要因の分析から」(『ソシオロジ』45(2) p.55-68. 社会学研究会)
- Tatsuki, Shigeo; Hayashi, Haruo. "Family System Adjustment and Adaptive Reconstruction of Social Reality among the 1995 Earthquake Survivors" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.81-110. Japan Sociological Society.
- 坪内玲子「萩藩藩士における家系の継承と人口学的要因」(『日本研究』22 p.111-129. 国際日本文化研究センター)
- 坪内玲子「武士における家督相続と周辺成員の関わり：17・18世紀における南部藩藩士の場合」(『龍谷紀要』21(2) p.1-20. 龍谷大学龍谷紀要編集会)
- 土屋 葉「「障害者家庭」へのまなざしの変遷：政策作成側と当事者運動側の緊張関係をみる」(『家族研究年報』25 p.16-28. 家族問題研究会)
- 渡辺秀樹「家族的経験の変容と人間形成」(財団法人上広倫理財団(編) 『調査報告現代日本人の生き方』 p.39-61. 上広倫理財団)
- 渡辺秀樹「発達社会学から見た親子関係」(藤崎宏子(編) 『親と子：交錯するするライフコース』 p.42-58. ミネルヴァ書房)
- 渡辺 深「高学歴女性のキャリア・ネットワークが職務満足度と組織コミットメントに与える効果」(『上智大学社会学論集』24 p.21-38. 上智大学文学部社会学科)
- 山根真理「育児不安と家族の危機」(清水新二(編) 『家族問題：危機と存続』 ミネルヴァ書房)
- 大和礼子「社会階層と社会的ネットワーク再考：〈実際のネットワーク〉と〈ケアのネットワーク〉の比較から」(『社会学評論』51(2) p.235-250. 日本社会学会)
- 大和礼子「人々は介護の担い手として誰を選好しているか?：日本におけるジェンダーと社会階層の影響」('The International Scope Review.' 2(4))
- 吉田啓子「「児童育成計画」の推進と子育て支援について」(『大学紀要 社会科学論集』66 p.53-72. 名古屋経済大学市邨学園短期女子社会科学研究会)
- 吉野英岐・板本洋子・安倍澄子・岡村清子・宮城道子「農村地域の女性の仕事と生活：女性の自立と定住の促進に向けて」(生活福祉研究機構(編) 『農村の人口問題と女性の仕事・生活に関する調査研究報告書』 p.85-213. 生活福祉研究機構)
- 善積京子「スウェーデンの家族：福祉政策のインパクト」(右田紀久恵・秋山智久・中村永司(編) 『社会福祉の理論と政策：21世紀への架け橋—社会福祉のめざすもの』 p.198-214. 中央法規出版)
- 善積京子「結婚制度のゆらぎと新しいパートナー関係：結婚の意味が問われる時代」(善積京子(編) 『結婚とパートナー関係：問い直される夫婦』 p.1-23. ミネルヴァ書房)
- 善積京子「非法律婚のライフスタイル」(善積京子(編) 『結婚とパートナー関係：問い直される夫婦』 p.81-104. ミネルヴァ書房)
- 善積京子・高橋美恵子「夫婦の権力関係の日本・スウェーデン比較研究」(『追手門学院大学人間学部紀要』9 p.57-79. 追手門学院大学人間学部)

7. 農漁山村・地域社会 (Rural/Fishing/Mountain Village, Community)

- 油川 洋「東北の観光地から見た温泉地の盛衰」(『月刊「温泉」』68 p.4-7. 社団法人日本温泉協会)
- 鯉坂 学「Local Organizations and Groups in Japan: Chiefly in Neighborhood Associations (chonaikai - Jichikai)」(『評論・社会科学』(63) p.1-13.)
- 鯉坂 学「町規約にみる「町」の変遷：三田地区における壺番町を事例にして」(『市史研究さんだ』(2) p.107-129.)
- 秋津元輝「二〇世紀日本社会における「山村」の発明」(『年報村落社会研究』36 p.151-182. 農山漁村文化協会)
- 浅野慎一「マルクス・エンゲルスの『都市-農村』論に関する考察」(『行政社会論集』12(4) p.21-54. 福島大学行政社会学会)
- 原田勝弘・水谷史男・村上雅昭・立山徳子・渡辺暁雄「離島社会の高齢者生活とエイジング問題：鹿児島県大島郡瀬戸内町加計呂麻島阿室地区の調査より」(『研究所年報』30 p.83-98. 明治学院大学社会学部付属研究所)
- 長谷川公一・池田寛二「総説：土地と環境」(地域社会学会(編) 『キーワード地域社会学』 p.286-289. ハーベスト社)
- 橋本和幸「コミュニティ形成のエートス」(『日本の科学者』35 p.32-36. 水曜社)
- 上久保達夫「地域生活者としての農山村住民：岐阜県の林業山村・加子母村を例として」(『総合農学』47(1/2) p.35-41. 総合農学学会)
- 上久保達夫「地域文化の諸相：岐阜県下一山村での見聞に基づいて」(『論叢』31(1) p.1-14. 中京短期大学)
- 交野正芳「施設利用の選択・評価とコミュニティ基盤」(橋本和幸(編) 『高齢化社会と生活選択に関する総合的研究：北陸地域と東海地域の比較』 p.23-36. 橋本和幸)
- 河原晶子「阪神・淡路大震災と借家層住民の復興過程」(『志学館大学文学部研究紀要』22(1) p.49-78. 志

學館大学)

- 小林月子「農業生産組織の「統合」をめぐる問題状況」(『岐阜大学教育学部研究報告—人文科学—』49 p.69-92. 岐阜大学教育学部)
- 駒井 洋「カンボジア農村の復興と仏教：タケオ州トゥロペアング・ベング村の事例」(『社会学ジャーナル』25 p.1-30. 筑波大学社会学研究室)
- 窪田和美「瀬戸内沿岸漁村の社会構造：明治から大正期の岡山県和気郡白生村」(『龍谷大学社会学部紀要』16 p.21-34. 龍谷大学社会学部紀要編集委員会)
- 劉 文靜「都市近郊における農家の花卉販売活動の展開と現状：名取市高柳の事例をもとに」(『社会学研究』68 p.169-193. 東北社会学研究会)
- 劉 文靜「都市近郊における野菜生産・販売組織の展開と変容：宮城県名取市上余田地区の事例を手がかりに」(『村落社会研究』13 p.21-31. 日本村落研究学会)
- 松宮 朝「北海道農村地域の内発的発展：「内発性」創出のプロセスに着目して」(『日本都市社会学年報』18 p.67-81. 日本都市社会学会)
- 松宮 朝「北海道農村地域形成の変容：三市町村における集団活動の比較分析から」(『現代社会学研究』13 p.99-116. 北海道社会学会)
- 三須田善暢「兼業化の深化と稲作生産組織の動向：山形県酒田市中野曾根の事例」(『社会学研究』68 p.215-238. 東北社会学研究会)
- 水上徹男「ポスト・サバヴに関する一考察：郊外化の進展とメルボルンの居住動向の事例」(『社会学評論』51(2) p.251-263. 日本社会学会)
- 永野由紀子「小経営組織としての「いえ」における女性の「個」の自立化：山形県庄内地方の専業的農家の事例」(『村落社会研究』12 p.24-35. 日本村落研究学会)
- 永野由紀子「農村女性の自立化と「いえ」の変容：山形県庄内地方の専業的農家の事例」(『愛媛大学法文学部論集 人文科学編』8 p.237-282. 愛媛大学法文学部)
- 中道 實「地域社会における政策決定過程」(間場寿一(編)『政治(講座社会学9)』 p.163-216. 東京大学出版会)
- 中西典子「「地域」の復権とその主体：生活・公共性と地域形成をめぐる」(『地域社会学年報』12 p.1-20. 地域社会学会)
- 中西典子「地域の変貌と住民」(飯田哲也・浜岡政好・早川洋行・林 彌富(編)『応用社会学のすすめ』 p.168-193. 学文社)
- 中島豊雄・中田 実「逢妻地区コミュニティ会議(豊田市)の組織と活動」(『コミュニティ政策研究』2 p.51-61. 愛知学泉大学コミュニティ政策研究所)
- 中筋由紀子「日本文化における伝統的なもの」(『愛知教育大学研究報告書』49 p.51-59. 愛知教育大学)
- 中田 実「フランス」(中田 実(編)『世界の住民組織：アジアと欧米の国際比較』 p.253-276. 自治体研究社)
- 野田 隆「災害対策と地域社会」(大村英昭(編)『臨床社会学を学ぶ人のために』 p.187-214. 世界思想社)
- 小川全夫「過疎地域自立への展望」(『農』19 p.12-15. ぎょうせい)
- 佐藤利明「地方都市の工業化と漁業構造の変容：青森県八戸市における漁民対応の事例」(『総合政策』2(1) p.17-29. 岩手県立大学総合政策学会)
- 関 孝敏「激甚被災地における地域生活の再建過程：北海道南西沖地震における奥尻町青苗地区の場合」(『北海道大学文学研究科紀要』102 p.129-202. 北海道大学)
- 須藤伸一「行政・既存住民組織・ボランティア・アソシエーション：「あすを築く盛岡市民運動実践協議会」を事例として」(越智昇(編)『都市化とボランティア・アソシエーションの実態に関する社会学的研究：平成10,11年度科学研究費研究成果報告書』 p.122-128. 越智昇)
- 立川雅司「日本における20世紀農業食料システムとフォーダイズム」(日本村落研究学会(編)『日本農村の「20世紀システム」』 p.55-83. 農山漁村文化協会)
- 田嶋淳子・松田淳子・榎渥俊子・松戸庸子「沿海地帯農村における女性出稼ぎ労働者：蘇南M村の事例」(菱田雅晴(編)『現代中国の構造変動5 社会—国家との共棲関係』 p.69-101. 東京大学出版会)
- 高橋英博「外来型「開発」とく場所の個性」の自己認識：戦後八戸市の「開発」の事例」(『東北福祉大学研究紀要』25 p.349-365. 東北福祉大学)
- 立山徳子「地域社会の変貌と家族」(増子勝義(編)『新世紀の家族さがし：おもしろ家族論』 p.63-78. 学文社)
- 戸谷 修「東海地域の人口構造とその推移：愛知県の三好町と豊根村を事例として」(二宮哲雄(編)『東海：ブレイン・コミュニティ(平成9-11年度科研・研究成果報告書)』 p.83-130.)
- Tsutsumi.Masae. "Gender Issue in the Home Life Improvement Extension Service of Postwar Japan" 'Women and Families in Rural Japan.' p.57-74. Tsukuba Shobo.
- 山本 努「過疎農山村社会の変容」(松田芳郎・垂水共之・近藤健文(編)『講座ミクロ統計分析(3):地域社会経済の構造』 p.75-90. 日本評論社)
- 山本 努「過疎農山村問題の変容と地域生活構造論の課題」(『日本都市社会学年報』(18) p.3-17. 日本都市社会学会)
- 梁 愛舜「郷村社会の親族と近隣結合：契・ブマシ・トゥレを中心に」(『立命館産業社会論集』35(4) p.59-81.

立命館大学産業社会学会)

- 矢野晋吾「村落における労働力の社会的性格」(矢野敬生(編)『日本・中国・韓国現代社会の基層構造に関する実証的比較研究：平成9-11年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))研究成果報告書』 p.115-142.)
吉田啓子「世界の住民組織：スウェーデン」(中田 実(編)『世界の住民組織：アジアと欧米の国際比較』 p.229-251. 自治体研究社)

8. 都 市 (Urban Society)

- 油川 洋「財政力指数でみる東北の自治体：平成9年度決算状況より」(『東北経済学会誌』 1999年 p.27-32. 東北経済学会)
油川 洋「自治体における「市民参加」「市民運動」の実態」(『尚桐女学院短期大学研究報告』 47 p.87-98. 尚桐女学院短期大学)
油川 洋「成熟社会における都市の自治と交流：中心市街地活性化政策の現状と展望」(『日本都市学会年報』 33 p.56-61. 日本都市学会)
油川 洋「地方自治体と住民参加の今日的課題」(『山形県の社会経済・2000年』 13 p.110-125. 社団法人山形県経済社会研究所)
安達正嗣・猫田千里「大都市における高齢者の学習活動と家族・親族関係：〈神戸市シルバーカレッジ〉受講生へのアンケート調査の結果から」(『名古屋市立大学人文社会学部研究紀要』 (8) p.189-278. 名古屋市立大学人文社会学部)
新田目夏実「フィリピン、マニラにおける女子異動者の初職獲得課程について」(『論集』 102 p.79-86. 四国学院文化学会)
新田目夏実「人口爆発と過剰都市化」(渡辺利夫(編)『国際開発学2アジア地域研究の現在』 25p. 東洋経済新報社)
後藤範章「集会的写真観察法：都市社会調査の新天地」(『社会学論叢』 137 p.23-42. 日本大学社会学会)
早川洋行「新しいボランティア・アソシエーション」(越智昇(編)『都市化とボランティア・アソシエーションの実態に関する社会学的研究』 p.79-98. 越智昇)
林 拓也「地域移動者のネットワーク」(森岡清志(編)『都市社会のパーソナルネットワーク』 p.57-70. 東京大学出版会)
井上 寛「都市間ネットワークの構造」(鈴木 広・嘉目克彦・三隅一人(編)『理論社会学の現在』 p.143-158. ミネルヴァ書房)
井上純一・林 弥富(編)「世紀の転換と社会学」(『現代の地域社会：一都市と農山村の動態と危機一』 p.107-142. 法律文化社)
岩城完之「東京大都市圏内諸都市の変動と自立：埼玉県内諸都市の変動過程分析を通して」(『社会論集』 6 p.53-76. 関東学院大学社会学会)
和泉 浩「砂漠・都市・芸術」(『社会学年報』 29 p.93-110. 東北社会学会)
菊池美代志「成熟社会とコミュニティ活動」(『自治だより』 135 p.3-6. 財団法人自治総合センター)
北原 淳「タイにおける都市：農村関係の言説の考察」(坪内良博(編)『地域形成の論理』 p.119-162. 京都大学学術出版会)
駒井 洋「グローバルイノベーション下の東京の課題」(『国際社会と都市：変動する国際社会への対応 (政策形成文庫 5)』 p.4-5. 東京都職員研修所調整課)
駒井 洋「内なる国際化」(『あすの三重』 117 p.2-3. 三重社会経済研究センター)
熊田俊郎「中国の都市建設：北京の空間構造にみる伝統主義社会主義・市場経済の各要素について」(『日本都市学会年報』 33 p.205-212. 日本都市学会)
Machimura, Takashi. "Local Settlement Patterns of Foreign Workers in Greater Tokyo : Growing Diversity and Its Consequences" 'Japan and Global Migration : Foreign Workers and the Advent of a Multicultural Society.' p.176-195. Routledge.
町村敬志「再加熱イデオロギーとしてのグローバリゼーション：「世界都市」東京の動機づけ危機」(『現代思想』 28(11) p.62-79.)
中西典子「盛岡市の高齢者の都市環境システム」(橋本和孝・吉原直樹(編)『都市社会計画と都市空間』 p.179-212. 御茶ノ水書房)
中筋直哉「現代都市社会学と知の枠組み」(『三色旗』 622 p.15-20. 慶應義塾大学通信教育部)
中田 実「まちのらびとの暮らし」(塩沢君夫・近藤哲生(編)『新修 名古屋市史』 p.324-333, p.335-337. p.344-351. 名古屋市)
中田 実「市民生活の変容」(塩沢君夫・近藤哲生(編)『新修 名古屋市史』 p.347-354. 名古屋市)
中田 実「社会問題への対応と社会事業の展開」(塩沢君夫・近藤哲生(編)『新修 名古屋市史』 p.277-294. 名古屋市)
中田 実「戦時下の市民生活」(塩沢君夫・近藤哲生(編)『新修 名古屋市史』 p.717-730. 名古屋市)
中田 実「戦時下名古屋市の行財政」(塩沢君夫・近藤哲生(編)『新修 名古屋市史』 p.735-740, p.743-747. p.753-757. 名古屋市)

- 中田 実「戦時体制の強化と市民生活」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.630-646. 名古屋
市)
- 中田 実「都市化の進展と市民生活」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.77-92. 名古屋市)
- 中田 実「日中戦争期の名古屋市の行財政」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.647-653.
p.659-663. 名古屋市)
- 中田 実「濃尾地震と市民生活」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.621-637. 名古屋市)
- 中田 実「百万都市名古屋と世相の変化」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.590-601.
p.611-619. 名古屋市)
- 中田 実「文明開化と生活枠組みの変化」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.315-323. 名
古屋市)
- 中田 実「明治20-30年代の市民生活」(塩沢君夫・近藤哲生(編) 『新修 名古屋市史』 p.661-680. 名古
屋市)
- 難波孝志「インナーシティの老朽密集住宅地区におけるジェントリフィケーション」(『名古屋短期大学研究
紀要』 38 p.109-123. 名古屋短期大学)
- 西野淑美「震災からの自力復興と住宅の意味：四散した住民を追って」(『相関社会科学』 9 東京大学大学
院総合文化研究科国際社会科学専攻)
- 西山八重子「都市空間の商品化と「住むこと」の復権：東京の都心問題から」(『都市問題』 91(10) p.73-89.
東京市政調査会)
- Okuda.Michihiro. "Asian Newcomers in Shinjuku and Ikebukuro Areas, 1988-1998 : Reflections on a
Decade of Research" 'Asian and Pacific Migration Journal.' 9(3) p.343-348. Scalabrini Migration
Center.
- 大倉健宏・許 石「エスニック・コミュニティ」(高橋勇悦・大坪省三(編) 『社会変動と地域社会の展開』
p.130-45. 学文社)
- 大谷信介「ボランタリーアソシエーションと居住類型別特性」(越智昇(編) 『都市化とボランタリーアソシ
エーションの実態に関する社会学的研究』 p.23-39. 越智昇)
- 齋藤昌男「住みよさの検証：地方小都市住民の意識調査から」(『立正大学人文科学研究所年報』 37 p.28-43.
立正大学人文科学研究所)
- 阪本俊生「近代の覗き趣味とプライバシー意識」(『南山経済研究』 15 南山大学経済学会)
- 阪本俊生「他人の風景化と劇場のまなごし：日常生活の劇場化」(『現代のエスプリ』 (400) p.142-151. 至
文堂)
- 関根康正「都市・宗教・ポストナショナリズム：南インド・チェンナ市の宗教構造」(『李刊南アジア：構造・
変動・ネットワーク』 3(1) p.47-51.)
- 高木恒一「都市社会学における郊外研究の課題」(『愛国学園大学人間文化研究紀要』 2 p.91-105. 愛国学
園大学人間文化学部)
- 高橋英博「宮崎辰雄と神戸市の企業的都市経営」(吉原直樹(編) 『都市経営の思想：モダニティ・分権・自
治』 p.191-206. 青木書店)
- 高橋英博「戦後八戸市の都市経営と「開発」」(吉原直樹(編) 『都市経営の思想：モダニティ・分権・自治』
p.228-244. 青木書店)
- 高橋勇悦「少子化時代の子育てと自治行政」(大森彌(編) 『分権改革と地域福祉社会の形成(分権型社会を創
る11)』 p.54-64. ぎょうせい)
- 高橋勇悦「青少年問題と地域社会：徳島県海部町の事例を中心に」(『人間関係学研究』 1 p.31-40. 大妻女
子大学)
- 高橋勇悦「地域社会の社会学」(高橋勇悦・大坪省三(編) 『社会変動と地域社会の展開』 p.2-18. 学文社)
- 玉野和志「住民自治はいかにして可能か：コミュニティの実際から」(『都市問題研究』 52(11) p.96-108.
都市問題研究会)
- 玉野和志「地域女性の教育文化運動」(『人文学報』 309 p.27-57. 東京都立大学文学部)
- 田中重人「性別分業を維持してきたもの：郊外型ライフスタイル仮説の検討」(盛山和夫(編) 『日本の階層
システム4：ジェンダー・市場・家族』 p.93-110. 東京大学出版会)
- 谷 富夫「社会学から見た都市論：都市エスニシティ論の新しいアプローチ」(『都市問題研究』 52(9) p.82-95.
都市問題研究会)
- 立山徳子「都市中高年におけるエイジングとジェンダー」(『人文研究』 29 p.103-133. 千葉大学文学部)
- 立山徳子・長谷川万希子・岡村清子・安藤孝敏・新名正弥・元治恵子「都市高齢者のパーソナル・ネットワークと
その機能：世帯類型別の検討から」(『研究所年報』 30 p.109-122. 明治学院大学社会学部附属研究所)
- 植木 豊「ローカル・ガヴァメントからローカル・ガバナンスへ」(吉原直樹(編) 『都市経営の思想：モ
ダニティ・分権・自治』 p.281-309. 青木書店)
- 若林幹夫「都市という装置：その起源、構造、変容、そして行方」(栗原彬・小森陽一・佐藤学・吉見俊哉(編)
『越境する知4：装置：壊し築く』 p.103-125. 東京大学出版会)
- 若林幹夫「都市とメディアの交わる場所」(吉見俊哉(編) 『メディア・スタディーズ』 p.300-309. せり
か書房)
- 渡戸一郎「グローバル化する東京と自治体の政策的視点：「世界都市」から「移民都市」「多文化都市」へ」

- (『国際社会と都市：変動する国際社会への対応 (政策形成文庫 5)』 p.118-130. 東京都職員研修所調整課)
- 矢部拓也「地方小都市再生の前提条件：滋賀県長浜市第三セクター『黒壁』の登場と地域社会の変容」(『日本都市社会学会年報』 18 p.51-66. 日本都市社会学会)
- 山崎仁朗「ドイツ」(中田 実(編) 『世界の住民組織』 p.181-214. 自治体研究社)
- 安河内恵子「都市度と親族ネットワーク」(森岡清志(編) 『都市社会のパーソナルネットワーク』 p.71-85. 東京大学出版会)
- 矢澤澄子「都市環境における子育て」(ニッセイ基礎研究所(編) 『少子社会への11人の提言』 p.70-83. ぎょうせい)
- 吉原直樹「地域住民組織における共同性と公共性：町内会を中心として(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』 50(4) p.140-153. 日本社会学会)
- 吉原直樹; Dwianto, Raphaella D. 「ジャカルタ特別区におけるグラスルーツの一存在形態(4)：独立記念日についての素描」(『東北大学文学部研究年報』 49 p.192-212. 東北大学文学部)
- 吉野英岐「近代日本の都市住宅政策：池田宏と田子一民の軌跡」(吉原直樹(編) 『都市経営の思想：モダニティ・分権・自治』 p.21-50. 青木書店)

9. 生活構造 (Life Structure)

- 片桐資津子「高齢者の地域移動から示される生活構造の変容と《老年危機》：アメリカ地方紙 "The Oregonian" の「死者の略歴欄」内容分析」(『現代社会学研究』 13 p.45-60. 北海道社会学会)
- 河原晶子「高齢者の社会的ネットワークの特徴」(志學館大学文学部人間関係学科社会調査研究室(編) 『国分西公民館区の高齢者の生活と意識に関する調査報告書』 p.8-14. 志學館大学文学部人間関係学科)
- Manabe, Kazufumi; Onodera, Noriko. "A Cross-National Comparison of National Identity: From an ISSP Survey" 'Kwansei Gakuin University Social Sciences Review.' 4 p.1-27. Kwansei Gakuin University.
- 三善勝代「海外派遣者の配偶者の生活と意識：北京での面接調査を基に」(『和洋女子大学紀要(家政系)』 40 p.127-138. 和洋女子大学)
- 長沢孝司「生活」(後藤基(編) 『あいちの労働と生活』 愛知労働問題研究所)
- Nakagawa, Kiyoshi. "Ambitions, "Family-Centredness" and Expenditure Patterns in a Changing Urban Class Structure: Tokyo in the Early Twentieth Century" 'Continuity and Change.' 15(1) p.77-98. Cambridge University Press.
- 野辺政雄「『メルボルンに居住する女性のパーソナル・ネットワーク調査』の基礎分析」(『岡山大学教育学部研究集録』 15 p.29-55. 岡山大学教育学部)
- 野辺政雄「高梁市の高原部にすむ一人暮らしの高齢女性の生活」(『岡山大学教育学部研究集録』 114 p.47-57. 岡山大学教育学部)
- 野辺政雄「高梁市の高原部にすむ高齢女性の暮らし」(『岡山大学教育学部研究集録』 113 p.69-85. 岡山大学教育学部)

10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations)

- 朝水宗彦「地方自治体における国際交流旅行」(『日本観光研究学会全国大会研究発表論文集』 15 p.137-140. 日本観光研究学会)
- 春木育美「女性と政治：山口県における女性県議の誕生背景」(『評論：社会科学』 59)
- 長谷川秀樹「EU島嶼地域とPOSEI」(『日本EU学会年報』 20 p.258-279. 日本EU学会)
- 橋本和孝「飛鳥田一雄と自治体改革論：まちづくりと市民自治を中心に」(吉原直樹(編) 『都市経営の思想：モダニティ・分権・自治』 p.154-172. 青木書店)
- 橋爪大三郎「(対談+エズラ・F・ヴォーゲル)米中新時代と日本」(『中央公論』 1392 p.140-150. 中央公論新社)
- 橋爪大三郎「安易な国交回復は自殺行為。はじめある断固とした内政とバランス感覚ある知性的な外交を」(中西輝政(編) 『北朝鮮と国交を結んではいけない』 p.225-251. 小学館)
- 平野 浩「政党と市民：政策本位の政党再編は可能か」(川上和久・丸山直起・平野 浩(編) 『21世紀を読み解く政治学』 p.145-164. 日本経済評論社)
- 井出知之「『支持政党なし』層の分類とその政治的影響」(『社会学年報』 (29) p.131-151. 東北社会学会)
- 井上眞理子「地方分権の時代における自治体と市民との政策の"Coproduction"」(豊中市政研究所(編) 『とよなか市民の暮らしと意識：生活者の視点から』 p.3-11. 豊中市政研究所)
- 角 一典「国家計画と地域計画の相克：熊本県八代市における新幹線建設過程を事例として」(『地域社会学会年報』 12 p.79-97. 地域社会学会)
- 片桐新自「政治過程における組織と運動」(間場寿一(編) 『講座社会学9 政治』 p.89-126. 東京大学出

版会)

- 片瀬一男・海野道郎「無党派層は政治にどう関わるか：無党派層の変貌と政治参加の行方」(海野道郎(編)『日本の階層システム2：公平感と政治意識』 p.217-240. 東京大学出版会)
- 松永信一「世論過程と政治システム：ルーマン理論と政治学」(『摂南法学』24 摂南大学法学部)
- 小川賢治「栄典制度の政治的機能：サッチャー政権の栄典運用を手がかりに」(『人間文化研究』3 p.81-100. 京都学園大学人間文化学会)
- 田野大輔「ヒトラー、あるいは親密さの専制：カリスマの陳腐さについての考察」(『社会学評論』51(1) p.71-87. 日本社会学会)
- 鶴飼孝造「ナショナル・ポリティクスの構造変動」(間場寿一(編)『講座社会学9：政治』 p.217-260. 東京大学出版会)

11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior)

- 長谷川啓介「コードへの挑戦：〈沖縄問題〉における社会認識と社会運動」(庄司興吉(編)『冷戦後国際化時代の地域形成と生活様式：沖縄にみるグローカリズムの可能性』 p.183-195. 文部省科学研究費補助金・基礎研究(A)(1)研究成果報告書)
- 長谷川啓介「社会運動概念の再構築：アルベルト・メルッチのパラダイム革新作業」(『年報社会学論集』13 p.61-72. 関東社会学会)
- 井上治子・成元哲・中澤秀雄・角一典・樋口直人・水澤弘光「環境政策形成における環境運動の機能：1968～82年の住民運動と公害対策の関連を中心に」(『地球環境研究』46 p.7-23. (財)地球環境財団)
- 石倉康次「部落問題論における主観的理論の問題性」(『部落問題研究』153 p.58-67. (社)部落問題研究所)
- 角一典「住民運動の成功/失敗と政治的機会構造：長野県東信地域における二つの住民運動の比較分析」(『現代社会学研究』13 p.27-43. 北海道社会学会)
- 駒井洋「超過滞在外国人の定住化と在留特別許可」(駒井洋(編)『超過滞在外国人と在留特別許可：岐路に立つ日本の出入国管理政策』 p.9-15. 明石書店)
- 草柳千早「社会問題という経験」(『フィールドワークの経験』 p.161-175. せりか書房)
- 草柳千早「夫婦別姓と社会問題の社会学」(『三色旗』622 p.26-30. 慶應義塾大学通信教育部)
- 西城戸誠「環境運動の興隆と沈静：運動間ネットワーク・運動の中断・「運動の溢れ出し効果」」(『現代社会学研究』13 p.81-98. 北海道社会学会)
- 野宮大志郎・西城戸誠「社会運動イベントデータベースの構築：その手順と方策」(『北海道大学大学院文学研究科紀要』102 p.107-127. 北海道大学大学院文学研究科)
- 荻野達史「文化変動の組織化：「ひと」運動の研究(上)」(『人文論集』51 p.47-75. 静岡大学人文学部)
- 志村明子「奥むめおによる戦前の女性運動：セトルメント活動とパース・コントロール運動を中心に」(『中京大学社会学部紀要』15(1) p.1-26. 中京大学社会学部紀要編集委員会)
- 山脇千賀子「リマにおける新たな「社会」の胎動：社会組織・ソシアビリティ・エスニックグループ」(『筑波大学地域研究』18 p.87-105. 筑波大学地域研究研究科)

12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor)

- 安藤喜久雄「企業社会の構図」(安藤喜久雄(編)『企業変容と勤労者生活』 p.1-21. 学文社)
- 荒岡作之「「選択社会」[平成11年度国民生活白書]を考える：変わりゆく雇用環境と国民生活」(『大阪経済法科大学総合科学研究所年報』19 p.106-115. 大阪経済法科大学)
- 朝水宗彦「オーストラリアにおける観光政策と地域開発」(『開発政策研究』2 p.32-55. 北海学園北見大学)
- 遠藤惣一「イギリスの労使関係：1970年代の中規模企業の労働者参加の事例研究」(『関西学院大学社会学部紀要』84 p.7-15. 関西学院大学社会学部研究会)
- 榎本環「ホワイトカラーの行為形成の与件の要因」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』45(1) p.129-139. 早稲田大学大学院文学研究科)
- 榎本環「銀行労働の記録 その2：参与観察法調査・ホワイトカラーの職場生活と「個人」」(『労働社会学研究』2 p.55-100. 日本労働社会学会)
- 広田照幸「戦前期陸軍将校における昇進競争」(『国際交流』86 p.24-29. 国際交流基金)
- 今城義隆「介護保障の国際的動向」(中條毅(編)『京都府の雇用開発：介護保険法施行に伴う雇用創出・開発』 p.53-66. 社団法人 関西国際産業関係研究所)
- 石田光規「ホワイトカラー従業員の意識：満足と責任」(『社会学研究科論集』7 p.143-151. 立教大学大学院)
- 岩間剛「スリランカ高地の農業労働者(II)」(『論叢』40 p.25-44. 玉川大学文学部)
- 川喜多喬「中小・中堅製造業の経営戦略と人的資源(1)」(『経営志林』37(3) p.1-11. 法政大学経営学会)
- 河西安祐「社会調査教育の模索」(『日本労働社会学会年報』11 p.45-60. 東信堂)

- 河西宏祐「若き日の藤川義太郎」(電産東京八・二六会50年誌刊行会(編)『源流』 p.71-78. 光陽出版社)
- 木本喜美子「企業社会の変化と家族」(『家族社会学研究』12(1) p.27-40. 日本家族社会学会)
- 木本喜美子「女性労働研究の到達点と課題」(木本喜美子・深澤和子(編)『現代日本の女性労働とジェンダー』ミネルヴァ書房)
- 木本喜美子「労働とジェンダー」(『大原社会問題研究所雑誌』500 p.2-16. 法政大学大原社会問題研究所)
- 木村清司「経営文化と経営倫理の一研究」(『愛国学院大学人間文化研究紀要』2 p.35-49. 愛国学院大学人間文化学部)
- 木村雅文「変わりゆく職業生活」(富田英典・森谷 健(編)『社会学フォーラム：着かないく私」とく社会』) p.138-155. 福村出版)
- 北嶋 守「21世紀に向けた機械関連企業の経営ビジョン：グレーの時代からオレンジの時代へ」(『ECO-FORUM』19(1) p.11-19. (財)統計研究会)
- 北嶋 守「地域のものづくり人材の育成とその人々の活躍：人を魅了する中小製造業及び地域の要件」(『地域産業政策大賞論文集』2000(6) 中小企業都市連絡協議会)
- 北嶋 守「中小製造業における産学官連携活動の実態分析：コンペティション&コラボレーションの場の形成」(『機械経済研究』32 p.1-19. (財)機械振興協会経済研究所)
- 北嶋 守「日系製造業における企業文化の移転に関する社会学的考察：マレーシア・パシグダン工業団地等での調査に基づいて」(『文教大学国際学部紀要』11(1) p.159-174. 文教大学)
- 黒田英一「事例調査：キャノンにみる試作品のネットワーク」(『研究紀要』22(4) p.59-80. 青森大学・青森短期大学学術研究会)
- 黒田英一「東京におけるモノづくり：中小企業のニッチ戦略」(『研究紀要』23(2) p.117-138. 青森大学・青森短期大学学術研究会)
- 李 政珍「企業別組合体制下におけるコーポラティズムの制度化の条件：日本と韓国の比較を通じて」(『新潟大学経済学年報』24 p.1-23. 新潟大学経済学部)
- 李 政珍「日本の労働組合の経営参加の成果：平成不況期において」(『日本労働研究雑誌』485 p.49-60. 日本労働研究機構)
- 牧 正英「高齢化社会と労働問題に関する実証的研究：そのII」(『関西学院大学社会学部紀要』86 p.9-28. 関西学院大学社会学部研究会)
- 牧 正英「高齢化社会と労働問題に関する実証的研究：そのI」(『関西学院大学社会学部紀要』84 p.77-95. 関西学院大学社会学部研究会)
- 三浦典子「企業文化の形成と企業の社会的貢献」(『山口大学文学会誌』50 p.1-17. 山口大学文学会)
- 三浦雄二「日本産業社会の制度的構造」(『三田商学研究』43(5) p.93-112. 慶應義塾大学商学会)
- 三善勝代「男女共同参画社会におけるキャリア開発に関する一展望：L.ベイリンによる示唆を基に」(『産業・組織心理学学会発表論文集第16回大会』 p.88-91. 産業・組織心理学学会第16回大会準備委員会)
- 村上あかね「女性の就業とライフコース：専門職女性を対象に」(『年報人間科学』21 p.207-224. 大阪大学人間科学部社会学・人間学・人類学研究室)
- 西川真規子「日本における正社員の企業帰属意識：その構成要素と影響を与える要因、及び結果についての実証分析」(『社会科学研究』51(4) p.135-157. 東京大学社会科学研究所)
- 野崎敏郎「日本人の商業道徳と黄禍論：日本資本主義精神論争への忘れられた前哨」(歴史と方法編集委員会(編)『歴史と方法4：帝国と国民国家』 p.185-234. 青木書店)
- 仙田幸子「女性一般職のキャリア形成：その促進要因と限界」(『女性労働研究』(38) p.96-102.)
- 仙田幸子・樋口英雄「妻の職種別にみた子どもを持つことの経済的コストの違い」(『人口問題研究』56(4) p.19-37.)
- Suzuki, Yuzuru. "Task Interdependence and Technology Transfer" 'Human Science.' 6 p.47-59. Department of Human Sciences, Kyushu university.
- 武川正吾「個人保障・企業保障・社会保障」(武川正吾・佐藤博樹(編)『企業保障と社会保障』 p.17-34. 東京大学出版会)
- 武川正吾・佐藤博樹「序論」(武川正吾・佐藤博樹(編)『企業保障と社会保障』 p.1-13. 東京大学出版会)
- 矢野晋吾「『出稼ぎ』研究の理論的前提：当事者の論理と社会的性格の検討を通じて」(『日本労働社会学会年報』11 p.63-90. 日本労働社会学会)
- 安田 雪「先端情報通信企業従業員のパーソナルネットワークの構造」('The Journal of Applied Sociology.' 42 p.83-109. 立教大学社会学部)
- 安田 雪・石田光規「相談と情報交換：パーソナルネットワークの機能」(『社会学評論』51(1) p.104-119. 日本社会学会)
- Yoshihara, Naoki; Dwianto, R.D. "Japanese Management System and Asian Societies" 'Papers for the 4th International Symposium on Japanese and Macau Studies.' p.239-49. Macau University.

13. 人 口 (Population)

- 古田隆彦「スウェーデン・モデルの失敗」(『中央公論』2000(12) p.104-111. 中央公論新社)

- 古田隆彦「少子化国家こそ21世紀の先進国」(『潮』2000(8) p.94-105. 潮出版社)
- 嵯峨座晴夫「高齢化と政策的対応」(石南国・早瀬保子(編)『アジアの人口問題』 p.81-110. 大明堂)
- 嵯峨座晴夫「世界の人口構造」(『統計』51(10) p.10-19. 日本統計協会)
- 嵯峨座晴夫「大衆長寿と高齢者のライフスタイル」(『老年社会科学』22(3) p.324-330. 日本老年社会科学会)
- 嵯峨座晴夫「東アジア諸国の人口高齢化と関連する諸問題」(『老年社会科学』22(1) p.12-18. 日本老年社会科学会)
- Sodei.Takako. "Characteristics of Japan's Aging Society" 'Life in Japan : Reflection on Fifty Years of Change.' p.174-180. Kenpakusha.
- 戸谷 修「愛知県西三河地域における人口動態とその変化：三好町を事例として」(『椋山女学園大学研究論集社会科学篇』31 p.63-82. 椋山女学園大学)
- Tsuya,Noriko; Kurosu,Satomi. "Economic and Household Covariates of First Marriage in Early Modern Japan : Evidence from Two Northeastern Villages. 1716-1870" 'Family Structures, Demography and Population : A Comparison of Societies in Asia and Europe.' p.131-157. Laboratoire de Demographie de l'Universite de Liege.
- Tsuya,Noriko; Kurosu,Satomi. "Mortality Responses to Short-Term Economic Stress and Household Context in Eighteenth and Nineteenth Century" 'Population and Economy : From Hunger to Modern Economic Growth.' p.421-455. Oxford University Press.
- 若林敬子「都市へ国外へ：動き始めた中国人口：13億もの人口数量と人口移動のもつ意味」(国分良成(編)『中国全球化が世界を揺るがす』 p.71-94. ウェッジ)
- 材木和雄「晩婚化・未婚化と少子化の動向」(渡辺 満・小谷朋弘(編)『高齢社会論』 p.33-74. 成文堂)

14. 教 育 (Education)

- Arimoto.Akira. "Recent Development of Higher Education Research and Higher Education Policy in Japan" 'Research on Higher Education : Its Relationship to Policy and Practice.' p.93-106. Pergamon Press.
- Arimoto.Akira. "Summary of Progress of the Higher Education Research Project and the Meaning of the Presidents' Summit" 'Higher Education Reform for Quality Higher Education on Management in the 21st Century : Economic, Technological, Social and Political Forces Affecting Higher Education.' p.1-19. Research Institute for Higher Education, Hiroshima University.
- 有本 章「FDの必要性と授業評価」(『関西大学一般教育等センター報』26 p.1-24. 関西大学)
- 有本 章「学部教育の展開」(有本 章(編)『学部教育の展開(高等教育研究叢書60)』 p.1-17. 広島大学大学教育研究センター)
- 有本 章「高校・大学の連携による高校生の学習機会の拡充をどう図るか」(『教職研修』28(7) p.70-71. 教育開発研究所)
- 有本 章「総括と展望」(有本 章(編)『学部教育の展開(高等教育研究叢書60)』 p.173-182. 広島大学大学教育研究センター)
- 千葉聡子「対立する家族の二つの機能：データが示す家族機能の変化」(『文教大学教育学部紀要』34 p.47-58. 文教大学教育学部)
- 土井隆義「いじめ問題をめぐる二つのまなざし：「心の教育」はいじめ問題を解決するか？」(大村英昭(編)『臨床社会学を学ぶ人のために』 p.120-143. 世界思想社)
- 江原武一「公教育における宗教の位置：アメリカを中心に」(江原武一(編)『公教育の宗教的寛容性および共通ツラパスに関する国際比較研究(平成11~12年度科研費報告書)』 p.1-23. 京都大学大学院教育学研究科比較教育学研究室)
- 江原武一「公教育における多文化教育の展開」(江原武一(編)『多文化教育の国際比較：エスニシティへの教育の対応』 p.14-34. 玉川大学出版部)
- 江原武一「高等教育における「知」の再構築の動向：アメリカの大学を中心に」(『京都大学大学院教育学研究科紀要』46 p.26-41. 京都大学大学院教育学研究科)
- 濱名 篤「学生の教育期待と大学評価」(『高等教育研究』3 p.125-145. 日本高等教育学会)
- 浜野 隆・北條英勝・岩田弘三・中嶋充洋・潮木守一「学生ボランティア活動に関する意識調査」(『武蔵野女子大学現代社会学部紀要』1 p.171-193. 武蔵野女子大学現代社会学部)
- 橋爪大三郎「アメリカの大学と情報教育」(『季刊・本とコンピュータ』1392 p.139-145. トランスアート市ヶ谷分室)
- 橋爪大三郎「大学を国から奪え」(『論座』61 p.92-99. 朝日新聞社)
- 広田照幸・鈴木智道・高瀬雅弘「旧制中学校卒業生の進路規定要因に関する研究：山形県鶴岡中学校を事例として」(『東京大学大学院教育学研究科紀要』39 p.97-124. 東京大学大学院教育学研究科)
- 堀 薫夫「高齢者の生涯学習をめぐる課題と展望」(『老年社会科学』22(1) p.9-11. 日本老年社会科学会)
- 堀 薫夫「都市型老人大学の社会的機能に関する調査研究：教育行政系老人大学と福祉行政系老人大学の対比」(『日本社会教育学会紀要』36 p.99-111. 日本社会教育学会)
- 岩本健良・星 敦士「大学入試と学校選択：文学部への志願者を引きつけるものは何か？」(『金沢大学文学

- 部論集 行動科学・哲学篇』20 p.21-38. 金沢大学文学部)
- 鎌田奈帆子「女性規範の形成過程」(『人間科学：社会学・心理学研究』53 p.53. 関西大学大学院社会学研究科院生協議会)
- 上久保達夫「ドイツの日本人子女教育の現状：補習授業校児童生徒を中心に」(大阪教育大学社会学研究会(編)『ドイツの日本人学校：補習授業校調査報告』 p.33-42. 大阪教育大学比較社会研究室)
- 片田江綾子「アメリカにおけるキャリアに関する教育：家庭科教科書の分析」(『お茶の水女子大学人文科学紀要』53 p.473-487. お茶の水女子大学)
- Kikkawa, Toru. "Changes in the Determinant of Class Identity in Japan" 'International Journal of Sociology.' 30(2) p.34-51. M.E.Sharpe.
- 吉川 徹「大衆教育社会のなかの階層意識」(近藤博之(編)『日本の階層システム3：戦後日本の学歴社会』 p.175-195. 東京大学出版会)
- 桐田克利「遊びの躍動」(亀山佳明・麻生 武・矢野智司(編)『野生の教育をめざして：子どもの社会化から超社会化へ』 p.88-111. 新曜社)
- 小玉美意子「マスコミ講座におけるジェンダー意識」(『総合ジャーナリズム研究』173 p.36-39. 社団法人東京社)
- Kondo, Hiroyuki. "Education and Social Mobility in Postwar Japan: Trends and Some Institutional Aspects" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.3-19. Japan Sociological Society.
- 前田尚子「いじめとコミュニケーション観：第1章第4節」(橋本満弘・北出亮・會澤まりえ(編)『日本社会とコミュニケーション：日本コミュニケーション学会創立30周年記念論文集第2巻』 p.30-38. 三省堂)
- 牧野暢男「女子大学の将来展望に関する一考察」(『人間研究』36 p.5-14. 日本女子大学教育学科の会)
- 牧野暢男「日本の教育100年：社会変動と教育」(『統計』51(11) p.1-8. 日本統計協会)
- 松浦さと子「非営利セクターにおける環境アドボカシーの学際性と消費者教育への統合：情報技術による拡散と細分化を越えて」(『消費者教育(日本消費者教育学会雑誌)』20 p.31-39. 日本消費者教育学会)
- 村松幹子「イギリスの大学院教育：ロンドン大学Institute of Educationでの留学経験をもとに」(『人間研究』36 p.27-33. 日本女子大学教育学科の会)
- 村松幹子「女子学生のライフコース展望とその変動」(『教育社会学研究』66 p.137-155. 日本教育社会学会)
- 中山忠政「わが国における自閉症教育施策の変遷に関する研究：自閉症教育の開始とその広がり」(『発達障害研究』22(3) p.230-237. 日本発達障害学会)
- 中澤 渉「推薦入試の中学生に及ぼすインパクト：導入の理念と意図せざる帰結」(『東京大学大学院教育学研究科紀要』40 p.47-58. 東京大学大学院教育学研究科)
- 荻野勝行「カナダの大学生の宗教教育に関する意識」(『宗教研究』73/4巻322号 日本宗教学会)
- 小澤浩明「「中流」階層の両極化とその教育問題：新自由主義による社会の再編現象」(『教育』658 国土社)
- 佐々木洋成「教育達成と属性要因：学校歴による再生産の計量分析」(『社会学評論』51(2) p.219-234. 日本社会学会)
- 笹谷春美「ジェンダー視点を導入したスウェーデンの教師教育」(亀田温子・館かおる・川成真由美・宮崎あゆみ・島山幸子・熊安貴美江・中西裕子・岸沢初美・野崎与志子・松村やすこ・河上婦志子(編)『学校をジェンダー・フリーに』 p.287-305. 明石書店)
- 白鳥義彦「フランス第三共和政下の高等教育とアメリカ」(『椋山女学園大学研究論集社会科学篇』31 p.115-122. 椋山女学園大学)
- 袖井孝子「家族関係学の挑戦」(『家族関係学』 p.1-6. 日本家政学会家族関係部会)
- 住田正樹「地域教育の再生は可能か」(門脇厚司・無藤隆・谷川彰(編)『教育環境の再生をめざして』 p.173-224. 東京書籍)
- 住田正樹・中田周作「父親の育児態度と母親の育児不安」(『大学院教育学研究紀要』2 p.19-38. 九州大学大学院人間環境学研究科)
- 多賀 太・春日清孝・池田隆英・藤田由美子・氏原陽子「「ジェンダーと教育」研究における<方法意識>の検討」(『久留米大学文学部紀要人間科学科編』16 久留米大学文学部)
- 高島秀樹「初期アメリカ学校調査の基本的方針と成果(1)：「教育調査の歴史」論旨その7、教育調査成立史(4)」(『明星大学研究紀要：人文学部』36 p.121-134. 明星大学人文学部)
- 田野崎昭夫「教育問題と大人社会の変化」(田野崎昭夫(編)『代社会学のパスベクティブ』 p.106-125. 学文社)
- 天童睦子「かくれた社会統制とジェンター：バーンステインからアーノットへ」(『論集』50(2) p.275-292. 東京女子大学)
- 天童睦子「バーンステインの権力・統制論再考：ジェンダー・コードの視点から」(『教育社会学研究』67 p.83-99. 日本教育社会学会)
- 上杉孝實「「人権教育のための国連10年」行動計画の比較検討」(『部落解放研究』132 p.2-11. 部落解放・人権研究所)
- 上杉孝實「子どもの人権と教育」(『都市問題研究』589 p.39-49. 都市問題研究所)
- 上杉孝實「大学成人教育における知識：日英の比較」(『龍谷大学論集』456 p.100-121. 龍谷大学龍谷学会)
- 上杉孝實「男女共生への学校教育」(日本ジェンダー学会(編)『ジェンダー学を学ぶ人のために』 p.215-225. 世界思想社)

- 矢島正見「地域教育力を考える」(『青少年問題』47(4) p.4-9. (財)青少年問題研究会)
 山本雄二「教育問題研究の展開と可能性」(『現代の社会病理』15 p.19-37. 日本社会病理学会)
 山下大厚「国民化とラジオ体操：国家の身体とわたしの身体」(『法政大学大学院紀要(人文・社会)』44 p.145-158. 法政大学大学院)
 山下大厚「明治大正期の女子運動会：身体・ホーム・セクシュアリティ」(『法政大学大学院紀要(人文・社会)』45 p.39-57. 法政大学大学院)

15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality)

- 秋庭 裕「抜苦代受と霊言発露：宗教法人真如苑における」(『人間関係論集』17 p.101-115. 大阪女子大学人間関係学科)
 福島邦夫「九州沿岸部における巫女の伝統：対馬、壱岐を中心に」(長崎大学文化環境研究会(編)『環境と文化』 p.251-280. 九州大学出版会)
 後藤嘉宏「中井正一におけるコミュニケーションの双方向性」(『マス・コミュニケーション研究』57 p.122-137. 日本マス・コミュニケーション学会)
 橋爪大三郎「『君が代』を考える」(『季刊エクスムジカ』1 p.20-22. ミュージックスケイプ)
 飯田剛史「宗教的伝統とキリスト教の発展：韓日比較の視点より」(小林孝行(編)『変貌する現代韓国社会』 p.141-162. 世界思想社)
 伊奈正人「マニュアル人間のゲームとドラマ」(玉水俊哲・矢澤修次郎(編)『社会学のよろこび：生活のなかから考える』 p.35-63. 八千代出版)
 伊奈正人「ミルズ知識社会学再考：序説的素描」(『経済と社会』28 p.25-44. 東京女子大学社会学会)
 伊奈正人「居場所をさがす女子大生」(藤竹 暁(編)『現代人の居場所(現代のエスプリ別冊 生活文化シリーズ3)』 p.125-135. 至文堂)
 伊奈正人「若者の意識変化と地域文化の可能性」(『岐阜を考える』103 p.26-30. 岐阜県産業経済振興センター)
 櫻村愛子「シンディ・シャーマンの症候的擬態：ヒステリー以前の寸断された擬態について」(『文学論叢』120 p.151-166. 愛知大学文学会)
 櫻村愛子「ラカン派社会学から見た『オウム真理教』」(『文明21』(4) p.115-127. 愛知大学国際コミュニケーション学会)
 櫻村愛子「リスク社会におけるグローバル的危機管理としてのニューエイジ運動：宗教の脱ローカル化と心理療法の再理め込み化」(『宗教と社会』6 p.93-129. 宗教と社会学会)
 櫻村愛子「自己啓発セミナーの臨床社会学」(大村英昭・野口裕二(編)『臨床社会学のすすめ』 p.65-93. 有斐閣)
 櫻村愛子「心の時代のジャパニメーション」(『文明21』5 p.145-176. 愛知大学国際コミュニケーション学会)
 櫻村愛子「北野武にみる暴力と世界の創設について」(『Becoming』6 p.44-50. BC出版)
 櫻村愛子・鈴木規夫・渡辺守雄・竹山博英「メディア・リテラシーとジャパニメーション」(『文明21』(5) p.145-176. 愛知大学国際コミュニケーション学会)
 片岡栄美「ライフスタイルの社会的特性」(片岡栄美(編)『階層文化とライフスタイルの社会学的研究』 p.97-114. 「ライフスタイルと文化」研究会)
 片岡栄美「音楽趣味と社会階層」(片岡栄美(編)『階層文化とライフスタイルの社会学的研究』 p.39-51. 「ライフスタイルと文化」研究会)
 片岡栄美「写真イメージにみる美的感性」(片岡栄美(編)『階層文化とライフスタイルの社会学的研究』 p.59-73. 「ライフスタイルと文化」研究会)
 片岡栄美「文化的オムニボア化の進行：文化活動にみる文化的寛容性」(片岡栄美(編)『階層文化とライフスタイルの社会学的研究』 p.9-16. 「ライフスタイルと文化」研究会)
 片岡栄美「文化的寛容性と象徴的境界：現代の文化資本と階層再生産」(今田高俊(編)『社会階層のポストモダン』 p.181-220. 東京大学出版会)
 加藤 実「金光大神の社会へのまなざしと「理解」：明治十一年五月一日のお知らせをめぐる」(『金光教学』40 p.1-32. 金光教教学研究所)
 ケント, ポーリン「究極の相対主義者?：ルース・ベネディクトの日本研究法」(トキタ, アリソン(編)『日本文化再考』 p.61-86. Monash Asia Institute.)
 君塚大学「儒教文化測定尺度の仮構」(『佛教大学総合研究所紀要』7 p.5-27. 佛教大学)
 児山真生「『頼者』の金光教：教団の成り立ちへの問いかけとして」(『金光教学』40 p.111-141. 金光教教学研究所)
 倉橋重史「絵画の社会学：1」(『社会学部論集』33 p.1-15. 佛教大学社会学部)
 倉橋重史・吉田晶子・中西晴子「感性について」(『佛大社会学』25 p.42-65. 佛教大学社会学研究会)
 黒木雅子「ディアスポラのフェミニスト神学」(『人間文化研究』4 p.51-65. 京都学園大学人間文化学会)

- 前納弘武「夫の居場所」(藤竹 暁(編) 『現代のエスプリ別冊:生活文化シリーズ3』 p.171-182. 至文堂)
- 真鍋一史;ヤゴジンスキー,ウオルフガング「家族と宗教:価値志向の視座から」(『関西学院大学社会学部紀要』 88 p.1-21. 関西学院大学社会学部研究会)
- 真鍋一史;ヤゴジンスキー,ウオルフガング;小野寺典子「ドイツと日本における家族志向と宗教:ISSP宗教調査データの分析」(『NHK放送文化調査研究年報』 45 p.239-260. NHK放送文化研究所)
- 三木 英「巡礼の創出・聖地の出現」(三木 英(編) 『社会の危機と宗教の可能性:阪神大震災被災地における宗教の実証的研究』 p.66-84. 1998-1999年度 科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書)
- 水野照雄「金光大神の晩年における天地書附の意義と取次の姿勢」(『金光教学』 40 p.80-110. 金光教教学研究所)
- 村田充八「日本社会の宗教性:「生命主義的救済観」とカルヴィニズムの視点から」(『阪南論集 人文・自然科学編』 35(4) p.199-211. 阪南大学学会)
- 新田光子「生と死と宗教:「水子供養」と「脳死問題」」(平野武(編) 『生命・環境と現代社会』 p.95-107. 晃洋書房)
- 野野幸治「プッタート比丘の母親観:「正法母」の思想」(『南方文化』 27 p.1-17. 天理南方文化研究会)
- 荻野昌弘「社会学における文化の位置」(『ソシオロジ』 45(1) p.25-34. 社会学研究会)
- 大川清文「「頑張り」と日本社会:社会学的考察」(『甲子園大学紀要人間文化学部編』 3(C) p.57-66. 甲子園大学)
- 大野道邦「日本の社会と文化:「前近代」、「近代」、「ポスト近代」の構造的布置」(『社会学雑誌』 17 p.3-22. 神戸大学社会学研究会)
- 大谷栄一「近代仏教運動の布教戦略:戦前期日本の日蓮主義運動の場合」(大谷栄一・川又俊則・菊池裕生(編) 『構築される信念:宗教社会学のアクチュアリティを求めて』 p.61-83. ハーベスト社)
- 澤井 敦「現代日本の死生観と社会構造(上)」(『人間関係学研究(大妻女子大学人間関係学部紀要)』 1 p.13-29. 大妻女子大学)
- 澤井 敦「老い、死の様相と地域社会」(高橋勇悦・大坪省三(編) 『社会変動と地域社会の展開』 p.146-162. 学文社)
- 島蘭 進「現代宗教と公共空間:日本の状況を中心に(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会学的想像力:新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』 50(4) p.541-555. 日本社会学会)
- 鈴木正崇「仮面と境界:スリランカの場合」(廣田律子(編) 『アジアの仮面』 p.213-254. 大修館書店)
- 鈴木正崇「中国貴州省の祭祀と仮面:徳江灘堂戯の考察」(石田秀実(編) 『東アジアの身体技法』 p.317-393. 勉誠出版)
- 鈴木正崇「追讎の系譜:鬼の変容をめぐる」(松岡心平(編) 『鬼と芸能:東アジアの演劇形成』 p.87-121. 森話社)
- 鈴木正崇「苗族の巫女さんたち」(星野紘・野村伸一(編) 『歌・踊り・祈りのアジア』 p.152-175. 勉誠出版)
- 鈴木正崇「来訪する神霊:中国・広西のモウコウとマンガオ」(星野紘・野村伸一(編) 『歌・踊り・祈りのアジア』 p.66-95. 勉誠出版)
- 鈴木正崇「巫女と男巫のはざま:神子と法者を中心に」(脇田晴子・ブッシリアンヌ(編) 『アイデンティティ・周縁・媒介』 p.193-211. 吉川弘文館)
- 鈴木正崇「巫現についての私見」(『巫現盲僧学会会報』 12 p.1-4. 巫現盲僧学会)
- 田所承己「消費空間の変容と郊外」(『ソシオロジカル・ペーパーズ』 9 p.1-14. 早稲田大学大学院社会学部社会学研究会)
- 田所承己「徳島県における遍路道沿道習俗:「お接待」を中心として」(長田攻一(編) 『現代社会における四国遍路道を巡る経験と社会・文化的装置の関係に関する研究』 早稲田大学文学部社会学教室道空間研究所)
- 武山 智「異文化編入の果てにあるもの:内臓食と日本人」(『人文研紀要』 39(2000) p.139-167. 中央大学人文科学研究所)
- 田中秀隆「岡倉天心のメタ・ナショナリズム:『日本の覚醒』の分析力」(『徳川林政史研究所「研究紀要」』 34 p.147-165. 財団法人 徳川黎明会)
- 山下典子「『米欧回覧実記』の社会学的一考察:欧米の風景がいかに日本に紹介されたか」(『第5回観光に関する学術研究論文 入選論文集』 (財)アジア太平洋観光交流センター)
- 好井裕明・山田富秋「「歴史」と「わたし」をへだててゆく語り:映画『東京裁判』のナラティブ・ポリテクス」(栗原彬・小森陽一・佐藤学・吉見俊哉(編) 『越境する知2:語り:つむぎだす』 p.207-229. 東京大学出版会)

16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness)

- 赤堀三郎「結婚観の国際比較:ISSP 1994年調査による分析」(佐藤博樹・石田 浩・池田謙一(編) 『社会調査の公開データ:2次分析への招待』 p.227-240. 東京大学出版会)
- 土肥 豊「ドイツの生活と子供の異文化体験」(大阪教育大学社会学研究会(編) 『ドイツの日本人学校:補

- 習授業校調査報告】 p.43-66. 大阪教育大学比較社会研究室)
- 藤村正之「若者と流行：運命づけられた交替の交錯」(『現代のエスプリ・生活文化シリーズ 流行/ファッション』2(別冊) p.107-117. 至文堂)
- 藤竹 暁「居場所を考える」(藤竹 暁(編) 『現代人の居場所』 p.47-57. 至文堂)
- 藤竹 暁「劇場型社会」(藤竹 暁(編) 『劇場型社会』 p.27-37. 至文堂)
- 藤竹 暁「現代消費考」(藤竹 暁(編) 『消費としてのライフスタイル』 p.72-83. 至文堂)
- 藤竹 暁「流行化社会」(藤竹 暁(編) 『流行/ファッション』 p.54-63. 至文堂)
- 船津 衛「社会的自我論の展開」(『東洋大学社会学部紀要』37(4) p.37-54. 東洋大学)
- 細辻恵子「嗜癖としての「自分探し」」(亀山佳明・麻生 武・矢野智司(編) 『野性の教育をめざして：子どもの社会化から超社会化へ』 p.69-86. 新曜社)
- 犬塚 先「青年の自立意識と行動・情報環境」(『千葉大学『人文研究』』29 p.35-65. 千葉大学文学部)
- 岩井紀子「『JGSS第1回予備調査のねらい』『JGSS第1回予備調査の方法』『JGSS第1回予備調査の回収率ならびに欠票の分析』『Split-Ballotによる質問項目の検討』」(大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所(編) 『日本版General Social Surveys(JGSS)第1回予備調査 基礎集計・コードブック』 p.5-36. 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所)
- 岩井紀子「日本の総合社会調査：Japanese General Social Surveys」(佐藤博樹・石田 浩・池田健一(編) 『社会調査の公開データ：2次分析への招待』 p.83-87. 東京大学出版会)
- 岩本茂樹「ジャック アンド ベティ：敗戦直後のアメリカ文化へのまなざし」(『メディア史研究』9 p.65-83. メディア史研究会)
- 嘉田由紀子「身近な環境の自分化：科学知と生活知の対話を目指したホタルダス」(水と文化研究会(編) 『みんなでホタルダス：琵琶湖地域のホタルと身近な水環境調査』 p.192-220. 新曜社)
- 亀山聖未「『配慮』の構図：たばこ論における「健康」「他者」」(『ソシオロジ』45(2) p.21-37. 社会学研究会)
- 檉村愛子「社会の心理学化と臨床社会学」(『文学論叢』122 p.196-218. 愛知大学文学会)
- 木村邦博「社会の問題と関わる」(小林裕・飛田操(編) 『【教科書】社会心理学』 p.212-227. 北大路書房)
- 小松文晃「リスクとシステム信頼：批判的リスク論の可能性」(『社会学年報』29 p.67-91. 東北社会学会)
- 小室玲子；長沼恭子；才津芳昭；バリー,N.D.; 落合幸子「青年期の自己の存在価値への信頼と親からのメッセージとの関連」(『茨城県立医療大学紀要』5 p.109-119. 茨城県立医療大学)
- 真鍋一史「世論研究の系譜・現状・課題」(『日本世論調査協会報』85 p.43-46. 日本世論調査協会)
- 三重野 卓「『こころの豊かさ』への志向構造」(今田高俊(編) 『日本の階層システム5：社会階層のポストモダン』 p.83-109. 東京大学出版会)
- 西平重喜「日本人の国民性調査の周辺」(『統計数理』48(1) p.67-76. 統計数理研究所)
- 小熊英二「『日本型』近代国家における公共性(〈特集〉200号記念特集・21世紀への 社会的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.524-540. 日本社会学会)
- 笹野悦子「1990年代日本の新聞に見る「主婦」表象の個人化可能性」(『年報社会学論集』13 p.122-133. 関東社会学会)
- 高橋正樹「働く女性の物語・試論：女性総合職の登場」(『Sociology Today』(10) p.72-85. お茶の水社会学研究会)
- 高橋勇悦「高齢者の生きがいに関する国際比較研究」(『生きがい研究』6 p.18-40. 長寿社会開発センター)
- 武川正吾「財界の国際戦略」(古城利明(編) 『世界社会の現実化と市民意識の成熟度』 p.7-11.)
- 富永茂樹「1791年の中間集団：公共空間の社会学のために(〈特集〉200号記念特集・21世紀への社会的想像力：新しい共同性と公共性)」(『社会学評論』50(4) p.509-523. 日本社会学会)
- 豊島慎一郎「社会的認知と政治的意見：地位特性理論の応用」(宮野勝(編) 『社会的公正感の研究：公正判断の意識構造の解明』 p.133-149.)
- 土田昭司「日本におけるゼロ・リスク認知：研究の試み」(『関西大学社会学部紀要』31(2/3) p.257-279. 関西大学社会学部)
- 上田 裕「遊園地の文化社会学：遊園娯楽の構造と歴史」(『研究論集』35 p.105-115. 愛知学泉大学)
- 海野道郎「豊かさの追求から公平社会の希求へ：階層意識の構造と変容」(海野道郎(編) 『日本の階層システム2：公平感と政治意識』 p.3-36. 東京大学出版会)

17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol)

- 相田敏彦「コミュニケーション研究：礎の転換を探る II」(『駒沢大学マス・コミュニケーション研究所年報』18 p.145-175. 駒沢大学)
- 秋吉美都「媒介されたコミュニケーションと感情規則：グリーン・サポート・ネットワークにみる技術の関与」(『社会学評論』51(2) p.204-218. 日本社会学会)
- 朝水彦彦「メディアの中の多文化社会」(『西洋史』11 p.29-32. 秋田大学)
- 船津 衛「コミュニケーション」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編) 『社会学の理論』 p.79-96.

有斐閣)

- 後藤嘉宏「サイバースペースを貫徹する平等原則」(『人文学と情報処理』29 p.14-25. 勉誠出版)
- 後藤嘉宏「中井正一の映画・理論の理解のために:基礎射影とコブラ両概念に着目して」(『メディア史研究』10 p.55-75. ゆまに書房)
- 後藤嘉宏「中井正一の出版論:図書館思想との関わりにおいて」(『出版研究』30 p.71-92. 日本出版学会編集発行出版ニュース社)
- 平松貞実「メディアの多様化と新聞」(高野邦彦・平松茂實(編)『現代社会変化と消費者・企業行動』 p.205-225. 税務経理協会)
- 平塚千尋「検証・デジタル電子メディア時代の災害情報:2000年有珠山噴火」(『放送研究と調査』50(9) p.68-79. 日本放送出版協会)
- 因幡哲男・栗田宣義「省略されたメッセージはどのように補完されるのか」(『ソシオロジスト』2 p.21-39. 武蔵社会学会)
- 伊藤智樹「セルフヘルプ・グループと個人の物語」(『社会学評論』51(1) p.88-103. 日本社会学会)
- Ito, Youichi. "What Causes the Similarities and Differences Among the Social Sciences in Different Cultures?: Focusing on Japan and the West" 'Asian Journal of Communication.' 10(2) p.93-123. Asian Media Information and Communication Centre.
- 伊藤陽一「ニュース報道の国際流通に関する理論と実証」(『メディア・コミュニケーション』50 p.45-63. 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所)
- 井澤弘郎・栗田宣義「ゲームにおける報酬とは何か」(『ソシオロジスト』2 p.1-19. 武蔵社会学会)
- 鎌田大資「こころの病と弁明する人生:経験の再解釈に見られる創造性について」(『椋山女学園大学研究論集社会科学篇』31 p.21-38. 椋山女学園大学)
- 城戸秀之「地域情報化における情報ネットワークの「公共性」について:大分県の事例をもとに」(『経済学論集』53 p.77-101. 鹿児島大学経済学会)
- 小玉美意子「放送における自己批判システムの一考察」(『マス・コミュニケーション研究』57 p.35-49. 日本マスコミュニケーション学会)
- 小松文晃「非知のコミュニケーション:エコロジーのシステム理論」(『社会学研究』67 p.59-89. 東北社会学研究会)
- 栗田宣義「アイコン分析序説」(『武蔵大学総合研究所紀要』10 p.243-253. 武蔵大学総合研究所)
- 栗田宣義「メディアとナショナル・トラスト」(片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』 p.155-177. 新曜社)
- 前納弘武「メディアが作る流行:流行のなかの権力をめぐって」(藤竹 暁(編)『現代のエスプリ別冊:生活文化シリーズ2』 p.74-87. 至文堂)
- 前納弘武「メディアが作る流行」(『現代のエスプリ別冊・生活文化シリーズ』2 p.74-87. 至文堂)
- 前納弘武「小笠原における社会・生活とメディア」(前納弘武(編)『離島とメディアの研究:小笠原篇』 p.3-41. 学文社)
- 前納弘武「情報社会について考える:コンピュータがつくる情報空間の特質をめぐって」(『広領域教育』45 p.4-9. 広領域教育研究会)
- 真鍋一史「海外マス・メディア広告における日本語使用の実態と人々の日本広告をめぐる意識(下)」(『日経広告研究所報』189 p.22-28. 日経広告研究所)
- 真鍋一史:ホルスト・スウェン「ドイツの雑誌広告のなかの日本」(『関西学院大学社会学部紀要』87 p.55-75. 関西学院大学社会学部研究会)
- 圓田浩二「吐く」という社会的行為:摂食障害者へのインタビューから」(『ソシオロジ』44(3) p.75-92. 社会学研究会)
- 圓田浩二「援助交際における性の商品化の様相:援助交際の社会学4」(『関西学院大学社会学部紀要』84 p.169-180. 関西学院大学社会学部研究会)
- 松田美佐「ケータイによる電子メール急増とその影響」(『日本語学』17 p.46-55. 明治書院)
- 松田美佐「若者の友人関係と携帯電話利用:関係希薄化論から選択的関係論へ」(『社会情報学研究』4 p.111-122. 日本社会情報学会事務局)
- 松田美佐「電話とジェンダー」(廣井 脩・船津 衛(編)『情報通信と社会心理』 p.71-93. 北樹出版)
- 松浦さと子「NPOの情報化とMLによる協働:藤前千瀧の事例から」(『財団法人 三重社会経済研究センター『あすの三重』特集:情報ネットシステムが時代を変える』118 p.60-67. (財)三重社会経済センター)
- 三隅一人「役割イメージ分布と役割識別」(『社会分析』27 p.37-51. 日本社会分析学会)
- 三隅一人「役割共有度から見た性別分業の争点」(『ポイエーシス』16 p.33-48. 九州大学文学部・大学院比較社会文化研究科社会学教室)
- 中村 功「携帯電話を利用した若者の言語行動と仲間意識」(『日本語学』2000(10) p.34-43. 明治書院)
- 中村 功「情報通信とは」(廣井 脩・船津 衛(編)『情報通信と社会心理』 p.13-25. 北樹出版)
- 中村 功「電話と人間関係」(廣井 脩・船津 衛(編)『情報通信と社会心理』 p.45-70. 北樹出版)
- 中村 功「流行と口コミと電話」(藤竹 暁(編)『現代のエスプリ』別冊特集『流行…ファッション』 p.199-209. 至文堂)
- 中村 功・橋元良明・他「携帯電話を中心とする通信メディア利用に関する調査研究」(『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』14 p.83-192. 東京大学社会情報研究所)

- Noda, Takashi. "Behavior of Victims and Information Processing During the Great Hanshin-Awaji Earthquake" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.67-80. Japan Sociological Society.
- 小川文弥「性差に見る若者のコミュニケーション：「若者の生活とコミュニケーション調査」から」(『東京国際大学論叢人間社会学部編』6(通巻第57号) p.51-69. 東京国際大学)
- 岡田朋之・松田美佐・羽渕一代「移動電話利用におけるメディア特性と対人関係：大学生を対象とした調査事例より」(『情報通信学会年報』1996年 p.43-60. 情報通信学会)
- 桜井哲夫「速度のなかの文化：90年代の意味」(『大航海』35 p.52-59. 新書館)
- 佐藤嘉倫「コミュニケーションと行為選択：合理的選択理論によるコミュニケーションの分析」(『社会学研究』67 p.41-58. 東北社会学研究会)
- 里深文彦「ヨーロッパ・ミレニアム戦略：情報・人間・環境をめぐって」(『生活経済政策』45 社団法人生活経済政策研究所)
- 鈴木弘貴「『ヨーロッパ人』の誕生？：汎ヨーロッパニュースメディアとその受け手に関する研究」(『東京大学社会学情報研究所』59 p.135-154. 東京大学社会学情報研究所)
- 鈴木 努「メディア・フレーム・アナリシス：イシュー連関の内容分析」(『社会学論考』21 p.25-50. 東京都立大学社会学研究会)
- 土屋礼子「大阪の小新聞」(『人文研究』52 p.1-23. 大阪市立大学文学部)
- 土屋礼子「明治初期のニュース冊子にみる絵と報道」(『ことばと社会』4 p.120-144. 三元社)
- 吉田 純「情報ネットワーク社会における規範形成：「電子民主主義」論を中心に」(越智貢・土屋俊・水谷雅彦(編)『情報倫理学：電子ネットワーク社会のエチカ』 p.49-75. ナカニシヤ出版)

18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems)

- 秋山博介「人格障害のエスノメソドロジー分析」(『実践女子大学紀要』37 実践女子大学)
- 朝倉恵俊「社会調査と現象学による「人工脳波・低周波音」解明の必要性」(『龍谷大学社会学部紀要』17 p.1-9. 龍谷大学社会学部学会)
- 浅野慎一・新垣正美「阪神・淡路大震災被災者の「生命-生活」過程とボランティア：ベルボックスケアセンター調査を素材として」(『地域社会学会年報』12 p.119-137. 地域社会学会)
- 鮎川 潤「21世紀の犯罪学」(『犯罪と非行』126 p.28-59. 日立みらい財団)
- 鮎川 潤「喫煙問題の構築」(『犯罪社会学研究』25 p.67-85. 日本犯罪社会学会)
- 鮎川 潤「社会学における社会構築主義とその犯罪研究への応用の可能性」(『犯罪心理学研究』38(特別号) p.143-158. 日本犯罪心理学会)
- 鮎川 潤「犯罪・少年非行と社会問題」(『刑政』111(3) p.54-61. 矯正協会)
- 土井隆義「子ども仲間集団をめぐる文化遅滞の構図：日本的飽和社会における集団基盤の崩壊と集団主義神話の解体」(駒井 洋(編)『日本の社会知の死と再生：集団主義神話の解体』 p.55-101. ミネルヴァ書房)
- 土井隆義「対話不全社会における少年非行：少年犯罪の衝動化に関する第二考察」(『社会学ジャーナル』25 p.13-35. 筑波大学社会学研究室)
- 「現代社会理論研究」編集委員会事務局「社会問題の構成：定時制における補助金をめぐって」(『現代社会理論研究』10 p.171-181. 現代社会理論研究会)
- Egawa, Naoko; Kato, Chie; Kiwaki, Nachiko; Kumihiro, Yoko; Miyazaki, Seiko; Muroi, Hisae; Nakazawa, Chie; Seike, Misako; Tendo, Mutuko; Tuji, Tomoko; Ueno, Keiko. "Domestic Violence and Gender: The Voices of Older Japanese Women" 'Journal of Asian Women's Studies.' 9 p.1-13. Kitakyushu Forum on Asian Women.
- 原田 豊「犯罪・非行からみた日本の子供と大人」(李漢教授定年記念論文集刊行委員会(編)『李漢教授定年記念論文集：韓日刑事法の課題と展望』 p.399-414.)
- 原田 豊・島田貴仁「カーネル密度推定による犯罪集中地区の検出の試み」(『科学警察研究所報告防犯少年編』40(2) p.125-136. 科学警察研究所)
- 橋爪大三郎「『引きこもり』の社会学」(『ひきこもり「知る語る考える」』1 p.4-11. ポット出版)
- 服部範子「ドメスティック・バイオレンスと家族の揺らぎ」(清水新二(編)『家族問題：危機と存続』 p.64-85. ミネルヴァ書房)
- 星野周弘「社会の変化と犯罪・非行の動向」(『犯罪と非行』126 p.60-83. 日立みらい財団)
- Hoshino, Kanehiro. "Relationships between Juvenile Delinquency and Organized Crime in Japan" 'Problems in and Outlook on Criminal Law in Korea and Japan' (p.653-680. Whasung sa.)
- 星野周弘「非行化過程に応じた非行抑制対策」(新倉 修・横山 実(編)『少年法の展望』 p.79-100. 現代人文社)
- 井上眞理子「政策現場の臨床社会学」(『現代のエスプリ』393 p.127-135. 至文堂)
- 井上眞理子「政策現場の臨床社会学」(大村英昭・野口裕二(編)『臨床社会学のすすめ』 p.196-219. 有斐閣)
- 石川義之「女性が受けた性的被害：大阪コミュニティ調査の統計分析」(『社会システム論集』5 p.1-23. 島

根大学法文学部社会システム学科)

- 間庭充幸「少年犯罪の社会文化史：現代的犯罪との関連で」(『刑政』111(12) p.16-29. 矯正協会)
- 松永寛明「刑罰観衆の二形態」(『市大社会学』1 p.12-23. 大阪市立大学社会学研究会)
- 松永寛明「公開刑廃止の社会的要因」(『犯罪社会学研究』25 p.86-102. 日本犯罪社会学会)
- 水田則子・近藤哲郎「外国人労働者の医療問題と施策の現状：ジェネラリスト・ソーシャルワークの実践的課題」(『関西福祉大学研究紀要』2 p.81-93. 関西福祉大学研究会)
- 中河伸俊「逸脱行為」(碓井 崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸(編) 『社会学の理論』 p.125-138. 有斐閣)
- 中村 功「東海村臨界事故における災害情報の伝達と問題点」(『松山大学論集』12(4) 松山大学)
- 中村 功・廣井 脩・中森広道「1999年福岡水害と災害情報の伝達」(『災害の研究』31 p.109-126. 損害保険料率算定会)
- 西山俊彦「構造的暴力と平和構築の課題：積極的平和と消極的平和の差異を踏まえて」(『キリスト教文化研究所紀要』15(1) p.27-42. 英知大学キリスト教文化研究所)
- Nomiya, Daishiro; Miller, A.S.; Hoffmann, J.P. "Urbanization and Rural Depletion in Modern Japan: An Analysis of Crime and Suicide Patterns" 'International Journal of Comparative and Applied Criminal Justice.' 24(1) p.1-18.
- 大庭絵里「犯罪ニュースにおけるフレームと犯罪に関する公的議論」(『現代社会理論研究』10 p.161-170. 現代社会理論研究会)
- 佐藤 恵「社会的相互作用過程におけるレイベリングの生成」(『現代社会理論研究』10 p.133-150. 現代社会理論研究会)
- 佐藤 恵「被レイベリング者の受容的抵抗：レイベリング論における抵抗観の再検討」(『ソシオロジ』44(3) p.39-55. 社会学研究会)
- 渋谷知美「買春改革論：松沢呉一「売買春肯定論」のあとで」(『クエア・ジャパン』2 p.212-229. 勁草書房)
- 清水新二「アメリカの薬物戦争政策の現状と問題点」(『犯罪と非行』123 p.49-72. 青少年更正福祉センター)
- 清水新二「一般地域住民にみる薬物乱用問題に関する意識と介入意向」(『日本アルコール・薬物医学会雑誌』35(5) p.330-340. 日本アルコール・薬物医学会)
- 清水新二「退職前のストレス：平成10年の自殺率急増をめぐる時代効果と世代効果」(『ストレス科学』14(4) p.222-230. 日本ストレス学会)
- Shimizu, Shinji; Aso, Katsuro; Noda, Tetsuro; Ryukei, So; Kochi, Yoshiro; Yamamoto, Noriya. "Natural Disasters and Alcohol Consumption in a Cultural Context: The Great Hanshin Earthquake in Japan" 'Addiction.' 95(4) p.529-536. Society for the Study of Addiction to Alcohol and Other Drugs.
- 杉井潤子「高齢社会と老人虐待」(『教育と医学：特集家庭における暴力』2000(11) p.33-41. 慶應義塾大学出版会)
- 杉井潤子「臨床社会学における「介入」(Intervention)」(『現代のエスプリ：臨床社会学の展開』393 p.72-82. 至文堂)
- Tomoda, Hiroko. "Understanding Domestic Violence, Child Abuse and Its Care" 'Violence and Health.' p.225-232. WHO centre for Health Development.
- 矢島正見「子どもの説明能力と暴力との関係」(『紀要』183 (社会学科10) p.23-39. 中央大学文学部)
- 矢島正見「性犯罪に対しての男と女の構図：大学生の調査から」(『犯罪と非行』124 p.100-118. (財)日立みらい財団)
- 矢島正見「青少年を取り巻く性文化状況：援助交際少女のつくられ方」(『刑政』111(5) p.28-36. (財)矯正協会)
- 矢島正見「青少年健全育成の今日的課題：性をめぐって」(新倉 修・横山 実(編) 『少年法の展望：澤登俊雄先生古希祝賀論文集』 p.101-119. 現代人文社)
- 山本 功「〈被害者〉というレトリック：東京都における淫行処罰規定制度過程から」(『犯罪社会学研究』25 p.49-66. 日本犯罪社会学会)
- 山本 努「社会病理学・社会問題研究の「これまで」と「これから」」(『現代の社会病理』(15) p.1-5. 日本社会病理学会)
- Yokoyama, Minoru. "Activities for Prevention of Juvenile Delinquency in Community in Japan" 'Tanulmanyok Vig. Jozsef 70. Szuletésnapjára.' p.292-307. ELTE Állam-és Jogtudományi Kar.
- Yokoyama, Minoru. "Change in Japanese Organized Crime and Enforcement of the Law to Cope with Boryokudan in 1992" 'Kokugakuin Journal of Law and Politics.' 38(3) p.1-33. Seibun-do.
- Yokoyama, Minoru. "Development of Educative Treatment in Juvenile Training Schools in Japan" 'Caribbean Journal of Criminology and Social Psychology.' 5 p.237-259. Centre for Criminology and Criminal Justice, UWL.
- Yokoyama, Minoru. "Volunteers' Activities for Treatment of Juvenile Delinquents in Japan" 'The Book to Memorize Retirement of Prof. Han-kyo Lee. Issues and Reviews of Criminal Law in Korea and Japan.' p.681-697. Whasungsa.
- 横山 実「少年院の形成」(新倉 修・横山 実(編) 『澤登俊雄先生古希祝賀論文集：少年法の展望』 p.291-309. 現代人文社)

- 横山 実「日本少年法の下での施設内處遇」(『江原法學』12 p.415-428. 江原土學校比較法學研究所)
 米川茂信「学校教師の逸脱観と逸脱者観」(『淑徳大学大学院研究紀要』7 p.57-74. 淑徳大学大学院)
 米川茂信「成熟社会に見る人びとの逸脱観の実態」(『淑徳大学社会学部研究紀要』34 p.121-142. 淑徳大学社会学部)
 好井裕明「『啓発する言説構築』から『例証するフィールド・ワーク』へ：排除と差別のエスノメソドロジー再考」(好井裕明・桜井 厚(編) 『フィールドワークの経験』 p.146-160. せりか書房)

19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care)

- Fujimura, Masayuki. "The Welfare State the Middle Class and the Welfare Society" 'Review of Population and Social Policy.' 9 p.1-23. National Institute of Population and Social Security Research.
 藤村正之「家族介護と社会的介護」(藤崎宏子(編) 『親と子：交錯するライフコース』 p.296-326. ミネルヴァ書房)
 藤村正之「家族政策における福祉多元主義の展開」(副田義也・樽川典子(編) 『現代家族と家族政策』 p.217-247. ミネルヴァ書房)
 藤村正之「日本の社会福祉の50年：戦後から構造改革まで」(仲村優一・一番ヶ瀬康子(編) 『世界の社会福祉7：日本』 p.48-86. 旬報社)
 藤村正之「福祉政策にとっての地域社会：社会政策研究の空間論的展望」(『社会政策研究』1 p.95-117. 東信堂)
 藤澤三佳「医療と臨床社会学のパスベクティブ」(大村英昭(編) 『臨床社会学を学ぶ人のために』 p.47-70. 世界思想社)
 富士田邦彦「福祉社会とは何か」(富士田邦彦(編) 『福祉社会を築く：21世紀日本の展望』 p.1-19. 文理閣)
 Hamaguchi, Haruhiko. "Aspects of Care and Welfare Resources in Aging Japan" 'Human, Aging, and Society.' 2 p.116-144.
 羽田 新「生活問題としての出稼ぎ：そのI 戦後日本の出稼ぎの推移と青森県の位置づけ」(『弘前学院大学・短期大学 地域総合文化研究所紀要』12 (別冊) p.41-57. 弘前学院大学)
 橋爪大太郎・伏見憲明「『無出産社会』到来で性別は無意味になる」(伏見憲明(編) 『性の倫理学』 p.109-123. 朝日新聞社)
 島中宗一「保育改革の臨床社会学」(大村英昭・野口裕二(編) 『臨床社会学のすすめ』 有斐閣)
 細田満和子「医療における患者と諸従事者への視座：「チーム医療」の社会学・序説」(『ソシオロギス』24 p.79-95. ソシオロギス編集委員会)
 細田満和子「病院における医療従事者の組織認識：「チーム医療」の理念と実践」(『現代社会理論研究』10 p.253-266. 現代社会理論研究会)
 石沢真貴「十文字町の高齢者の現状と課題：ひとり暮らし高齢者世帯調査から」(『秋田大学教育文化学部研究紀要人文科学研究紀要・社会科学』55 p.11-16. 秋田大学)
 株本千鶴「韓国における老齢手当制度と敬老年金制度の形成過程について」(『人文学報』310 p.25-53. 東京都立大学)
 株本千鶴「韓国のホスピス運動」(ベッカーカール(編) 『生と死のケアを考える』 p.184-204. 法蔵館)
 株本千鶴「老人ホーム利用者のライフヒストリー」(副田義也・樽川典子(編) 『現代社会と家族政策』 p.163-193. ミネルヴァ書房)
 Kaneko, Masahiko. "Health Care Institution Policy in Meiji Period" 'Bulletin of Liberal Arts and Sciences of the National Defense Medical College.' 23 p.39-47. National Defense Medical College.
 片桐資津子「福祉社会学における「生産性」概念」(『経済学論集』53 p.139-155. 鹿児島大学経済学会)
 木下康仁「老いの意味と新郷論」(『老年社会科学』22(3) p.15-21. 日本老年社会科学会)
 小高良友「社会福祉士国家資格の取得効果を考える」(『東海女子大学紀要』19 p.201-216. 東海女子大学)
 小松楠緒子「協同参加型モデル：医師-患者関係における新しい展開」(『バルデスリサーチペーパーシリーズ (英語版)』11 p.1-13. 東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻)
 菰刈 緑「現代家族の危機と変わりゆく家族問題」(清水新二(編) 『要介護老人と家族ケア』 p.86-112. ミネルヴァ書房)
 Kono, Makoto. "The Impact of Modernization and Social Policy on Family Care for Older People in Japan" 'Journal of Social Policy.' 29(2) p.181-203. Cambridge University Press.
 河野 真「書評：福祉ミックス社会への挑戦：少子・高齢時代を迎えて」(『社会政策学会誌』4 p.220-224. ミネルヴァ書房)
 河野 真「日本型福祉国家へのアプローチ：政治的規定要因分析の理論的枠組」(『社会政策研究』1 p.51-73. 東信堂)
 黒田浩一郎「医療社会学への誘い」(『FINANSURANCE』9(1) p.4-13. 明治生命フィナンシユアランス研究所)
 黒田浩一郎「民間医療と正統医療の地政学的「関係」」(佐藤純一(編) 『文化現象としての癒し：民間医療の

- 現在』 p.143-186. メディカ出版)
- 松村直道「転換期にある高齢者の生活スタイル」(『看護』52(8) p.84-87. 日本看護協会)
- 三重野 卓「福祉政策の公平・効率性と社会計画」(三重野 卓・平岡公一(編) 『福祉政策の理論と実際：福祉社会学研究入門』 p.13-34. 東信堂)
- 森 俊大「高齢者の生きがい：通文化的な分析モデルを求めて」(『社会学年誌』41 p.15-29. 早稲田社会学会)
- 森 俊太「高齢者の生きがいの社会構築」(『いわき明星大学人文学部研究紀要』13 p.161-170. いわき明星大学)
- 中垣昌美「科学としての仏教社会福祉研究方法論序説」(古田紹欽(監修代表)・池田英俊・他(編) 『現代日本と仏教IV 『福祉と仏教：救いと共生のために』』 平凡社)
- 中垣昌美「戦時転住政策における日系米国人の生活と福祉」(『四天王寺国際仏教大学紀要』32 p.1-26. 四天王寺国際仏教大学)
- 奥山敏雄「ホスピス、緩和ケアにおける全人主義の意味」(『社会学ジャーナル』(25) p.51-70. 筑波大学社会学研究室)
- 押小路忠昭「研究ノート 明治初期における歯科の成立について：「医制」の発布から「歯科医師法」制定までの経緯」(『社会研究』30 p.98-124. 法政大学大学院社会学専攻委員会)
- 嵯峨座晴夫「21世紀高齢者の生き方：新しい高齢社会構築のための提言」(『生きがい研究』6 p.4-15. 長寿社会開発センター)
- 崎山治男・三井さよ「慢性疾患における医療者-患者関係の考慮に向けて」(『ソシオロジ』45(2) p.69-86. 社会学研究会)
- 佐藤典子「フランスの看護職とDispositionの関係性：歴史的視点に基づいて」(『日仏社会学年報』10 p.81-89. 日仏社会学会)
- 袖井孝子「終末期における高齢者の自己決定と家族」(『日本老年医学会雑誌』37(9) p.717-718. 日本老年医学会)
- Swindle,Ralph Jr.; Heller,Kenneth; Pescosolido,Bernice; Kikuzawa,Saeko. "Responses to Nervous Break-downs in America Over a 40year Period: Mental Health Policy Implication" 'American Psychologist.' 55(7) p.740-749. American Psychological Association.
- 高木俊之「企業保障の国際比較：その類型化および社会保障類型との関連」(武川正吾・佐藤博樹(編) 『企業保障と社会保障』 p.145-159. 東京大学出版会)
- 武川正吾「どうする？ 社会保障 国際競争圧力の中で」(『ひろばユニオン』460 p.34-37. 労働省学習センター)
- 武川正吾「ミレニアム・世紀・デケイド：生活保障を考えるタイムスパン」(『JILIFORUM』9 p.15-21. 生命保険文化センター)
- 武川正吾「沖縄の高齢者福祉をめぐる状況：世界長寿地域宣言と国際都市形成構想のはざままで」(庄司興吉(編) 『冷戦後国際化時代の地域形成と生活様式：沖縄にみるグローカリズムの可能性』 p.83-95.)
- 武川正吾「家族の介護力は元々存在しなかった」(『社会学年報』29 p.35-43. 東北社会学会)
- 武川正吾「市民権の構造転換：一つの素描」(大山 博・炭谷 茂・武川正吾・平岡公一(編) 『福祉国家への視座：揺らぎから再構築へ』 p.119-147. ミネルヴァ書房)
- 武川正吾「地域福祉計画をめぐる諸課題」(『地域福祉計画をめぐる現状と諸課題：平成11年度地域福祉計画に関する調査研究事業報告書』 p.5-10. 全国社会福祉協議会)
- 武川正吾「福祉国家と福祉社会の協働」(『社会政策研究』1 p.29-50. 東信堂)
- 碓井 崧「高齢者福祉サービスにおける資源動員と資源選択：金沢・岡崎調査をもとにして」(橋本和幸(編) 『高齢化社会と生活選択に関する総合的研究：北陸地域と東海地域の比較(平成9～11年度科学研究費補助金研究成果報告書)』 p.37-47. 金沢大学文学部社会学研究室)
- 渡辺 満「NHS予算をめぐる政府・野党間論争」(『広島法学』24(1) p.181-200. 広島大学法学会)
- 矢原隆行「視点としての看護師：「あたりまえのこと」をみるために」(『看護学雑誌』64(11) p.1036-1040. 医学書院)
- 山森 亮「貧困・社会政策・絶対性」(川本隆史・高橋久一郎(編) 『応用倫理学の転換』 p.140-162. ナカニシヤ出版)
- 山森 亮「福祉理論：アマルティア・センの必要概念を中心に」(有賀誠・伊藤恭彦・松井暁(編) 『ポスト・リベラリズム：社会的規範理論への招待』 p.163-179. ナカニシヤ出版)

20. 計画・開発 (Planning, Development)

- 橋本和孝「社会開発・コミュニティ政策」(仲村優一・一番ヶ瀬康子(編) 『世界の社会福祉7：日本』 p.451-468. 旬報社)
- 今西一男「「まち」を起点に社会のあり方問う住民運動を」(『住民と自治』442 p.52-55. 自治体問題研究所)
- 角 一典「ポスト高度経済成長期における日本の行政投資」(『北海道大学文学研究科紀要』102 p.229-254. 北海道大学文学研究科)

鳥越皓之「環境からみた社会学の応用可能性」(関西社会学会(編)『関西社会学会のあゆみ』 p.24-37. 関西社会学会)

21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology)

- 赤堀三郎「イギリスの総合社会調査: British Social Attitudes Survey」(佐藤博樹・石田 浩・池田謙一(編)『社会調査の公開データ: 2次分析への招待』 p.93-96. 東京大学出版会)
- 土井隆義「普遍化のまなざし、個別化のまなざし: 「心の時代」における臨床社会学」(『社会学ジャーナル』 25 p.1-11. 筑波大学社会学研究室)
- 後藤範章「統計調査をめぐる課題とその対応策」(『調査環境悪化の下での世帯調査手法及び標本設計の在り方に関する研究報告』 p.26-42. 1999年度厚生統計協会委託研究事業報告書)
- 稲葉昭英「公開データ利用型の調査教育の勧め」(佐藤博樹・石田 浩・池田謙一(編)『社会調査の公開データ: 2次分析への招待』 p.35-50. 東京大学出版会)
- 鎌田とし子「実証主義社会学の伝統を受けつぐ」(『現代社会学研究』(13) p.1-26. 北海道社会学会)
- 木村邦博「数理のめがねで社会を見る: 数理モデルの構築と解析」(今田高俊(編)『リアリテイの捉え方: 社会学研究法』 p.210-231. 有斐閣)
- 儘田 徹「非統計的社会調査の方法論をめぐって: 参与観察法を中心に」(『愛知県立看護大学紀要』 6 愛知県立看護大学)
- 真鍋一史「国際比較調査におけるレスポンス・スケールの等価性に関する研究(1)」(『関西学院大学社会学部紀要』 86 p.107-116. 関西学院大学社会学部研究会)
- 真鍋一史; 栗田真樹; ホルスト・スウェン; バニウエンスウイズ、ブルノ「R.Inglehartの「世界価値観調査データ」の二次的分析のための準備作業(3)」(『関西学院大学社会学部紀要』 84 p.189-208. 関西学院大学社会学部研究会)
- 真鍋一史; バニウエンスウイズ、ブルノ「R.Inglehartの「世界価値観調査データ」の二次的分析のための準備作業(4)」(『関西学院大学社会学部紀要』 85 p.167-187. 関西学院大学社会学部研究会)
- 三浦直子「有賀社会学の批判的継承に向けて: 学史研究の今日的意義」(『三田社会学』 5 p.84-88. 三田社会学会)
- 野宮大志郎「第1章: SASを使う前に」(野宮大志郎・池 周一郎・稲葉昭英・杉野 勇(編)『SASプログラミングの基礎: A Gentle Introduction』 p.2-8. ハーベスト社)
- 野宮大志郎「第2章: SASの起動と実行」(野宮大志郎・池 周一郎・稲葉昭英・杉野 勇(編)『SASプログラミングの基礎: A Gentle Introduction』 p.9-21. ハーベスト社)
- 野宮大志郎「第3章: データの構造とプログラム」(野宮大志郎・池 周一郎・稲葉昭英・杉野 勇(編)『SASプログラミングの基礎: A Gentle Introduction』 p.22-41. ハーベスト社)
- 野宮大志郎「第9章: 関係のさらなる研究」(野宮大志郎・池 周一郎・稲葉昭英・杉野 勇(編)『SASプログラミングの基礎: A Gentle Introduction』 p.105-112. ハーベスト社)
- 奥山真知「イスラエル・パレスチナの社会学的研究の動向と今後の課題」(奥山真知・加納弘勝(編)『地域研究入門(4): 中東・イスラム社会研究の理論と技法』 p.196-232. 文化書房博文社)
- 渋谷知美「構築主義的歴史社会学の可能性: 赤川学「セクシュアリティの歴史社会学」を読む」(『Sociology Today』 10 p.133-143. お茶の水社会学研究会)
- 杉浦郁子「「ライフヒストリーを記述する」実践を記述する: 「レズビアン」カテゴリーの使用法をめぐって」(好井裕明・桜井 厚(編)『フィールドワークの経験』 p.133-144. せりか書房)
- 店田廣文「エジプトにおける地域研究と社会調査」(奥山真知・加納弘勝(編)『地域研究入門(4)』 p.96-113. 文化書房博文社)
- 太郎丸 博「量的変数における二変数間の関係」(野宮大志郎・稲葉昭英・池 周一郎・杉野 勇(編)『SASプログラミングの基礎: Gentle Introduction』 p.90-104. ハーベスト社)

22. 経 済 (Economy)

巽 健一「ポスト消費社会の行方」(『金城学院大学論集社会科学編』 42 p.47-63. 金城学院大学)

23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History)

- 藤澤三佳「生活史法と家族研究」(谷 富夫(編)『民族関係における結合と分離のメカニズム』 p.527-542. 文部省科学研究費研究報告書)
- 今田絵里香「少女雑誌に見る近代少女像の変遷: 「少女の友」分析から」(『北海道大学大学院教育学研究科紀要』 82 p.121-164. 北海道大学大学院教育学研究科)
- 井上孝夫「畠山重忠と鉄の伝説」(『千葉大学教育学部研究紀要』 48(2) p.9-19. 千葉大学教育学部)

- 木脇奈智子「男性の子育てで参画を促す要因の検討：文献にみる「新しい父親像」を中心に」(『羽衣学園短期大学研究紀要』36 p.53-61. 羽衣学園短期大学)
- 駒井 洋「日本の社会知の可能性：柳田民俗学をこえて」(駒井 洋(編)『日本の社会知の死と再生：集団主義神話の解体』 p.333-365. ミネルヴァ書房)
- 真鍋祐子「日本人学者はなぜ韓国巫俗を研究するか：自己内省からポストモダンの民俗学へ」(『筑波大学地域研究』18(地域研究研究科25周年記念号) p.141-155. 筑波大学大学院地域研究研究科)
- 森岡清美「明治維新期における大イエの解体」(『淑徳大学大学院研究紀要』7 p.1-40. 淑徳大学大学院)
- 西脇和彦「マス・サバービア考(III)：Populuxeの視点から」(『学苑』726 p.95-110. 昭和女子大学近代文化研究所)
- 落合恵美子「家族史総論」(速水融(編)『科学研究費創成的基礎研究「ユーラシア社会の人口・家族構造比較史」最終報告書』 p.94-101.)
- 落合恵美子「世帯」(速水融(編)『科学研究費創成的基礎研究「ユーラシア社会の人口・家族構造比較史」最終報告書』 p.102-112.)
- 斎藤達次郎「西南中国少数民族の洪水説話」(『環太平洋研究』2 名古屋経済大学環太平洋研究所)
- 渋谷知美「童貞」差別の歴史的考察：男の性的成熟に対する意味づけをめぐる」(『木野評論』31 p.178-185. 青幻舎)
- 玉利智子「日本における百貨店の社会文化的機能とジェンダーアイデンティティの形成：百貨店女性店員にみる近代都市文化と百貨店の社会史」(『文化経済学』2(2) p.71-84. 文化経済学会)

24. 法 律 (Law)

- 横山 実「Martin Wrightの「修復司法」の理念」(『犯罪科学』22 p.12-17. 中央大学犯罪科学研究会)

25. 民族問題・ナショナリズム (Ethnic Problems, Nationalism)

- 朝水宗彦「オーストラリアにおけるアボリジナル・ツーリズムに関する一研究」(『日本観光学会誌』(36) p.1-12. 日本観光学会)
- 朝水宗彦「ニュージーランドにおけるマオリ政策少史」(『北見大学論集』23(1) p.61-85. 北海学園北見大学)
- 朝水宗彦「ニュージーランドへ向かう訪問者」(『オーストラリア研究紀要』(26) p.177-189. 追手門学院大学)
- 朝水宗彦「多民族・多文化社会に関する学際的研究アプローチ」(『北見大学論集』22(2) p.155-173. 北海学園北見大学)
- Churiki,Eri. “Une Filiere Selective des L’ecole Maternelle : L’enseignement de la <Langue Regionale> en Alsace et ses Enjeu” ‘Regards Sociologiques.’ 19 p.95-113.
- Hara,Mariko. “How Far Are Japanese Wartime Newsreels Reliable Academic Sources? : A View from the Perspective of Socio-Cultural Anthropology” ‘Iconics.’ 5 p.73-92. The Japan Society of Image Arts and Sciences.
- 長谷川秀樹「『フランス系カナダ人』の多元性：プリンスエドワード島のアカディアンとフランス語州法」(『立命館大学言語文化研究』11(4) p.191-201. 立命館大学国際言語文化研究所)
- 長谷川秀樹「現代フランスにおける言語問題：地域語と欧州少数言語憲章をめぐる」(『立命館国際研究』12(3) p.217-234. 立命館大学国際関係学会)
- 長谷川秀樹「民族とメディア：フランス・コルシカを事例に」(『千葉大学社会文化科学研究』4 p.15-37. 千葉大学大学院社会文化科学研究科)
- 樋口直人「外国人の政治参加」(宮島喬(編)『立教大学国際シンポジウムプロシーディングス』 p.49-55. 立教大学)
- 樋口直人「自治体の国際化政策と諮問機関」(宮島喬(編)『外国籍住民と社会的・文化的受け入れ施策』 p.45-56. 科学研究費報告書)
- 樋口直人「対抗と協力：市政決定メカニズムの中で」(宮島喬(編)『外国人市民と政治参加』 p.20-38. 有信堂)
- 樋口直人・丹野清人「食文化の越境とハラール食品産業の形成：在日ムスリム移民を事例として」(『徳島大学社会科学研究』13 p.99-131. 徳島大学)
- Igarashi,Yasumasa. “Strategies for Global Migration Among Pakistani Workers in Japan” ‘Asian and Pacific Migration Journal.’ 9(3) p.375-385. Scalabrini Migration Center.
- 五十嵐泰正「『外人』カテゴリーをめぐる4類型：職場における人種間関係の事例研究から」(『社会学評論』51(1) p.54-70. 日本社会学会)
- 石原 俊「島嶼地域をめぐる〈移住〉の社会学：小笠原諸島をめぐる歴史民族誌の再文脈化作業から」(『京都社会学年報』8 p.51-79. 京都大学文学部社会学研究室)
- 石井由香「後発受け入れ国の外国人労働者政策：1990年代マレーシアの事例」(梶田孝道(編)『人の国際移

- 動と現代国家：移民環境の激変と各国の外国人政策の変化』 p.135-148. 法務省入国管理局委託研究報告書)
- 真鍋祐子「現代韓国のナショナリズムとツーリズム：白頭山への巡礼観光をめぐる」(『旅の文化研究所研究報告』9 p.79-90. 旅の文化研究所)
- ましこヒデアノリ「単一言語支配をかんがえるために：単行本を中心とした文献案内」(『ことばと社会：多言語社会研究』3 p.139-150. 三元社)
- 南川文里「エスニック・ニッチの確立と移民のエスニック化：ロサンゼルス日系移民都市商業の歴史的展開を通して」(『日本都市社会学会年報』(18) p.83-99. 日本都市社会学会)
- Moehwald,Ulrich. "Trends in Value Change in Contemporary Japan" 'Globalization and Social Change in Contemporary Japan.' p.55-75. Trans Pacific Press.
- Moehwald,Ulrich. "Wertetypen und Einstellungen zur Arbeit" 'JapanWelten: Aspekte der deutschsprachigen Japanforschung - Festschrift für Josef Kreiner zu seinem sechzigsten Geburtstag von seinen Schülern und Mitarbeitern.' p.103-136. Bier'sche Verlagsanstalt.
- メーワルト,ウルリッヒド「ドイツ人と在ドイツ移民について」(『中部大学国際研究』16)
- 野村浩也「植民地主義と共犯化：沖縄から考えるポストコロニアリズム」(『解放社会学研究』14 p.20-38. 日本解放社会学会)
- 小熊英二「〈書評論文〉上野千鶴子著『ナショナリズムとジェンダー』」(『社会学評論』51(3) p.331-334. 日本社会学会)
- 岡本智周「書評：西尾幹二『国民の歴史』」(『Waseda Journal of Asian Studies』21 p.83-91. 早稲田大学国際教育センター)
- 岡本智周「日系アメリカ人の同化とエスニシティ：世代間変化についてのレビューと分析」(『社会学年誌』41 p.97-111. 早稲田社会学会)
- 岡本智周「歴史教科書知識に表現されるナショナリズムの変質：1990年代アメリカ合衆国の国民教育」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』45(1) p.87-95. 早稲田大学大学院文学研究科)
- 岡本智周・山舗満代「ニューヨーク市の東アジア人：流入パターンの相違とエスニックエンクレイブの機能について」(『ソシオロジカル・ペーパーズ』9 p.15-36. 早稲田大学大学院社会学院生研究会)
- 酒井千絵「ナショナル・パウンダリーにおける交渉：香港で働く日本人の語りから」(『社会学評論』51(3) p.314-330. 日本社会学会)
- 佐藤成基「ナショナリズムのダイナミックス」(『社会学評論』51(1) p.37-53. 日本社会学会)
- 関根康正「インドにおける「宗教対立」現象と脱近代の模索：「コミュニナリズム」の彼方へ」(中牧弘允・総合研究開発機構(編)『現代世界と宗教』 p.89-111. 国際書院)
- 関根康正「生活世界の信仰から見直すコミュニナリズム現象：チェンナイ(マドラス)市における1994~1998年の参与観察と聞き書きを中心に」(『東洋文化』80 p.1-76. 東京大学東洋文化研究所)
- 塩原良和「社会学におけるナショナリズム研究の理論的展開」(『法学政治学論究』46 p.569-591. 慶應義塾大学大学院法学研究科内法学政治学論究刊行会)
- 塩原良和「多文化主義における「ネイションの再想像」：オーストラリアの文化政策言説に関する政治社会的考察」(『法学政治学論究』44 p.35-58. 慶應義塾大学大学院法学研究科内法学政治学論究刊行会)
- 上野千鶴子「〈リプライ〉『ナショナリズムとジェンダー』書評論文リプライ」(『社会学評論』51(3) p.335-337. 日本社会学会)
- 渡辺雅子;石川雅典;小嶋 茂;小林本多ちえみエレナ「在日ブラジル人児童生徒の教育の実態と課題」(『研究所年報』30 p.65-82. 明治学院大学社会学部附属研究所)
- Yamanoto,Kahoruko. "Newcomer Migrant Workers in the Underclass: A Yokohama, Japan Case Study" 'International Journal of Japanese Sociology.' 9 p.121-136. Japan Sociological Society.
- 材木和雄「クロアチア人・セルビア人・ムスリム人の形成」(浅野敏久・於保幸正・開発一郎・小島基・富岡庄一・水羽信男(編)『異文化：I.BUNKA (21世紀の教養2)』 p.199-209. 培風館)
- 材木和雄「海外労働事情：世界の労働者意識・ユーゴスラヴィアの事例」(広島県福山商工労政事務所(編)『広島県労働大学専門講座』 p.59-66. 広島県福山商工労政事務所)

26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕 (Comparative Study, Area Study)

- 赤坂真人「中国住民統治制度の歴史的変遷：中国都市住民組織の文化的基底」(『吉備国際大学社会学部研究紀要』10 p.1-14. 吉備国際大学社会学部)
- 赤坂真人・殷 秀・倉田和四生「中国都市社区建設の歴史的変遷」(『吉備国際大学社会学部研究紀要』10 p.89-101. 吉備国際大学社会学部)
- 朝水宗彦「オーストラリアにおけるアボリジナル・ツーリズムに関する研究」(『日本観光学会誌』36 p.1-12. 日本観光学会)
- 朝水宗彦「オーストラリアにおける観光政策と地域開発」(『開発政策研究』(2) p.32-55. 北海学園北見大学)
- 船橋恵子「スウェーデンにおける育児・看護休業制度」(『資料シリーズNo.105)諸外国における育児・介護休業制度：ドイツ・フランス・スウェーデン』 p.43-76. 日本労働研究機構)

- 船津鶴代「タイの教育改革の新展開：スマリーの告発と都市の選抜制度の改革」(『アジア研ワールドトレンド』 62 p.40-47. 日本貿易振興会アジア経済研究所)
- 船津鶴代「環境政策：環境の政治と住民参加」(末廣昭・東茂樹(編) 『タイの経済政策：制度・組織・アクター』 p.307-341. 日本貿易振興会アジア経済研究所)
- 春木育美「軍隊と韓国男性：兵役が韓国男性に与える影響」(『同志社社会学研究』 4 p.53-65. 同志社社会学研究会)
- 橋爪大三郎「21世紀文明はどこへ向かうのか」(『比較文明』 16 p.8-18. 比較文明学会)
- 服部範子・浦野俊美・富田幸子「デンマークにおける男女平等政策と結婚・家族の現状」(『家庭科教育』 74(6) p.11-17. 家政教育社)
- 池田寛二「経済危機下の西ジャワにおける農業の転換と社会変動：2つの村の比較研究」(広瀬昌平(編) 『地域資源の持続的管理に関する総合的研究(科学研究費研究成果報告書)』 p.159-170. 日本大学生物資源科学部)
- 池田寛二「東南アジアの社会変動と社会学：インドネシアを中心にして」(『情況』 109(別冊) p.272-290. 情況出版)
- 株本千鶴「失業・貧困・欠食：韓国における欠食児童の再発見」(『母子研究』 20 p.61-80. 社会福祉法人真生会)
- 金森俊樹「2000年を迎えたアルバニア経済」(『ロシア東欧貿易調査月報』 45(5) 8p. ロシア東欧貿易会ロシア東欧経済研究所)
- 小林和美「韓国農村における教育問題と人口移動：大邱広域市近郊農村の事例」(『大阪教育大学紀要第II部門』 48(2) p.75-88. 大阪教育大学)
- 小松丈晃「グリーン・ツーリズムの導入とその受容過程：宮城県田尻町の事例を手がかりに」(『文化』 64(1/2) p.109-128. 東北大学文学部)
- 熊田俊郎「中国の地方制度：その概要と地方の自律性」(『比較法文化』 8 p.59-80. 駿河台大学比較法研究所)
- 熊谷苑子・枅渦俊子・松戸庸子・田嶋淳子「沿海地帯農村における女性出稼ぎ労働者：蘇南M村の事例」(菱田雅晴(編) 『現代中国の構造変動5社会：国家との共棲関係』 p.69-101. 東京大学出版会)
- 陸麗君・南裕子「農村における基層組織の再編成と村民自治：ハードな統治からソフトな統治へ」(菱田雅晴(編) 『現代中国の構造変動5社会：国家との共棲関係』 p.165-188. 東京大学出版会)
- 宮内泰介「ソロモン諸島マライタ島における出稼ぎと移住の社会史：1930～1990年代」(吉岡政徳・林勲(編) 『オセアニア近代史の人類学的研究：接触と変貌、住民と国家(国立民族学博物館研究報告別冊21号)』 p.237-260. 国立民族学博物館)
- 中島徹郎・服部範子「ネパールの山村女性とエンパワーメント」(『現代の社会病理』 15 p.69-82. 日本社会病理学会)
- Nakano, Makoto. "A Common Language and Creating a Community ; A Note on a Field Research" 'Bulletin of Fukuyama City Junior College for Women.' 26 p.81-90. Fukuyama City Junior College for Women.
- 野津幸治「プッタート比丘の母親観：「正法母」の思想」(『南方文化』 (27) p.1-17. 天理南方文化研究会)
- 奥山真知「イスラエル・パレスチナの社会学的研究の動向と今後の課題」(奥山真知・加納弘勝(編) 『地域研究入門(4):中東・イスラム社会研究の理論と技法』 p.196-232. 文化書房博文社)
- 佐藤裕「居住改善事業をめぐる住民参加の現状とその問題点：インド・アーメダバード市「スラム・ネットワーク計画」の事例から」(『地域社会学年報』 第12集 p.159-182. ハーベスト社)
- 武田祐佳「韓国の都市における「伝統的」相互扶助組織の内部構造：ソウル市の契の事例から」(『ソシオロジ』 45(2) p.87-102. 社会学研究会)
- 店田廣文「エジプトの1996年人口センサス報告」(『人間科学研究』 13(1) p.127-136. 早稲田大学)
- 坪内良博「地域性の形成論理」(坪内良博(編) 『地域形成の論理』 p.2-22. 京都大学学術出版会)

27. 差別問題 (Discrimination Problems)

- 福岡安則「「無知」と「差別する可能性」：1998年度千葉県内3市町住民意識調査から」(『埼玉大学紀要(教養学部)』 35(2) p.29-35. 埼玉大学教養学部)
- 原口弥生「「当事者はずし」としての環境汚染地買収と住民移転：米国「ガン街道」における環境汚染と人種差別」(『環境社会学研究』 (6) p.192-199. 環境社会学会)
- 石川准「デイスアビリティの政治学：障害者運動から障害学へ」(『社会学評論』 50(4) p.154-170. 日本社会学会)
- 石川准「平等派でもなく差異派でもなく」(倉本智明・長瀬修(編) 『障害学を語る』 p.28-42. エンパワメント研究所)
- 鐘ヶ江晴彦「キャンパス・セクシュアルハラスメントの実態：女子学生に対するアンケート調査の分析から」(『解放社会学研究』 14 p.134-156. 日本解放社会学会)

- 鐘ヶ江晴彦「東京都「人権に関する世論調査」の問題点」(『すいへい・東京』13 p.2-27. 東京部落解放研究所)
- ましこヒデノリ「帝国の幻影：同化主義・排除意識・被害妄想」(『解放社会学研究』14 p.3-19. 日本解放社会学会)
- 奥田 均「さめともに「人権のまち」建設へ」(『あすばる』2 p.4-14. (社)甲賀郡人権センター)
- 奥山峰夫「部落の変化と問題解決の到達段階」(『経済科学通信』92 p.29-34. 基礎経済科学研究所)
- 関根康正「差別の起源：なぜ「不浄」と「ケガレ」との区別が必要か？」(『歴史学研究月報』493 p.1-3. 歴史学研究会)
- 上杉孝實「カテゴリー処理の社会的機能」(『解放研究しが』10 p.69-78. 反差別国際連帯解放研究所しが)
- 八木晃介「葛藤(紛争)理論と差別」(『人権教育研究』8 p.111-136. 花園大学人権教育研究室)
- 八木晃介「差別・反差別のアイデンティティ論」(花園大学人権教育研究室(編)『カオスの中の社会学：花園大学人権論集vol.7』p.128-156. 批評社)
- 八木晃介「対話型社会教育について」(『解放研究しが』10 p.9-20. (社)反差別国際連帯解放研究所しが)

28. 性・世代 (Gender, Generation)

- 天野正子「くまなごし」にみる老いの日本近代」(『歴史評論』608 p.32-48. 歴史科学協議会(校倉書房))
- 天野正子「子どもの原風景と地域空間」(藤竹 暁(編)『現代のエスプリ：現代人の居場所』p.83-94. 至文堂)
- 橋本健二「スクール・セクシュアル・ハラスメントとは何か」(『高校生活指導』2000(春号) p.14-18. 青木書店)
- 布施晶子「〈書評論文〉鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子編『講座社会学 14 ジェンダー』」(『社会学評論』50(4) p.641-647. 日本社会学会)
- 伊藤美緒「誘惑する女リリス：どこにもいない女」(『Becoming』5 p.55-68. BC出版)
- 岩井八郎・真鍋倫子「M字型就業パターンの定着とその意味：女性のライフコースの日米比較を中心に」(盛山和夫(編)『ジェンダー・市場・家族』p.30-55. 東京大学出版会)
- 神林博史「性役割意識はアスピレーションに影響するか？：高校生女子のアスピレーションの規定因に関する計量的研究」(『理論と方法』15(2) p.359-374. 数理社会学会)
- 神林博史「日本における性役割意識研究の動向と課題」(『社会学研究』68 p.147-168. 東北社会学研究会)
- 櫻村愛子「新宗教の女性教祖と日本近代国家」(井桁 碧(編)『「日本」国家と女』p.289-321. 青弓社)
- 片岡栄美「ジェンダー・ハビトゥスの再生産とジェンダー資本」(宮崎和夫・米川英樹(編)『現代社会と教育の視点』p.177-200. ミネルヴァ書房)
- 加藤朋江「「月経」指導と調査の近代」(『母子研究』20 p.51-60. 社会福祉法人真生会社会福祉研究所)
- 加藤朋江「セクシュアリティと家族」(増子勝義(編)『新世紀の家族探し：おもしろ家族論』p.131-141. 学文社)
- Kimura, Kunihiro. "Being Unmarried Under Sex Discrimination and Inequality within the Sexes; A Simple Model" 'Sociological Theory and Methods.' 15(2) p.375-382. Japanese Association for Mathematical Sociology.
- 小原一馬「かわいいおばあちゃん：女子大生の「かわいい」の語法に見られる、ライフコース最終期に関する社会の葛藤する価値観の止揚」(『研究紀要 教育・文化・社会』7 p.25-43. 京都大学大学院教育学研究科教育社会学(他)研究室)
- 松信ひろみ「就業女性にとっての職業と子育て：「子育てよりも仕事」は本当か？」(目黒依子・矢澤澄子(編)『少子化時代のジェンダーと母親意識』p.149-168. 新曜社)
- Michinobu, Ryoko. "Conceiving a New Sexual Morality: Factory Women's Sexuality and HIV Risk in Northern Thailand" 'The Japanese Journal of Health Behavioral Science.' p.145-163.
- 牟田和恵「「良妻賢母」思想の表裏：近代日本の家庭文化とフェミニズム」(青木保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄(編)『近代日本文化論 8：女の文化』p.23-46. 岩波書店)
- 永田えり子「公私の分離は必要か？：フェミニズムと公共性」(〈特集〉200号記念 特集・21世紀への社会学的想像力：新しい共同性と公共性) (『社会学評論』50(4) p.603-616. 日本社会学会)
- 中田奈月「男性保育者のライフコース：キャリアの実態から」(『社会学論集』p.67-78. 奈良女子大学社会学研究会)
- 中山忠政「地域における男女共同参画社会づくりの展開」(『高知女子大学紀要社会福祉学部編』49 p.77-86. 高知女子大学)
- 西平重喜「女は明るく、男はやさしい：世界青年意識調査から」(『新情報』83 p.1-9. 新情報センター)
- 大野道夫「高校生のキレやすさ」(『モノグラフ高校生』60 p.50-64. ベネッセ教育研究所)
- 佐藤文香「「軍隊と/の女性」論のために：日米の映画における防衛/軍事組織の女性像の変遷から」(『女性学年報』21 p.133-150. 日本女性学研究会)
- 佐藤文香「自衛隊におけるジェンダー：「防衛白書」と自衛官募集ポスターの表象分析から」(『Sociology Today』10 p.60-71. お茶の水社会学研究会)

- 関野幸恵・山根真理「大学生とその親の性規範変容に関する研究:愛知県内で実施した意識調査データの属性分析を通して」(『研究紀要』 31 p.85-97. 愛知教育大学家政学教室)
- 志村明子「戦前日本における女性の自己決定権論の展開」(『ジェンダー研究』 3 p.32-40. 東海ジェンダー研究所)
- 鈴木美南子「日本社会における女性の地位:現状と課題」(『梨花女子大学・フェリス女学院大学学術交流セミナー公開講座』 p.135-162. フェリス女学院大学)
- 多賀 太「ジェンダーと常識:変化と多様性の視点から」(『教育と医学』 48 p.19-25. 教育と医学の会)
- 多賀 太・春日清孝・池田隆英・藤田由美子・氏原陽子「『ジェンダーと教育』研究における〈方法意識〉の検討」(『久留米大学文学部紀要人間科学科編』(16) p.41-80. 久留米大学文学部)
- 上杉孝實「子どもの人権オンブズパーソン制度の発足と展開」(小木美代子・他(編)『子育て学へのアプローチ』 p.138-145. エイデル研究所)
- 上谷香陽「性別をめぐる「社会的なるもの」とは?」(『現代社会理論研究』 10 p.223-233. 現代社会理論研究会)
- 矢島正見・杉浦郁子「同性愛者のライフスタイル」(善積京子(編)『結婚とパートナー関係:問い直される夫婦』 p.105-122. ミネルヴァ書房)
- 山根真理・関野幸恵「大学生とその親,教員の性行動と性意識に関する研究:愛知県データのグループ,男女別クロス分析結果から」(『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学』 49 p.181-188. 愛知教育大学)
- 矢澤澄子「アンペイド・ワークをめぐる国内の研究と議論の現在」(川崎賢子・中村陽一(編)『アンペイド・ワークとは何か』 p.94-107. 藤原書店)
- 矢澤澄子・国広陽子・天童睦子「子育て期の女性の「母アイデンティティ」とジェンダー意識:都市女性のライフスタイルと市民意識調査から」(『東京女子大学社会学会紀要』 28 p.1-24. 東京女子大学社会学会)
- 吉田啓子「キーピング・プロミシーズの主張と運動について」(水田珠枝(編)『ジェンダー研究』 p.22-31. 東海ジェンダー研究所)
- 材木和雄「広島市における「中年」のプロフィール:広島市民意識調査の結果から」(『地域文化研究』 26 p.61-136. 広島大学総合科学部)
- 材木和雄「高齢者予備軍としての中年世代の不安と展望:広島市民意識調査の結果から」(『社会文化研究』 26 p.175-233. 広島大学総合科学部)

29. 知識・科学 (Knowledge, Science)

- 白鳥義彦「明治期の日仏関係と『佛文雑誌』」(『日仏教育学会年報』 6(28) p.45-56. 日仏教育学会)
- 袖井孝子「男女共同参画と地域社会」(大森彌(編)『分権改革と地域福祉社会の形成(分権型社会を創る 11)』 p.13-23. ぎょうせい)
- 袖井孝子・竹田久美子「高齢者の生活と介護」(井口昭久(編)『これからの老年学:サイエンスから介護まで』 p.249-255. 名古屋大学出版会)
- 須田直之「回想のP.A.ソロキン:ある亡命社会学者の栄光と孤独」(『研究紀要』 22(2) p.1-20. 青森大学・青森短期大学学術研究会)
- 鈴木健之「『秘書の社会学』の社会学」(『明の星女子短期大学紀要』 18 p.101-112. 明の星女子短期大学)

30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports)

- 岩本健良「高齢者のライフスタイルと余暇活動」(橋本和幸(編)『高齢化社会と生活選択に関する総合的研究:北陸地域と東海地域の比較』 p.175-181. 金沢大学文学部人間学科社会学研究室)
- 柘瀧俊子「高齢期の余暇と家族」(染谷倭子(編)『老いと家族:変貌する高齢者と家族』 p.81-105. ミネルヴァ書房)
- 南 保輔「ラジオ野球中継の産出資源」(『コミュニケーション紀要』 13 p.51-89. 成城大学大学院文学研究所)
- 須田直之「レジャー社会学のネットワーク分析」(『研究紀要』 22(3) p.49-84. 青森大学・青森短期大学学術研究会)
- 須田直之「時間社会学と地域社会学のレジャー分析視点:構造的レジャー社会学の貢献」(『研究紀要』 22(4) p.81-120. 青森大学・青森短期大学学術研究会)
- 吉兼秀夫「エコミュージアムと地域社会」(石原照敏・吉兼秀夫・安福恵美子(編)『新しい観光と地域社会』 p.84-94. 古今書院)
- 吉兼秀夫「新しい観光と地域社会のあり方」(石原照敏・吉兼秀夫・安福恵美子(編)『新しい観光と地域社会』 p.118-121. 古今書院)
- 吉兼秀夫「伝統的温泉観光地の実態:兵庫県城崎温泉来訪客調査から」(『阪南論集 社会科学編』 36(1)

31. 環 境 (Environment)

- 朝水宗彦「緑のオリンピックとアポリジニ」(『農林統計調査』597 p.35-40. (財)農林統計協会)
- 原口弥生「「当事者はずし」としての環境汚染地買収と住民移転：米国「ガン街道」における環境汚染と人種差別」(『環境社会学研究』6 p.192-199. 環境社会学会)
- 長谷川公一「ダウンストリームへのまなざし：環境問題と環境社会学」(『情況(別冊・現代社会学の最前線3)』11(7) p.234-245. 情況出版)
- 長谷川公一「市民が環境ボランティアになる可能性」(鳥越皓之(編)『環境ボランティア・NPOの社会学：シリーズ環境社会学1』 p.177-192. 新曜社)
- 長谷川公一「放射性廃棄物問題と産業廃棄物問題」(『環境社会学研究』6 p.436-450. 環境社会学会)
- 長谷川公一・田窪祐子「周辺住民の苦悩と不安：JCO臨海事故住民生活影響調査の分析」(『環境と公害』30(2) p.40-46. 岩波書店)
- 長谷川公一・田窪祐子・根本がん「東海村住民と那珂町住民の被害・不満・不安」(JCO臨海事故総合評価会議(編)『JCO臨海事故と日本の原子力行政：安全政策への提言』 p.169-238. 七つ森書館)
- 堀田恭子「長野県中信地域における自然保護行政」(『長野県自然保護研究所紀要』3 p.17-28. 長野県自然保護研究所)
- 飯島賢志「住民のごみ分別意思への影響要因の探索の試み」(『論究』32 p.153-168. 中央大学大学院生研究機関誌編集委員会)
- Iijima.Nobuko. "Environmental Inequalities and Social Interrelationship: Examples from Asia and Australia" 'The Journal of Social Sciences and Humanities.' 309 p.1-26. Tokyo Metropolitan University.
- 飯島伸子「事業所の環境対策実施状況解説：事業所の環境対策に関する調査(その1)」(『総合都市研究』73 p.5-11. 東京都立大学都市研究所)
- 飯島伸子「持続可能な都市への課題：農村との資源・環境共存」(『市政研究』126 p.42-52. 大阪市政調査会)
- 飯島伸子「社会学的生命環境論試論：生命環境主体生存時期別第一タイプ!胎児の生命環境」(『人文学報』309 p.59-81. 東京都立大学)
- 飯島伸子「先住民族対策と社会福祉」(仲村優一・一番ヶ瀬康子(編)『世界の社会福祉：オーストラリア、ニュージーランド』 p.165-183. 旬報社)
- 飯島伸子「地球環境時代における公害・環境問題と環境社会学：加害・被害構造の視点から」(『環境社会学研究』6 p.5-22. 環境社会学会)
- 井上孝夫「日本型の環境保全策を求めて：白神山地の保全を手がかりに」(鳥越皓之(編)『環境ボランティア・NPOの社会学』 p.118-132. 新曜社)
- 片桐新自「港町の活性化と保存：鞆の浦を対象として」(片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』 p.80-105. 新曜社)
- 片桐新自「歴史的環境へのアプローチ」(片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』 p.1-23. 新曜社)
- 森 元孝「〈普通の主婦〉と環境ボランティア：逗子の市民運動から」(鳥越皓之(編)『環境ボランティア・NPOの社会学』 p.62-82. 新曜社)
- 中筋直哉「〈社会の記憶〉としての墓・霊園」(片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』 p.222-244. 新曜社)
- 帯谷博明「漁業者による植林運動の展開と性格変容：流域保全運動から環境・資源創造運動へ」(『環境社会学研究』6 p.148-162. 環境社会学会)
- 荻野昌弘「負の歴史的遺産の保存：戦争・核・公害の記憶」(片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』 p.199-220. 新曜社)
- 杉本久未子「リサイクル型地域社会づくりの可能性と限界：京都府木津町の取り組みを事例として」(『ソシオロジ』44 p.21-37. 社会学研究会)
- 鈴木 広「〈書評論文〉船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』」(『社会学評論』50(4) p.636-641. 日本社会学会)
- 鶴飼照喜「施設と環境」(長野県地方自治研究センター(編)『長野冬季オリンピック白書：県民から見たオリンピック』 p.92-105. 長野県地方自治研究センター)
- 鶴飼照喜「廃棄物処分場問題と住民運動：事業所の環境対策に関する調査(その9)」(『総合都市研究』73 p.103-113. 東京都立大学都市研究所)
- 鶴飼照喜「廃棄物問題と環境社会学の課題」(『環境社会学研究』6 p.126-132. 環境社会学会)
- 渡邊洋之「産業・保護・天然記念物：クジラ類の指定をめぐる」(『生物学史研究』65 p.33-46. 日本科学史学会生物学史分科会)
- 渡邊洋之「渡瀬庄三郎の自然観：生物の移入と天然記念物の制定・指定をめぐる」(『科学史研究』39(213) p.1-10. 日本科学史学会)
- 吉兼秀夫「遺跡保存と住民生活：明日香村の古都保存」(片桐新自(編)『歴史的環境の社会学』 p.27-48.

新曜社)
吉兼秀夫「妻籠の町並み保存」(鳥越皓之(編) 『環境ボランティア：NPOの社会学』 p.99-104. 新曜社)

33. 総論・概説
(Sociology, General)

片桐新自「社会学を考える：社会学の再生を求めて」(『関西大学社会学部紀要』 32(1) p.179-204. 関西大学社会学部)

99. その他
(Others)

横家純一「大学におけるネットワーク管理にかんする社会学的研究」(『相山女学園大学研究論集社会科学篇』 31 p.47-59. 相山女学園大学)

データベース委員会構成 (2000~2003年) 所属は本書発行時点

委員長	板倉 達文 (名古屋大学大学院環境学研究科)
副委員長	浅野 慎一 (神戸大学発達科学部)
委員	老川 寛 (広島国際学院大学現代社会学部)
委員	佐藤 裕 (富山大学人文学部)
委員	田中 重人 (東北大学大学院文学研究科)
委員	三重野卓 (山梨大学教育人間科学部)
委員	安田 雪 (社会ネットワーク研究所)
専門委員	岩本 健良 (金沢大学文学部)
専門委員	河村 則行 (名古屋大学大学院環境学研究科)
専門委員	田淵 六郎 (名古屋大学大学院環境学研究科)

(非売品： 本冊子を希望の方は、B5判の入る大きさの封筒に「冊子小包」と明記して切手180円分を貼り、返送先郵便番号・住所・氏名を明記し、下記の学会事務局まで送付してください。)

(ISSN 1345-580X)

社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology
(Vol. 3. 2000年版)

2002年11月10日 第1版第1刷 印刷

2002年11月10日 第1版第1刷 発行

編集： 日本社会学会データベース委員会

発行： 日本社会学会

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部社会学研究室内

TEL 03-5841-8933 FAX 03-5841-8932

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/>

印刷： 株式会社平河工業社

© 2002 Japan Sociological Society

Database Committee Members (2000–2003)

Chair

Itakura, Tatsubun (Nagoya University)

Vice Chair

Asano, Shinichi (Kobe University)

Members

Oikawa, Hiroshi (Hiroshima Kokusai Gakuin University)

Satoh, Yutaka (Toyama University)

Yasuda, Yuki (Center for the Network Analysis)

Mieno, Takashi (Yamanashi University)

Tanaka, Sigeto (Tohoku University)

Special Members

Iwamoto, Takeyoshi (Kanazawa University)

Kawamura, Noriyuki (Nagoya University)

Tabuchi, Rokuro (Nagoya University)

Not for sale.

Those who want to get a copy of bibliography,
send an envelope (B-5 or legal paper size) with
180-yen postage stamp, your name and address
to Japan Sociological Society.

(ISSN 1345-580X)

Bibliography of Japanese Sociology

(Vol. 3. 2000 edition)

First Printing, November 2002

Editor Database Committee, Japan Sociological Society

Publisher Japan Sociological Society

Department of Sociology, University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, JAPAN

TEL +81-3-5841-8933 FAX +81-3-5841-8932

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/>

Printer .Hirakawa Kogyosha, JAPAN

© 2002 Japan Sociological Society